

14.4  
1108

市勢概要

桐生市役所編  
昭和十四年三月



0032165-000

14.4-1108

桐生市勢概要

桐生市・編

桐生市

昭和14年3月

昭14

AFB



14.4  
1108

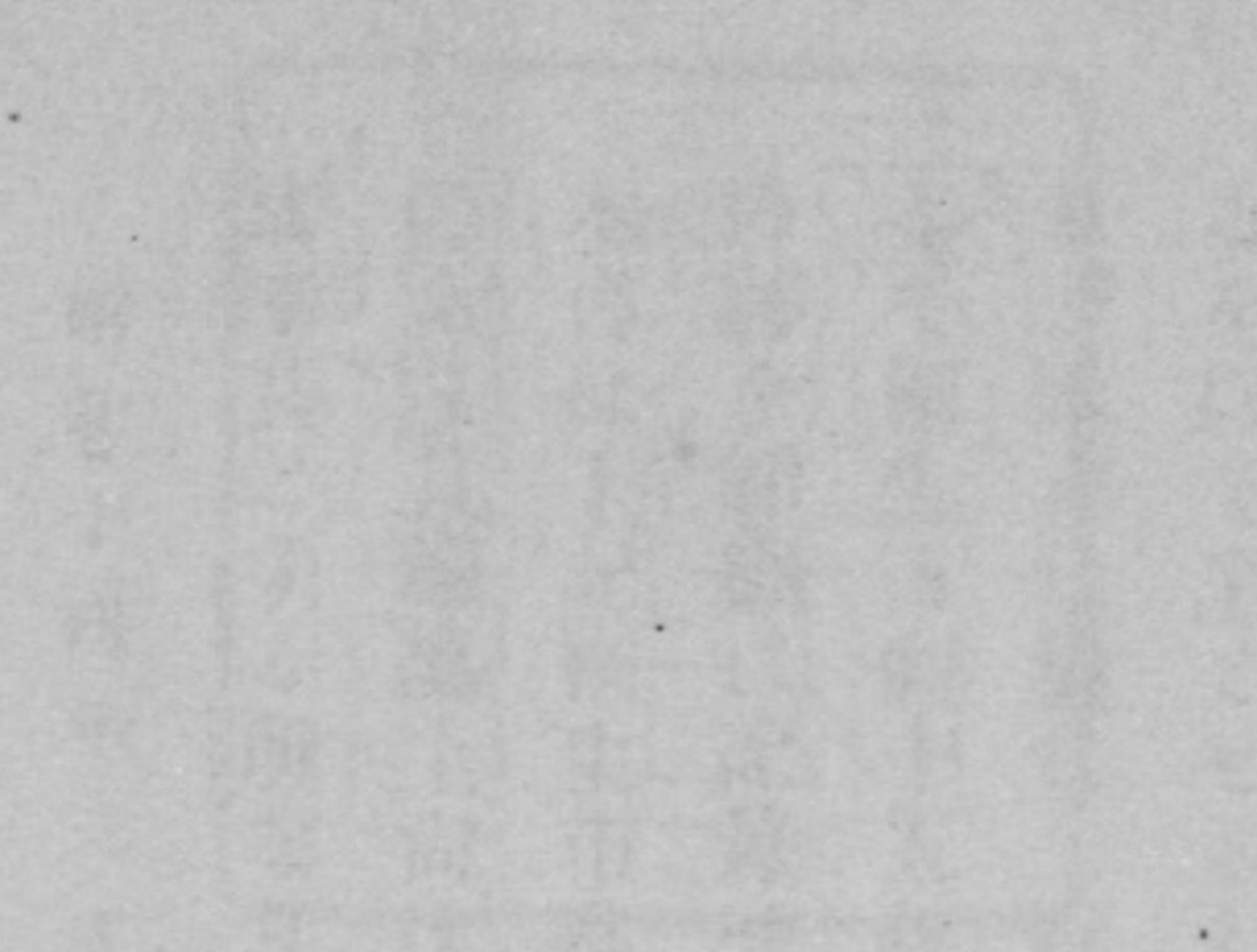
昭和十四年三月

桐生市勢概要

桐生市役所



114  
103



新化市長 關白 謹啟

中華民國二十九年



14.4  
1108

はしがき

本書は桐生市勢概要を叙述せるものなり。即ち土地、戸口、土木、教育、衛生、  
 社会事業、警備、産業、財政、水道其他諸般の都市現象に亘り最近の實状を記す  
 るを以て主とせるものなるも必要と認めたるものは既往に屬する事項をも併記せ  
 る。本市は隼行幸記念として桐生市略史を編纂し又市制施行十五周年記念と  
 して桐生市制十五年誌を上梓し以て上中近世及現代に亘る本市の沿革變遷及發展  
 の跡を詳細に記録せり。  
 本書は上記桐生市略史及桐生市制十五年誌を参考とせる爲或は兩書と重複せるも  
 のあり且編纂上尙ほ盡し得ざる點あるもこの書により本市々勢の一斑を知を得  
 ば幸甚とする所なり。



昭和十四年三月

桐生市長 關口義慶 二



# 桐生市勢概要

## 目次

一、沿革	五
二、土地及人口	八
(一) 土地	八
一、位置及地勢	八
二、廣袤及面積	八
(二) 戶口	一〇
一、戶數及人口	一〇
二、人口動態	一八
三、市行政組織	二〇
(一) 概況	二〇
(二) 議決機關	二〇
(三) 執行機關	二四
(四) 區長及同代理者伍長委員伍長	三五
四、土木及都市計畫	三六
(一) 土木	三六
(二) 都市計畫	四〇



五、教

育

(一) 概説……………五

(二) 小學校及幼稚園……………五

(三) 專門學校及中等學校……………三

(四) 社會教育……………三

一、青年學校……………三

二、青年團……………三

三、圖書館……………三

六、衛

生

(一) 醫療施設及傳染病豫防施設……………六

(二) 齋場及屠場……………七

(三) 汚物掃除……………七

七、社會事業

(一) 概説……………七

(二) 公益質屋……………七

(三) 公設代書……………七

(四) 救護……………七

(五) 方面委員……………六

(六) 託兒所……………六

八、警

備

……………七

九、產

業

(一) 消防……………七

(二) 防空……………八

十、財

政

(一) 概説……………九

(二) 豫算及決算……………九

(三) 市稅……………九

(四) 縣稅及國稅……………九

(五) 諸稅負擔……………九

(六) 市基本財産……………九

(七) 市債……………九

十一、水

道

……………一〇

十二、通信及交通

(一) 郵便局……………一〇

(二) 鐵道……………一〇

(三) 諸車……………一〇

十三、國民精神總動員運動

……………一三

十四、各種團體

○市內及近郊の名所舊蹟……………一七

○市內主要官公衙其他……………一三



# 一、沿革

當地方開發の史實は文献の徴すべきものなく、往古の事詳ならずと雖も市内桐生ヶ岡、新宿三ツ塚等に古墳散在し又延喜式内美和神社及縣社天満宮の由緒等より考察するにその開發は頗る上代に屬するを知るを得べし。往時は荒戸又は荒處と稱し附近一帶荒蕪の原野なりしが天正十八年家康の東國入國後此處に街衢を開き桐生新町と稱せり。桐生の織物か織物の桐生かとまで喩はるる桐生織物の濫觴に就ては之を機神社傳説によれば、人皇第四十七代淳仁天皇の御宇にしてそれ以來時には不振



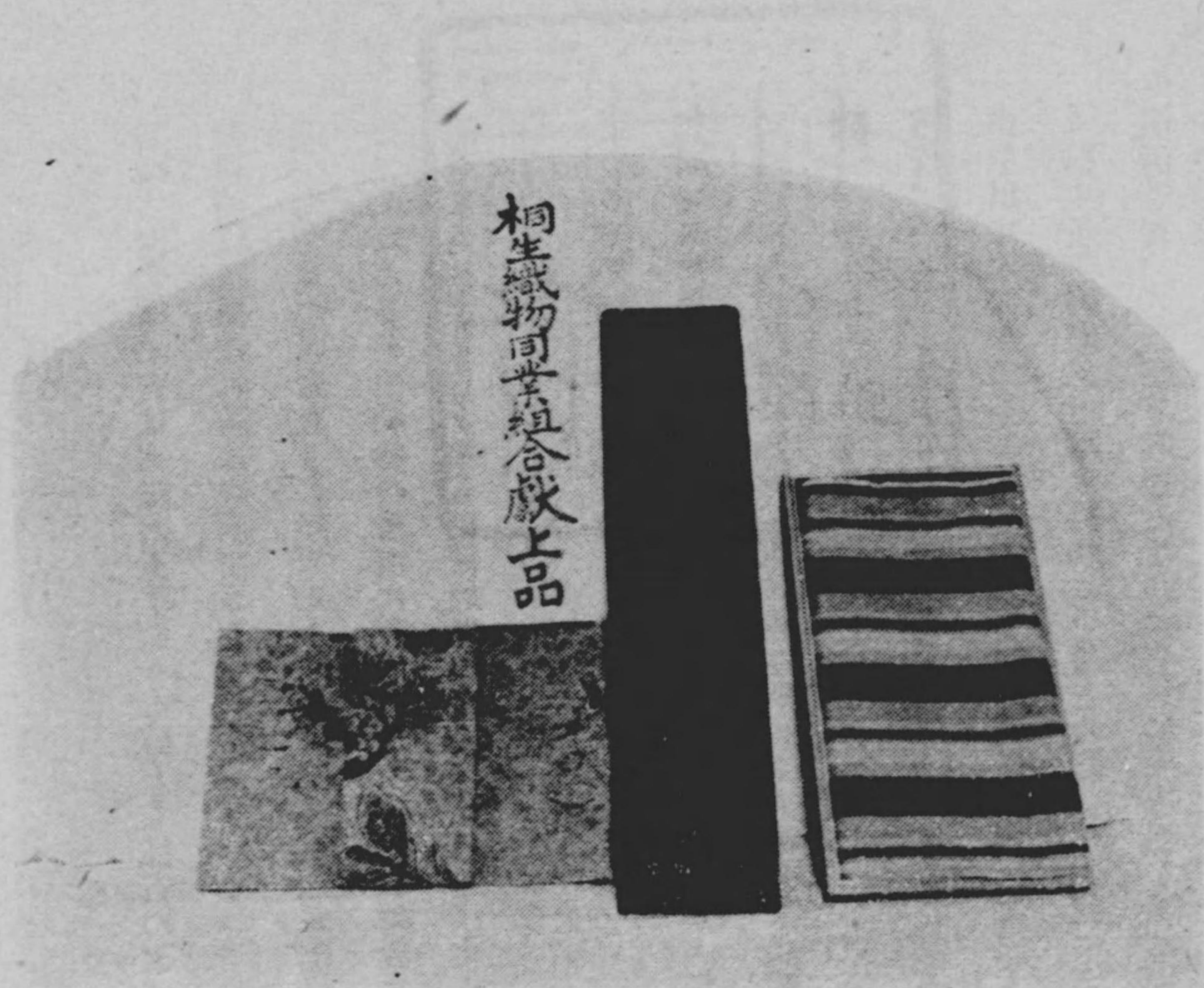
沈滞は免れざりしと雖も比較的順調なる發達を遂げ文化文政時代所謂徳川文化の爛熟期は又近世桐生織物史上の黄金時代に於て機業經營形態は一新時期を畫し手工業として僅かに農家の副業に過ぎざりし桐生の機業を漸次家内工業に移し奉公人雇傭の必要を生じて人口集山の端緒を開けり。

機織技術に於ては京都の織工、染織の方法を傳へこゝに第二の革新を遂げ金欄絲錦、緞子等の高級美術織物を産して名實共に四陣に對し「西に西陣、東に桐生」の名を恣にするに至れり。

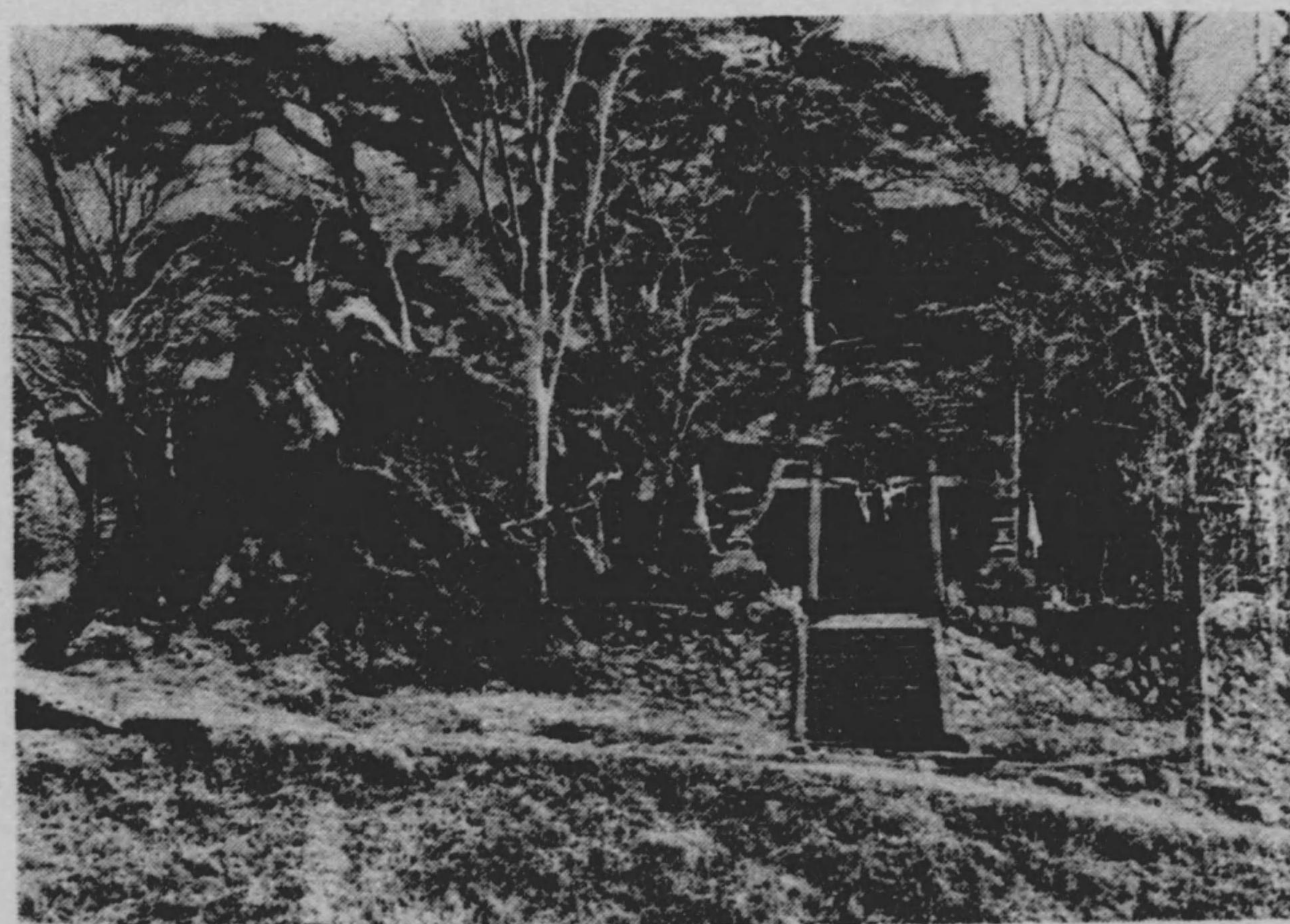
桐生新町人口増加の趨勢を見るに天保十四年東海道宿驛人口調査に依れば三千人に上れるもの五十三次中岡崎、駿府濱松、桑名等の城下町大津、伏見、瀬川、四日市等の港灣都市を除きては僅かに十六に過ぎざりしに桐生は山間狭地の一都市を以て天保十四年より二十二年前の文政二年已に三千五百に近き人口を集中したるは都市發達史中異數とする所と云ふべく桐生新町の繁昌と桐生織物の全盛との關係が如何に密接なるか蓋し思半に過ぐるものあらん。

明治維新、岩鼻縣の所管となり、全五年一時栃木縣に編入されしが全九年群馬縣の治下となり全二十二年市町村制の實施と共に隣接地と合して始めて桐生町を成せり。爾來時勢の進運に伴ひ漸次現代都市としての形態を整ふると共に産業亦飛躍的





桐生織物同業組合献上品



機神(白瀧神社)

發展を遂げ、大正十年三月一日市制施行せられ昭和八年四月山田郡境野村を、昭和十二年四月山田郡廣澤村を併合して今日の隆昌を見るに至れり。其の間昭和九年十一月十六日には畏くも  
 聖上陛下の臨幸を仰ぎたるは市民の感激せる所なり。

回顧すれば今を遡る三百餘年前廣漠たる荒戸ヶ原に創立せられたる民家僅に百餘戸の新市街は桐生領五十四ヶ村の中心として力強き歩みを踏み出してより爾來幾多の政治的變遷を経て主要産業の織物の進歩發達に伴ひ驚くべき長足の發展を爲し今や舊桐生新町の地域は尺寸の餘地なき迄に家屋櫛比し市制施行後十七年にして早くも人口十萬を越え、市勢いよ／＼殷賑を極め名聲普に國內に普きのみならず海外雄飛の氣魄に燃ゆる新興都市として隆々たる未來を約束せらるゝに至れり。



## 二、土地及人口

### (一) 土地

#### 一、位地及地勢

位置 本市は東經百三十九度二十一分北緯三十六度二十五分海拔百二十九米なり

地勢 本市は群馬縣の極東に位せる都市にして東は栃木縣足利郡菱村及同郡小俣町と桐生川を以て相對し西南は山田郡毛里田村新田郡藪塚本町全強戸村及笠懸村山田郡相生村に接し西北は同郡川内村と接続し北は天神町三丁目物見山山麓を以て梅田村と、犬牙相接す、

#### 二、廣袤及面積

本市は關東の大平野漸く極まりて盡きぬとする處重疊せる山岳を三方に負ひて東西の盆地狹く渡良瀬桐生の兩河川に狹まれ南東に長く拓けたり。明治十七年安樂土村下久方村を聯合して桐生新町聯合となり聯合戸長役場を桐生新町三丁目に置きり。而して明治二十二年四月一日市制町村制の實施に至り桐生新町聯合新宿村を併せて桐生町となし舊町村を大字と稱して大正十年三月一日市制施行に至れり

大正十年三月一日市制施行當時

廣袤 東西 一里 (三、九二七米)  
南北 一里十三町 (五、三四五米)  
面積 〇、七八方里 (二二、〇三〇、三〇七平方米)

市制施行後昭和四年八月從來の大字を廢して新に町名を設定し、昭和八年四月山田郡境野村を合併して境野町となせり。

昭和八年四月一日境野村合併當時



桐生市全景

廣袤 東西 一里 (三、九二七米)  
南北 二里四丁 (八、二九〇米)

面積 〇、九九方里 (一五、二六九、一三六平方米)

昭和十二年四月山田郡廣澤村を合併して廣澤町一丁目乃至七丁目の町名を定めかくして本市の地域は市制施行前に比し著しく擴大せり。

現在

廣袤 東西 一里二十町 (六、二〇九米)  
南北 二里一五町 (九、四九〇米)

面積 一、七〇方里 (二六、二一九、九二二平方米)

本市舊來の大字名を廢止し新町名を設定するは市制施行以來の懸案なりし處昭和二年十月御大典記念事業として之に着手し昭和四年三月十六日市會の議決を経て全年八月一日より左の六十一町に改稱せり。而して昭和八年四月山田郡境野村を合併して境野町となし更に昭和十二年四月山田郡廣澤町を合併し廣澤町一丁目乃至七丁目を設定し現在は六十九町なり。

元大字桐生

本町一丁目、本町二丁目、本町三丁目、本町四丁目、



本町五丁目、本町六丁目、横山町

元大字新宿

濱松町一丁目、濱松町二丁目、錦町一丁目、錦町二丁目、新宿通一丁目、新宿通二丁目、新宿通三丁目、稻荷町、織姫町、清瀬町、美原町、櫻木町、三吉町、小梅町、琴平町

大字東安樂土

東町、芳町、諏訪町、今泉町、安樂土町、泉町、高砂町、旭町、常盤町、清水町、川岸町、榮町

大字西安樂土

東堤町、西堤町、宮前町一丁目、宮前町二丁目、元宿町、巴町一丁目、巴町二丁目、末廣町一丁目、末廣町二丁目、末廣町三丁目、永樂町一丁目、永樂町二丁目、永樂町三丁目、永樂町四丁目、小曾根町一丁目、小曾根町二丁目、小曾根町三丁目、宮本町

大字久方

東久方町一丁目、東久方町二丁目、東久方町三丁目、平井町、西久方町一丁目、西久方町二丁目、天神町一丁目、天神町二丁目、天神町三丁目

(一) 戸 口

一、戸數及人口

戸口の増加は最もよく其の市町村の發展を象徴するものなり。

全國各都市一般に戸口の増加を示しつつあることは現下の情勢なるも殊に本市は往時より日本屈指の機業地にして織物業の

隆盛に伴ひ戸口も亦逐年増加し來り市制施行以來國勢調査毎に全國各都市中に於ける本市の地位は目覺ましき躍進振りを示し加ふるに昭和八年四月山田郡境野村を昭和十二年四月山田郡廣澤村を合併して飛躍的膨脹發展を遂げたり。

而して前述の如く本市戸口の増加は機業の發展に基因するものなるを以て其増加人口は入寄留者に最も多く之を昭和十一年十月一日現在入寄留者道府縣外地外國別世帯人口調に見るに群馬縣の一六、四九〇人を最多とし栃木縣の九、九四二人之に次ぎ宮城、鳥取兩縣の一三人を最少とし全國各道府縣より寄留し居らざるはなく誠に躍進織都大桐生の構成を窺知するを得べし。

入寄留者道府縣外地外國別世帯人口調

昭和十一年現在  
十月一日現在

府縣外地外國別	世帯數	人		計
		男	女	
群馬縣	二、七四八	七、〇〇六	九、四八四	一六、四九〇
栃木縣	一、六五七	四、二七六	五、六六六	九、九四二
新潟縣	四七一	一、四〇五	一、四一八	二、八二三
東京府	二九七	八一八	八九六	一、七一四
埼玉縣	二二六	六九二	六六二	一、三五四
茨城縣	一九八	五九三	五三五	一、一二八
朝鮮	二〇一	四六七	三五六	八二三
福島縣	一四二	三八二	四三八	八二〇



和歌山縣	山口縣	鹿兒島縣	佐賀縣	高知縣	沖繩縣	香川縣	岡山縣	中華民國	兵庫縣	青森縣	廣島縣	福岡縣	三重縣	大阪府	岩手縣
六	六	六	七	八	〇	八	八	二四	九	一〇	九	一三	一四	二〇	二二
二六	二二	二三	二三	二九	〇	三三	三三	三五	三六	二四	三一	四三	四九	六四	六三
一〇	一六	一七	二〇	一六	四六	一三	一三	一五	一八	三〇	二五	三一	三一	三三	七一
三六	三八	三九	四二	四五	四六	四六	四六	五〇	五四	五四	五六	七四	八〇	九七	一三四

岐阜縣	福井縣	山梨縣	愛知縣	靜岡縣	北海道	秋田縣	神奈川縣	京都府	宮城縣	千葉縣	滋賀縣	山形縣	富山縣	長野縣	石川縣
三〇	二六	三〇	三二	三七	四〇	四八	五三	六二	五八	五八	六四	六五	八三	一一四	一二七
八六	八四	八三	一〇九	一二〇	一一九	一四二	一六八	一七八	一六一	一八六	二四一	一九〇	二五八	三一七	三六六
六九	七三	九三	八二	一〇一	一二三	一四五	一四六	一六二	一八四	一六二	一三七	二〇一	二三八	三一九	三五八
一五五	一五七	一七六	一九一	二二一	二四二	二八七	三一四	三四〇	三四五	三四八	三七八	三九一	四九六	六三六	七二四



愛媛	熊本	大分	徳島	島根	長崎	奈良	鳥取	宮崎	本籍不詳	北米合衆國	樺太	フィリッピン	印度	臺灣	總計
六	六	五	五	三	四	四	二	二	一	〇	〇	〇	〇	〇	七、〇七五
一八	一六	一三	二〇	一四	一五	九	九	七	四	二	一	一	一	〇	一九、一〇九
一八	一八	一五	五	九	八	一一	四	六	七	一	〇	〇	〇	〇	二二、五五五
三六	三四	二八	二五	二三	二三	二〇	一三	一三	一一	三	一	一	一	〇	四一、六六四

本市に於ける昭和十三年末戸数は一七、六三四戸人口一〇〇、四六九人にして之を十年前の昭和四年に比較するときは戸数に於て、八、一三三戸を人口に於て五〇、六二五人を夫々増加し又市制施行の大正十年末に比すれば戸数一〇、九三三戸人口五七、三一四人の増加を示せり。

戸数人口

最近十ヶ年間の戸口増加状況は左表の通にして一ヶ年平均戸数九〇四戸 人口四、五一七人なり。

年別	戸数	人口		計	一人當	對前年比較	大正十年(市制施行)		摘	要
		男	女				戸数	人口		
大正十年	六、七〇一	二〇、六四五	二二、五二〇	四二、一五五	六、四	四七	一、〇六〇	一〇〇	一〇〇	本年市制施行
昭和四年	九、五〇一	二二、五〇〇	二六、三四四	四九、八四四	五、二	四九六	一、九三六	一四二	二二六	
全五年	一〇、二八七	二五、七七四	二七、七九七	五三、五七二	五、二	七六六	三、七二七	一五四	二二四	
全六年	一〇、六四一	二六、七二二	二八、六三六	五五、三六二	五、二	三四	一、七九〇	一五九	二二八	
全七年	一〇、四二一	二七、五八八	二九、四九七	五七、〇八五	五、二	三〇二	一、七四	一六三	二二二	
全八年	一二、四二五	三一、四九七	三三、五七九	六五、〇七六	五、二	一、四八三	七、九二一	一八五	二二五	本年山田郡境野村合併
全九年	一二、九六一	三一、七〇七	三四、七八五	六六、四九二	五、二	五三六	二、四一六	一九三	二〇四	
全十年	一三、六七六	三六、五二三	四〇、五六八	七七、一二九	五、六	七五	九、六二七	二〇四	二〇四	
全十一年	一四、三六六	三八、一九〇	四二、二七〇	八〇、四六〇	五、六	六九〇	三、三四一	二二四	二二四	
全十二年	一六、三〇九	四三、五二六	四九、三八三	九二、八九九	五、七	一、四三三	二、四三九	二四三	二四三	本年山田郡廣澤村合併
全十三年	一七、六三四	四七、〇六五	五三、四四四	一〇〇、四六九	五、七	一、三三五	七、五七〇	二六三	二六三	

大正九年以降の國勢調査に於ける本市戸口の状況は左表の如く戸口の飛躍的增加は本市の發展を如實に物語るものにして尙男人口に比し女人口の多きは本市が織都なることを説明するものなり。



國勢調査ノ結果ニ依ル世帯人口

△印ハ減

施行期日	世帯	人口		計	世帯	比較		計	世帯	増減		計
		男	女			男	女			男	女	
大正九年十月一日	七,一六二	一七,五八八	二〇,〇九三	三七,六七四								
大正十四年十月一日	八,三七四	二〇,一一三	二二,四四〇	四一,五五三								
昭和五年十月一日	一〇,二五五	二五,四三二	二七,四七五	五二,九〇六								
昭和十年十月一日	九,九九	二二,四三三	二二,九二七	五三,三九〇								
昭和十一年十月一日	一三,四七八	三六,〇一八	四〇,二二七	七六,一四五								
昭和十一年十月一日	一三,〇〇五	三二,〇四	四〇,五九	七六,一〇二								

備考

昭和五年十月一日欄左側數字ハ舊境野村分ヲ示ス外數ナリ  
昭和十年十月一日欄左側數字ハ舊廣澤村分ヲ示ス外數ナリ

本市は昭和八年四月山田郡境野村を合併し之を第十一區とし更に昭和十二年四月山田郡廣澤村を合併し第十二區及第十三區を設定せり。而して最近十ヶ年間に於ける行政区別戸口は左表の通りにして十ヶ年間に於ける戸口の狀況は第一區は戸數二八戸人口一〇六人の夫々減にして第二區二一戸四〇一人、第三區六四三戸三、八六六人、第四區六〇八戸四、六一五人、第五區四七四戸二、二三二人、第六區八〇六戸四、五八六人、第七區九四六戸五、七五二人第八區一、一七七戸六、一六七人第九區五三七戸三、二七三人、第十區二七九戸二、四四〇人、第十一區(最近六ヶ年間)三四一戸二、二七七人の夫々増となり更に之を元大字別に見るときは元大字桐生(第一、二區)戸數 七戸の減人口二九五人の増、元大字新宿(第三、四、五區)戸數一、七二五戸人口一〇、七一三人の増、元大字東安樂土(第六、七區)戸數一、七五一戸人口一〇、三三八人の増、

元大字西安樂土(第八、九區)戸數一、七二四戸人口九、四四〇人の増、元大字上、下久方(第十區)戸數二七九戸人口二四四〇人の夫々増となれり。

行政区別戸數人口

年次	行政区別	戸口	
		戸數	人口
昭和四年	一區	四,三七四	一〇,一五五
昭和五年	一區	三,八三三	一〇,一五五
昭和六年	一區	三,八三三	一〇,一五五
昭和七年	一區	三,八三三	一〇,一五五
昭和八年	一區	三,八三三	一〇,一五五
昭和九年	一區	三,八三三	一〇,一五五
昭和十年	一區	三,八三三	一〇,一五五
昭和十一年	一區	三,八三三	一〇,一五五
昭和十二年	一區	三,八三三	一〇,一五五
昭和十三年	一區	三,八三三	一〇,一五五
昭和四年	二區	三,六九二	一〇,一五五
昭和五年	二區	三,六九二	一〇,一五五
昭和六年	二區	三,六九二	一〇,一五五
昭和七年	二區	三,六九二	一〇,一五五
昭和八年	二區	三,六九二	一〇,一五五
昭和九年	二區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十年	二區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十一年	二區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十二年	二區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十三年	二區	三,六九二	一〇,一五五
昭和四年	三區	三,六九二	一〇,一五五
昭和五年	三區	三,六九二	一〇,一五五
昭和六年	三區	三,六九二	一〇,一五五
昭和七年	三區	三,六九二	一〇,一五五
昭和八年	三區	三,六九二	一〇,一五五
昭和九年	三區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十年	三區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十一年	三區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十二年	三區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十三年	三區	三,六九二	一〇,一五五
昭和四年	四區	三,六九二	一〇,一五五
昭和五年	四區	三,六九二	一〇,一五五
昭和六年	四區	三,六九二	一〇,一五五
昭和七年	四區	三,六九二	一〇,一五五
昭和八年	四區	三,六九二	一〇,一五五
昭和九年	四區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十年	四區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十一年	四區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十二年	四區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十三年	四區	三,六九二	一〇,一五五
昭和四年	五區	三,六九二	一〇,一五五
昭和五年	五區	三,六九二	一〇,一五五
昭和六年	五區	三,六九二	一〇,一五五
昭和七年	五區	三,六九二	一〇,一五五
昭和八年	五區	三,六九二	一〇,一五五
昭和九年	五區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十年	五區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十一年	五區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十二年	五區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十三年	五區	三,六九二	一〇,一五五
昭和四年	六區	三,六九二	一〇,一五五
昭和五年	六區	三,六九二	一〇,一五五
昭和六年	六區	三,六九二	一〇,一五五
昭和七年	六區	三,六九二	一〇,一五五
昭和八年	六區	三,六九二	一〇,一五五
昭和九年	六區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十年	六區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十一年	六區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十二年	六區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十三年	六區	三,六九二	一〇,一五五
昭和四年	七區	三,六九二	一〇,一五五
昭和五年	七區	三,六九二	一〇,一五五
昭和六年	七區	三,六九二	一〇,一五五
昭和七年	七區	三,六九二	一〇,一五五
昭和八年	七區	三,六九二	一〇,一五五
昭和九年	七區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十年	七區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十一年	七區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十二年	七區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十三年	七區	三,六九二	一〇,一五五
昭和四年	八區	三,六九二	一〇,一五五
昭和五年	八區	三,六九二	一〇,一五五
昭和六年	八區	三,六九二	一〇,一五五
昭和七年	八區	三,六九二	一〇,一五五
昭和八年	八區	三,六九二	一〇,一五五
昭和九年	八區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十年	八區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十一年	八區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十二年	八區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十三年	八區	三,六九二	一〇,一五五
昭和四年	九區	三,六九二	一〇,一五五
昭和五年	九區	三,六九二	一〇,一五五
昭和六年	九區	三,六九二	一〇,一五五
昭和七年	九區	三,六九二	一〇,一五五
昭和八年	九區	三,六九二	一〇,一五五
昭和九年	九區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十年	九區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十一年	九區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十二年	九區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十三年	九區	三,六九二	一〇,一五五
昭和四年	十區	三,六九二	一〇,一五五
昭和五年	十區	三,六九二	一〇,一五五
昭和六年	十區	三,六九二	一〇,一五五
昭和七年	十區	三,六九二	一〇,一五五
昭和八年	十區	三,六九二	一〇,一五五
昭和九年	十區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十年	十區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十一年	十區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十二年	十區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十三年	十區	三,六九二	一〇,一五五
昭和四年	十一區	三,六九二	一〇,一五五
昭和五年	十一區	三,六九二	一〇,一五五
昭和六年	十一區	三,六九二	一〇,一五五
昭和七年	十一區	三,六九二	一〇,一五五
昭和八年	十一區	三,六九二	一〇,一五五
昭和九年	十一區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十年	十一區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十一年	十一區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十二年	十一區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十三年	十一區	三,六九二	一〇,一五五
昭和四年	十二區	三,六九二	一〇,一五五
昭和五年	十二區	三,六九二	一〇,一五五
昭和六年	十二區	三,六九二	一〇,一五五
昭和七年	十二區	三,六九二	一〇,一五五
昭和八年	十二區	三,六九二	一〇,一五五
昭和九年	十二區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十年	十二區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十一年	十二區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十二年	十二區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十三年	十二區	三,六九二	一〇,一五五
昭和四年	十三區	三,六九二	一〇,一五五
昭和五年	十三區	三,六九二	一〇,一五五
昭和六年	十三區	三,六九二	一〇,一五五
昭和七年	十三區	三,六九二	一〇,一五五
昭和八年	十三區	三,六九二	一〇,一五五
昭和九年	十三區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十年	十三區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十一年	十三區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十二年	十三區	三,六九二	一〇,一五五
昭和十三年	十三區	三,六九二	一〇,一五五
昭和四年	計	四九,八四四	一〇,一五五
昭和五年	計	四九,八四四	一〇,一五五
昭和六年	計	四九,八四四	一〇,一五五
昭和七年	計	四九,八四四	一〇,一五五
昭和八年	計	四九,八四四	一〇,一五五
昭和九年	計	四九,八四四	一〇,一五五
昭和十年	計	四九,八四四	一〇,一五五
昭和十一年	計	四九,八四四	一〇,一五五
昭和十二年	計	四九,八四四	一〇,一五五
昭和十三年	計	四九,八四四	一〇,一五五



現在戸数人口は以上の通なるも内閣統計局發表昭和十三年十月一日現在全國推計人口に依れば本市人口九六、三〇〇人にして全國一四八市中第四四位、昭和十二年推計人口は九二、三〇〇人にして第四九位、昭和十年國勢調査人口は七六、一四五人にして第五〇位なり。

二、人口動態

出生死亡の状況を見るに昭和四年に於ける出生は一、六三〇人死亡は九三九人にして六九一人の自然増加なり。昭和十三年に於ける出生は二、三三二人、死亡は一、四九四人にして八三八人の自然増加を示せり。又昭和四年に於ける死産は七五人にして人口千に對し一人五分昭和十三年は一五一人にして一人五分なり。昭和四年以來十ヶ年間に於ける人口動態を表示すれば即ち左の如し

人口動態 其ノ一

各年十二月末日現在

年別	出生		計	死亡		計	差引	
	男	女		男	女		男	女
昭和四年	八四一	七六八	一、六一〇	四六八	四七二	一八八	三七四	
全五年	九〇五	八〇〇	一、七〇〇	四三〇	四四七	一六四	四七五	
全六年	九四〇	八八九	一、八三三	五七	四七七	一八一	四〇七	
全七年	九五三	九六	一、八八九	三五	四〇六	一四〇	五〇	
全八年	一、〇八五	一、〇五二	二、一三六	五五	五五七	一七、五	五〇	
全九年	一、〇七六	九六九	二、〇四五	六〇二	五五二	一六、九	四七四	
全十年	一、二三二	一、一九〇	二、四二二	五四三	五五二	一四、二	六八九	
全十一年	一、二七四	一、二四二	二、五二五	六二五	五八二	一四、九	六八九	
全十二年	一、三三〇	一、三〇八	二、六三八	六五一	六五八	一四、一	六六九	
全十三年	一、二六六	一、二七六	二、五四二	七六〇	七三四	一四、九	三九六	
計	人口千ニ付	人口千ニ付	人口千ニ付	人口千ニ付	人口千ニ付	男	女	
	三二、七	三二、七	三二、七	四六、八	四七、二	一八、八	三七、四	
	三二、七	三二、七	三二、七	四三、〇	四四、七	一六、四	四七、五	
	三二、九	三二、九	三二、九	五七	四七七	一八一	四〇七	
	三三、一	三三、一	三三、一	三五	四〇六	一四、〇	五〇	
	三三、八	三三、八	三三、八	五五	五五七	一七、五	五〇	
	三〇、三	三〇、三	三〇、三	六〇二	五五二	一六、九	四七四	
	三三、四	三三、四	三三、四	五四三	五五二	一四、二	六八九	
	二八、八	二八、八	二八、八	六二五	五八二	一四、九	六八九	
	二八、三	二八、三	二八、三	六五一	六五八	一四、一	六六九	
	二二、二	二二、二	二二、二	七六〇	七三四	一四、九	三九六	

人口動態 其ノ二

各年十二月末日現在

年別	婚姻數	離婚數	死		計	人口千ニ付
			男	女		
昭和四年	四七四	四〇	四七	二八	七五	一、五
全五年	四八一	三三	四三	三二	八一	一、九
全六年	五一四	三九	三九	三〇	七〇	一、三
全七年	五二一	四四	三九	三〇	八一	一、三
全八年	五七八	四五	三九	三〇	七〇	一、三
全九年	六〇二	五五	三五	三〇	八一	一、三
全十年	七四〇	六三	三五	三〇	八一	一、三
全十一年	七〇五	五五	三五	三〇	八一	一、三
全十二年	九九八	六〇	三五	三〇	八一	一、三
全十三年	七五一	五四	三五	三〇	八一	一、三
計	人口千ニ付	人口千ニ付	人口千ニ付	人口千ニ付	人口千ニ付	人口千ニ付
	四、七	四、〇	四、七	二、八	七、五	一、五
	四、八	三、三	四、三	三、二	八一	一、九
	五、一	三、九	四、〇	三、〇	七〇	一、三
	五、二	四、四	三、九	三、〇	八一	一、三
	五、七	四五	三、九	三、〇	八一	一、三
	六、〇	五五	三五	三〇	八一	一、三
	七、四	六三	三五	三〇	八一	一、三
	七、〇	五五	三五	三〇	八一	一、三
	九九	六〇	三五	三〇	八一	一、三
	七五	五四	三五	三〇	八一	一、三



### 三、市行政組織

#### (一) 概況

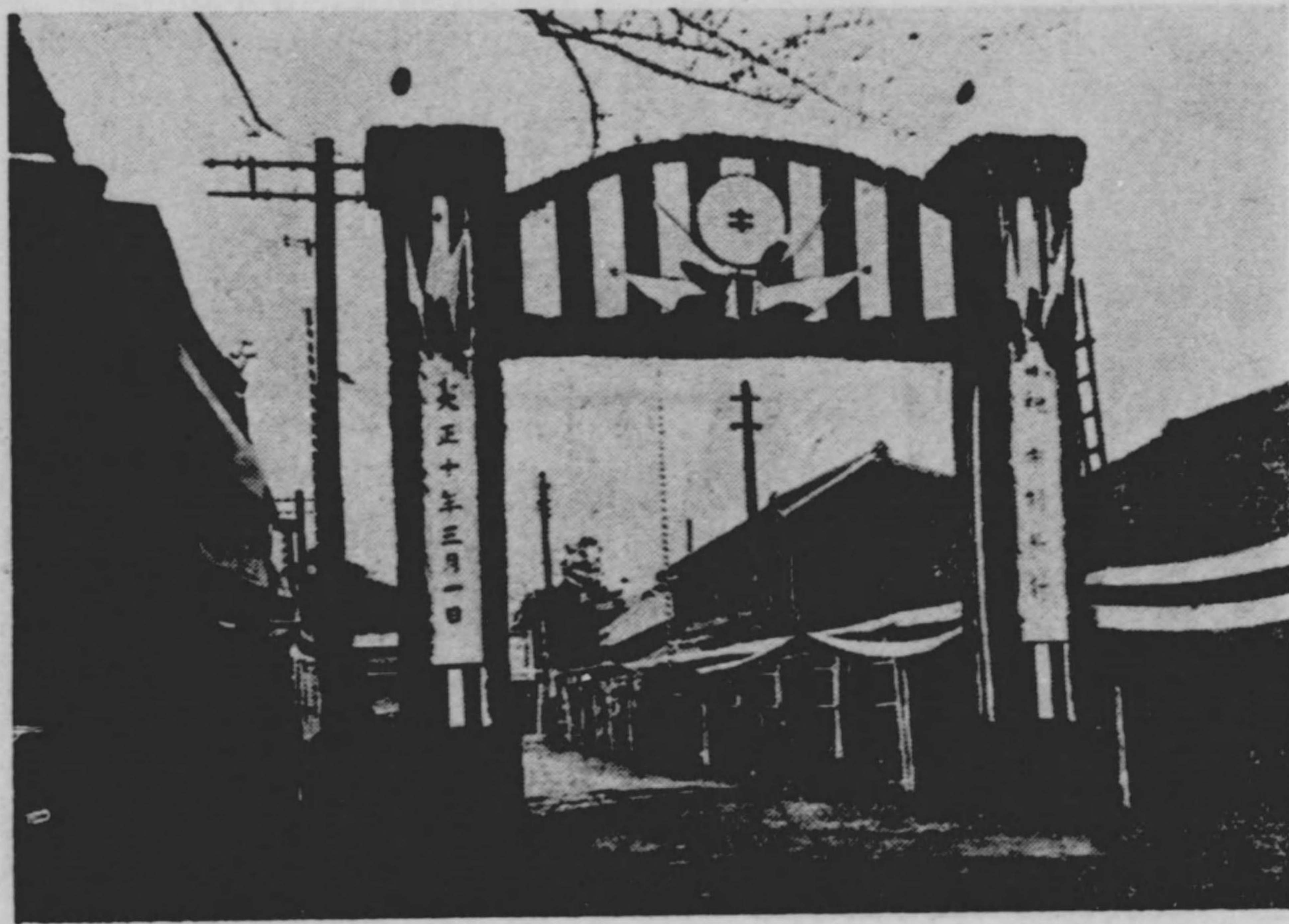
本市は大正十年三月一日市制施行せられ之が十五周年記念の祝典は昭和十一年四月十九日東日本御經營業奉讃大祭桐生織物祭と共に之を舉行し尙當日物故功勞者、名譽職慰靈祭及多數功勞者の表彰を行へり。市制施行以來十五ヶ年間の主要施設事項に就き十五周年記念式、市長式辭中より之を録せば

過去十五年間ニ於ケル主要施設事項ヲ擧グレバ小學校ノ新設校地ノ擴張並校舎ノ増改築市立圖書館ノ設立縣立工業學校ノ創立寄附等ヲ爲シ教育施設ノ擴充改善ヲ圖リ道路ノ新設改修ハ七十路線ニ及ビ其ノ延長實ニ七里餘ニ達セリ  
又數多ノ橋梁ヲ架設シテ交通ノ利便ヲ増進シ屠場塵芥焼却場ノ改修火葬場ノ移轉新築ヲ行ヒ又補助金ヲ支出シテ五里餘ニ及ブ下水溝ノ改修ヲ實現シテ衛生施設ノ改善ヲ圖リ或ハ自動車唧筒ヲ購入シ常備消防ヲ創設シテ警防施設ヲ整備シ公益質屋、職業紹介所、公設代書等ヲ設置シテ社會事業ノ充實ヲ圖リ或又上水道ヲ布設シテ衛生上工業上將又火防上裨益スル所アリ。

以上の如く市制施行以來市勢の進展に伴ひ各種施設も着々完備せられたるが之と相俟て市政の運用上に於ても適宜改善を加へて之が進暢に努め條例規程等の新設及改廢を行ひ來れり。左に議決及執行兩機關に付其の概要を述べん。

#### (二) 議決機關

市制施行以來急速なる戸口の増加と相俟つて工業を始めとし一般産業亦著しく發達し、之に伴ひ教育、土木、衛生、警備、

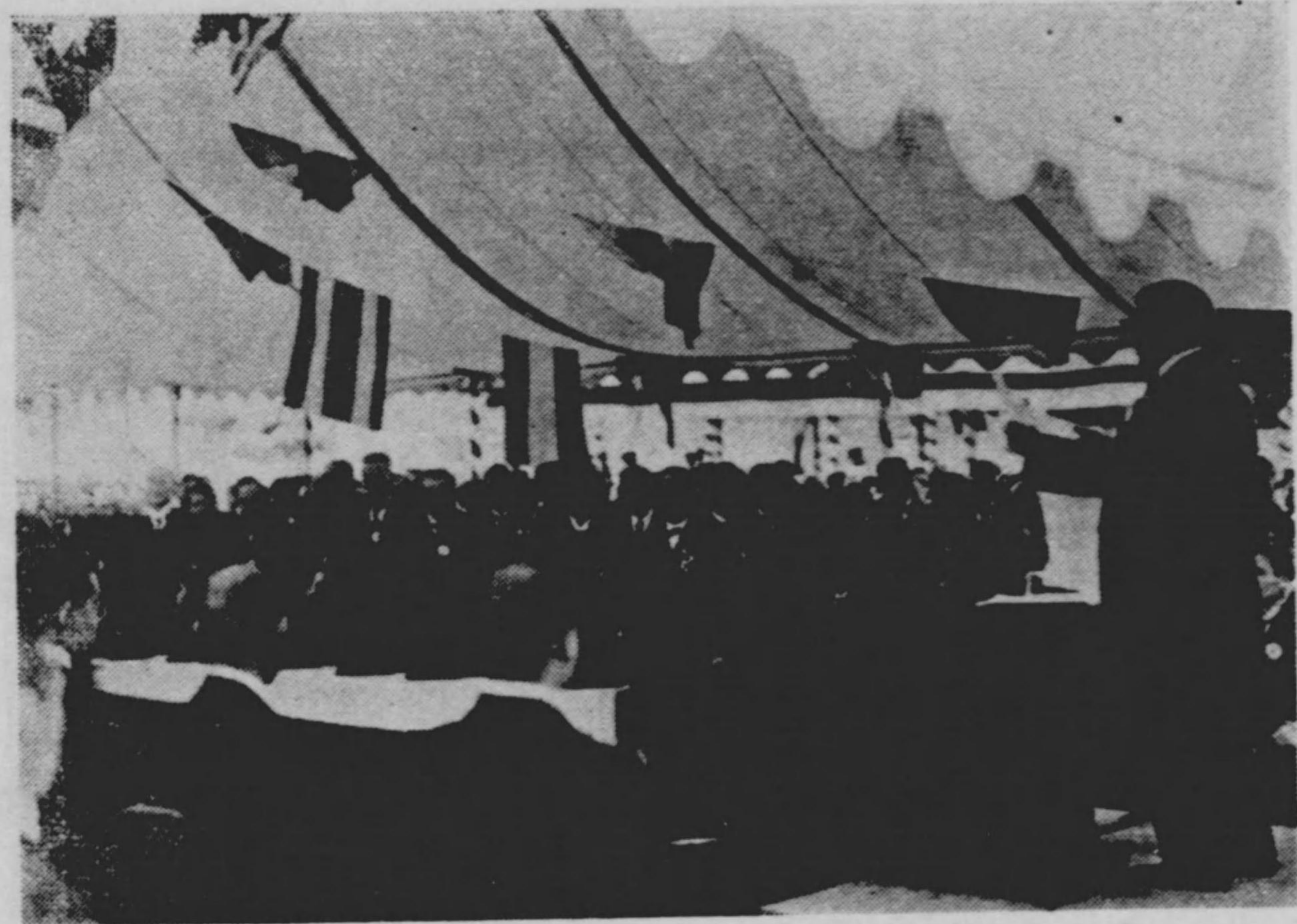


市制施行祝賀の生駒前



市制施行當時の本町通り





式念記行施制市

社會事業、其の他諸施設頗る多く随つて市會議決事件の件数も多く其の内容も亦多種多様に亘れるも常に圓滿なる議事の進行に依り本市の發展に貢献せること甚大なり。  
最近十ヶ年間の市會開會數及延日數及附議事件數左の如し。

市會開會數及延日數

年別	種別	開會數	延日數	附議事件數
昭和四年		一二	四五	八五
" 五年		六	二四	七一
" 六年		九	二六	六七
" 七年		六	一九	八〇
" 八年		一五	三九	一三一
" 九年		九	二三	八二
" 十年		八	二六	五二
" 十一年		五	二二	五〇
" 十二年		〇	一一	一五
" 十三年		四	一三	八四
一ヶ年平均		八	二五	八二

市會附議件數

年別	種別	天機御 機嫌奉 伺文	賀賀 表 牋	御禮 言上 文	議員 發案	條例	規程	豫算	決算	選舉	不動 處分	財產 貸借	諮問 其ノ他	計
昭和四年			二		二	三	六	三	六	二	二	一	四	八五
" 五年			二			二	八	七	七	三	〇	二	一	七一
" 六年			二			二	四	七	七	三	一	一	二	六七
" 七年						五	七	二	二	一			一	八〇
" 八年			二			〇	一	六	八	七	三	二	三	八一
" 九年			二			一	二	三	三	〇	一	一	三	八二
" 十年						一	二	二	二	二	三	一	一	五二
" 十一年						一	二	四	四	五	二	一	一	五〇
" 十二年			一			一	一	二	三	三	二	二	三	一五
" 十三年						九	一	七	一	三	五	三	五	八四

昭和五年國勢調査の結果公稱人口五萬以上を算し議員の定數従来の三十人より三十六人に増加し其の後昭和八年五月十日及び昭和十二年五月二十一日總選舉を執行し以て現在に及びり。

本市市參事會員定員は昭和四年四月市制の一部改正により従来の四名より十名に増員となれり、其の職務權限に就ては從來變更を重ね來れる處なるも現在に於ける市參事會議決事項の大部分は市會より委任を受けたる事項に止まれり。本市參事會委任事項左の如し。

桐生市參事會委任事項



- 一、寄附金及寄附物件ノ受入其ノ他臨時ニ生シタル收入ノ受領ニ關スル件
- 二、特別會計ニ屬スル歳入出豫算ノ更正若クハ追加ノ件
- 三、年度繰越工事ニ關スル歳入出豫算追加ノ件
- 四、金額千圓未満ノ歳入出豫算更正ノ件
- 五、金額千圓未満ニシテ市税ノ賦課ヲ要セサル歳入出豫算追加ノ件
- 六、歳出豫算各項流用ノ件
- 七、歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ參拾圓未満ノ義務ヲ負擔シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事
- 八、官廳ノ命令又ハ指示ニ依リ議決事項ノ字句ヲ修正スル事  
但シ議決ノ精神ニ反スルモノハ此ノ限ニアラス
- 九、電柱建設及土管理設道路敷使用願ニ關スル事但シ許可ノ有効期間内ニ限ル
- 一〇、特別税戸數割増戸竝ニ賦課洩及縣稅家屋稅賦課洩ニ對スル賦課額議決ノ件

執行機關

執行機關首腦部ノ交迭は概ね市政ノ進展を阻碍しつゝあるが幸に本市は市長、助役共數期を重任し收入役主事等亦何れも永年勤続者ノ多きは寔に誇とする處にして市勢發展ノ原因亦茲にありとす。  
 文書收受發送件數ノ市制施行當初一ケ年は二〇、四七六件なりしが昭和十三年には六七、八九〇件にして約三倍半に増加せるは諸般ノ事務逐年多きを加へたることを如實に示すものにして之が處理に當る吏員定數は左表に掲ぐる如く市制施行當時四十人に過ぎざりしが現在七十六人となれり。

吏員定員

	主事	書記	書記補	技師	技手	技手補	計
大正十年	三	二五	一〇	一	二	一	四〇
昭和十三年	四	四二	九	一	八	二	七六
比較増	一	一七	九	—	六	一	三六

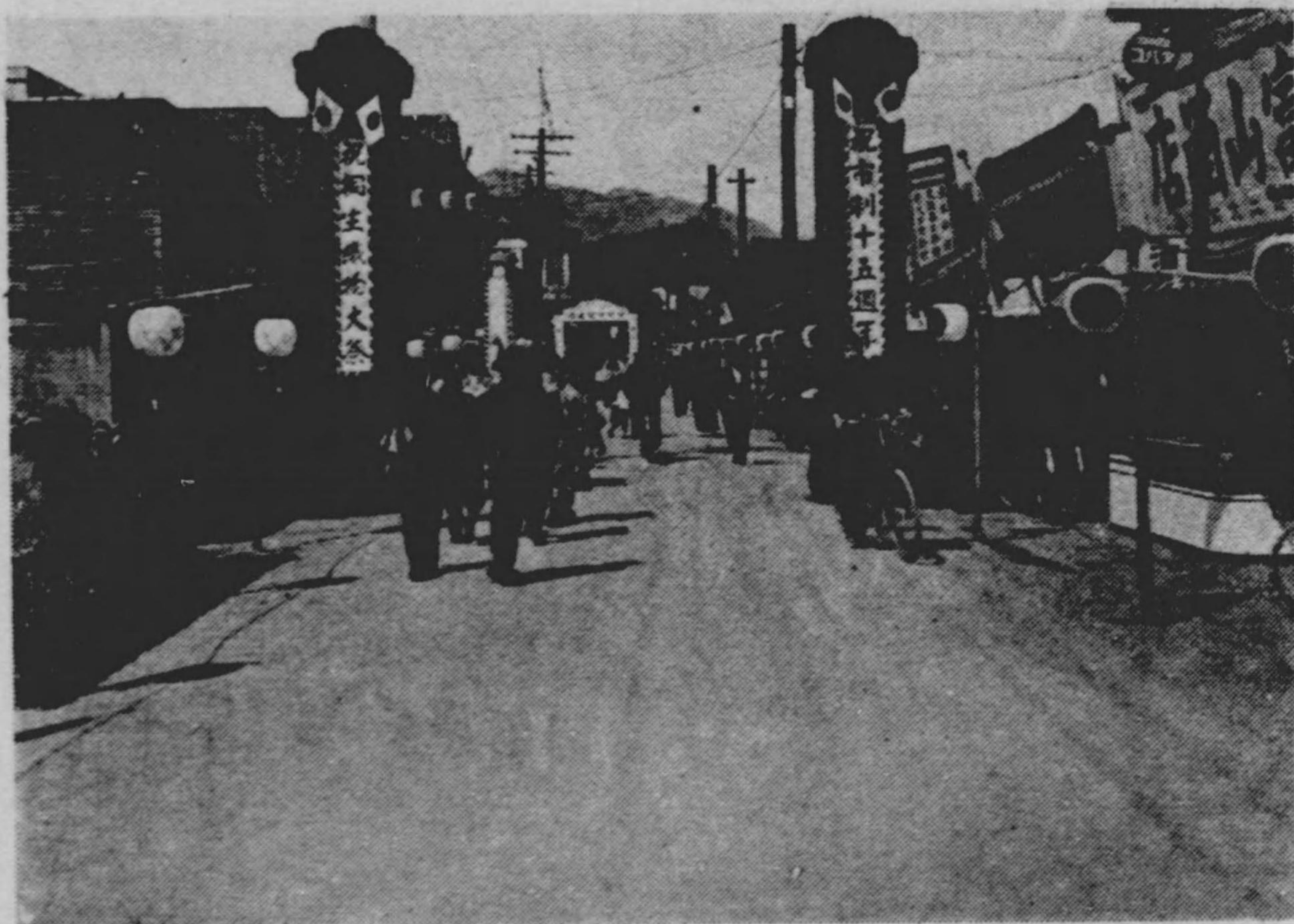
人件費及需要費(決算)

	役所費中人件費	全上需用費
大正十年	三五、八六四圓	六、〇八二圓
昭和十二年	六六、一三〇	一〇、八六五
比較増	三〇、二六六	四、七八三

現行本市役所事務分掌左の如し。

- 總務課。秘書係 庶務係 文書係、戸籍寄留係、土木係、營繕係、地理係、都市計畫係
  - 教務課。學務係、兵事係、社寺係、社會係
  - 稅務課。稅務係、產業係、衛生係、汚物掃除係
  - 水道課。庶務係、工務係、經理係
  - 會計課。出納係、用度係
- 各課各係の分掌左の如し  
 總務課





市制施行五十周年の喜びに溢るる市役所前通り

- 庶務係
- 一〇、市ノ財産ニ關スルコト
  - 一一、警備ニ關スルコト
  - 一二、氏名變更ニ關スルコト
  - 一三、條例規程ノ整理ニ關スルコト
  - 一四、廳内外取締及使丁給仕ノ監督ニ關スルコト
  - 一五、漂流物沈没品ニ關スルコト
  - 一六、庶務統計ニ關スルコト
  - 一七、防空ニ關スルコト
  - 一八、他ノ主管ニ屬セサル證明ニ關スルコト
  - 一九、他ノ分掌ニ屬セサルコト
- 文書係
- 一、文書物品ノ收受發送ニ關スルコト
  - 二、文書既済未済調査ニ關スルコト



市制施行五十周年記念式

- 秘書係
- 一、廳規及儀式ニ關スルコト
  - 二、機密文書ニ關スルコト
  - 三、吏員其ノ他ノ進退及賞罰ニ關スルコト
  - 四、廳印、職印保管ニ關スルコト
  - 五、廳員出勤簿及當直ニ關スルコト
  - 六、褒賞及表彰ニ關スルコト
  - 七、廳員印鑑ニ關スルコト
  - 八、退職料、退職死亡給與金及扶助料ニ關スルコト
- 庶務係
- 一、公告式ニ關スルコト
  - 二、議員其ノ他(他ノ主管ニ屬スルモノヲ除ク)ノ選舉ニ關スルコト
  - 三、市會參事會及委員會ニ關スルコト
  - 四、陪審員有資格者名簿調製ニ關スルコト
  - 五、歳入出豫算編成ニ關スルコト
  - 六、市ノ權利義務ニ關スルコト
  - 七、訴願、訴訟及異議申立ニ關スルコト
  - 八、歳入出(歳入ハ稅務課ニ屬スルモノヲ除ク)命令ニ關スルコト
  - 九、市ノ會計檢査ニ關スルコト





市制施行五十周年記念市勢展覽會の場の一部

- 三、文書ノ整理保存ニ關スルコト
- 四、法令ノ加除、保存ニ關スルコト
- 五、市報發行ニ關スルコト
- 六、市統計書編纂ニ關スルコト
- 七、國勢調査ニ關スルコト

○戶籍寄留係

- 一、戶籍及寄留ニ關スルコト
- 二、戶籍寄留謄抄本及閱覽ニ關スルコト
- 三、戶籍專用市長助役認印管守ニ關スルコト
- 四、戶籍ニ係ル統計報告ニ關スルコト
- 五、犯罪及破産並ニ家資分散ニ關スルコト
- 六、主管ニ屬スル證明ニ關スルコト
- 七、其ノ他戶籍ニ關スルコト

○土木係

- 一、河川道路堤防橋梁用惡水路等ニ關スルコト
- 二、水害ノ豫防ニ關スルコト
- 三、主管ニ屬スル工事請負契約並ニ材料購入ニ關スルコト

- 四、主管ニ屬スル工事材料及物品保管ニ關スルコト
- 五、主管ニ屬スル諸工事ノ設計及監督ニ關スルコト
- 六、土地測量製圖等ニ關スルコト
- 七、主管ニ屬スル雇傭人ノ監督ニ關スルコト
- 八、主管ニ屬スル統計調査ニ關スルコト
- 九、其ノ他土木ニ關スルコト

○營繕係

- 一、市ノ管理ニ屬スル營造物建築並ニ修理ニ關スルコト
- 二、主管ニ屬スル工事請負契約並ニ材料購入ニ關スルコト
- 三、主管ニ屬スル工事材料及物件ノ保管ニ關スルコト
- 四、主管ニ屬スル諸工事ノ設計及監督ニ關スルコト
- 五、其ノ他營繕ニ關スルコト

○地理係

- 一、土地臺帳及地圖ニ關スルコト
- 二、地租名寄帳ニ關スルコト
- 三、土地類目變換及免租ニ關スルコト
- 四、土地收用ニ關スルコト

- 五、官有地ニ關スルコト
- 六、水利組合ニ關スルコト
- 七、主管ニ屬スル證明及閱覽ニ關スルコト
- 八、其他地理ニ關スルコト

○都市計畫係

- 一、都市計畫ニ關スルコト
- 二、主管ニ屬スル工事請負契約並ニ材料購入ニ關スルコト
- 三、主管ニ屬スル工事材料及物件保管ニ關スルコト
- 四、主管ニ屬スル諸工事ノ設計及監督ニ關スルコト
- 五、土地區劃整理ニ關スルコト
- 六、市街地建築物ニ關スルコト
- 七、公園ニ關スルコト
- 八、主管ニ屬スル雇傭人ノ監督ニ關スルコト
- 九、其ノ他都市計畫ニ關スルコト

教務課

○學務係

- 一、學校、幼稚園、圖書館ニ關スルコト



- 二、學齡簿、兒童就學猶豫並幼兒保育ニ關スルコト
- 三、學校幼稚園等ノ職員身分並ニ名簿ニ關スルコト
- 四、教員退職料及扶助料ニ關スルコト
- 五、教員ノ免許及檢定並ニ他校入學志願ニ關スルコト
- 六、學事獎勵及視察ニ關スルコト
- 七、教育會其ノ他學事諸會ニ關スルコト
- 八、教育費及生徒授業料ニ關スルコト
- 九、學齡簿ノ整理兒童ノ出席缺席等ニ關スルコト
- 一〇、學事報告及統計ニ關スルコト
- 一一、壯丁教育成績調査ニ關スルコト
- 一二、史蹟天然記念物ニ關スルコト
- 一三、青年會及處女會等ニ關スルコト
- 一四、主管ニ屬スル證明ニ關スルコト
- 一五、其ノ他教育ニ關スルコト

○兵事係

- 一、徵兵ニ關スルコト
- 二、召集ニ關スルコト

○社寺係

- 三、徵發ニ關スルコト
  - 四、現役及在郷軍人ニ關スルコト
  - 五、陸海軍人名簿ニ關スルコト
  - 六、行軍演習ニ關スルコト
  - 七、軍人家族戰病死者遺族及廢兵ニ關スルコト
  - 八、軍人軍屬ノ恩給扶助料ニ關スルコト
  - 九、徵兵署物品保管ニ關スルコト
  - 一〇、兵事統計及報告ニ關スルコト
  - 一一、主管ニ屬スル證明ニ關スルコト
  - 一二、其ノ他兵事ニ關スルコト
- 一、社寺ノ改廢築造修繕ニ關スルコト
  - 二、社寺明細帳ニ關スルコト
  - 三、社寺境内ニ關スルコト
  - 四、神職及住職ニ關スルコト
  - 五、神社祭典及佛像開帳ニ關スルコト
  - 六、社寺寶物其ノ他財産ニ關スルコト

- 七、神佛其ノ他教會講社ニ關スルコト
- 八、神社豫算及決算ニ關スルコト
- 九、主管ニ屬スル證明ニ關スルコト
- 一〇、其ノ他社寺ニ關スルコト

○社會係

- 一、公設市場及模擬市場ニ關スルコト
- 二、失業者救済及職業紹介所ニ關スルコト
- 三、市營住宅及住宅組合ニ關スルコト
- 四、勤儉貯蓄及各種債證券勸誘其他民力涵養ニ關スルコト
- 五、慈善事業ニ關スルコト
- 六、軍事救護ニ關スルコト
- 七、罹災及窮民救助ニ關スルコト
- 八、風俗其他改善ニ關スルコト
- 九、出獄人保護ニ關スルコト
- 一〇、行旅病死人及變死人並ニ棄兒迷兒ニ關スルコト
- 一一、精神病者及癩患者ニ關スルコト

稅務課

○稅務係

- 一二、社會事業統計報告ニ關スルコト
  - 一三、各種社會事業團體ニ關スルコト
  - 一四、其ノ他社會事業ニ關スルコト
- 一、國縣市稅賦課及徵收簿整理ニ關スルコト
  - 二、國縣市稅ノ諸臺帳整理ニ關スルコト
  - 三、稅外收入諸帳簿整理ニ關スルコト
  - 四、過誤納金整理ニ關スルコト
  - 五、所得稅並ニ營業稅調査委員選舉ニ關スルコト
  - 六、市稅徵收延期ニ關スルコト
  - 七、市稅其ノ他滯納處分ニ關スルコト
  - 八、國縣稅ノ收支命令ニ關スルコト
  - 九、市稅及稅外收入ノ內授業料過年度收入ノ命令ニ關スルコト
  - 一〇、囑託ニ依ル稅金收納ニ關スルコト
  - 一一、水利組合費ノ賦課ニ關スルコト



- 一二、主管ニ屬スル證明ニ關スルコト
- 一三、其ノ他稅務ニ關スルコト

○産業係

- 一、銀行及諸會社ニ關スルコト
- 二、農工商諸會及組合ニ關スルコト
- 三、産業獎勵及保護ニ關スルコト
- 四、益鳥虫保護及害鳥虫驅除ニ關スルコト
- 五、氣象觀測ニ關スルコト
- 六、度量衡ニ關スルコト
- 七、美術獎勵ニ關スルコト
- 八、蠶絲業及畜産ニ關スルコト
- 九、博覽會及共進會並ニ品評會ニ關スルコト
- 一〇、獸醫蹄鐵工及家畜傳染病ニ關スルコト
- 一一、市場ニ關スルコト
- 一二、市況及物價調査ニ關スルコト
- 一三、移民ニ關スルコト
- 一四、農工商及水産林務諸報告及統計ニ關スルコト

- 一五、織物工業ニ關スルコト
- 一六、軍需工業動員ニ關スルコト
- 一七、馬籍ニ關スルコト
- 一八、耕地整理ニ關スルコト
- 一九、小作調査ニ關スルコト
- 二〇、主管ニ屬スル證明ニ關スルコト
- 二一、其他産業ニ關スルコト

○衛生係

- 一、醫師藥劑師產婆看護婦等ニ關スルコト
- 二、藥種商ニ關スルコト
- 三、傳染病地方病ノ豫防ニ關スルコト
- 四、各種中毒ニ關スルコト
- 五、火葬場屠場及墓地ニ關スルコト
- 六、埋火葬認許証ニ關スルコト
- 七、傳染病院ニ關スルコト
- 八、種痘ニ關スルコト
- 九、衛生費ニ關スルコト

- 九、他ノ分掌ニ屬セサルコト

○工務係

- 一、測量製圖及工事設計ニ關スルコト
- 二、工事ノ執行及監督ニ關スルコト
- 三、工事材料及機械器具ノ検査受渡保管ニ關スルコト
- 四、給水及配水ニ關スルコト
- 五、職工、工夫ノ服務及取締ニ關スルコト
- 六、既成工作物ノ維持管理ニ關スルコト
- 七、主管ニ屬スル統計報告ニ關スルコト
- 八、其他工務ニ屬スル事項ニ關スルコト

○經理係

- 一、水道費ニ屬スル收入支出ニ關スルコト
- 二、水道費歳入出決算ニ關スルコト
- 三、物品臺帳ノ整理ニ關スルコト
- 四、物品ノ購入保管並ニ整理出納ニ關スルコト
- 五、不用品處分ニ關スルコト
- 六、電燈電話ノ管理ニ關スルコト

- 一〇、衛生統計及報告ニ關スルコト
- 一一、主管ニ屬スル証明ニ關スルコト
- 一二、其ノ他衛生ニ關スルコト

○汚物掃除係

- 一、汚物掃除及清潔法ニ關スルコト
- 二、公共便所ニ關スルコト

水道課

○庶務係

- 一、水道費ニ屬スル歳入出豫算ニ關スルコト
- 二、水道費ニ屬スル市債及借入金ニ關スルコト
- 三、文書物品ノ收受發送ニ關スルコト
- 四、工事請負人夫供給及入札執行契約ニ關スルコト
- 五、土地及地上物件工作物ノ買収、借入、補償ニ關スルコト
- 六、主管ニ屬スル諸証明ニ關スルコト
- 七、水道統計及報告ニ關スルコト
- 八、當直ニ關スルコト



- 七、郵便切手端書ノ受拂ニ關スルコト
- 八、入札及契約保證金ニ關スルコト
- 九、其ノ他經理ニ屬スル事項ニ關スルコト

會計課  
○出納係

- 一、國縣稅收納支出ニ關スルコト
- 二、市稅及稅外收納並ニ市費支出ニ關スルコト
- 三、市基本財産ノ管理及及裏帳ノ整理ニ關スルコト
- 四、有價證券諸證書契約書保管ニ關スルコト
- 五、歳入歳出決算ニ關スルコト
- 六、市金庫ニ關スルコト
- 七、其ノ他出納ニ關スルコト

○用度係

- 一、物品ノ購入保管並ニ整理出納ニ關スルコト
- 二、不用品處分ニ關スルコト
- 三、物品臺帳整理ニ關スルコト
- 四、電燈電話ノ管理ニ關スルコト
- 五、郵便切手端書受拂ニ關スルコト



昭和十三年四月十七日は自治制發布五十周年記念日に相當し關口現桐生市長は東島大垣、松尾岐阜、西尾米子各市長と共に

内務大臣より光榮ある表彰を受けたり。  
全月二十三日本市に於ける之が式典を舉行し併せて自治功勞者の表彰を行へり。

本市常設委員は常設委員規程に依るもの六種の外小學校令に依る學務委員、傳染病豫防法に依る傳染病豫防委員とを併せ八種にして其の種別定員は左の如し。

常設委員

種別	定員
土木委員	二人
衛生委員	五人
公園案委員	三人
勸業委員	五人
社會事業委員	五人
水道委員	五人
學務委員	一人
傳染病豫防委員	一人
計	五九

區長、全代理者、伍長委員、伍長

本市の行政區劃は市制施行後に於ても町制當時の體制を踏襲し桐生、新宿、東安樂土、西安樂土、下久方の大字別を以て五區を構成したるも市勢の進展と共に百般の市政亦複雑し來り從來の如き行政區劃にては市政運用上適切ならざるに至れるを



以て昭和四年八月御大典奉祝記念事業の一として大字を廢し全市に涉りて町名の改正を爲すと共に行政區劃は大字桐生を第一區第二區に大字新宿を第三區、第四區、第五區に大字東安樂土を第六區、第七區に大字西安樂土を第八區、第九區に大字下久方を第十區に區分せり。  
其の後境野廣澤兩村の合併に依り更に三區を加へ現在の體制は左の如くなれり。

改正前	改正後
區名	町名
第一區 大字 桐生	第一區 本町一丁目、本町二丁目、本町三丁目、本町四丁目、本町五丁目、本町六丁目、横山町
第二區 大字 新宿	第二區 錦町一丁目、錦町二丁目、錦町三丁目、新通一丁目、新通二丁目、新通三丁目、三吉町、小梅町、琴平町
第三區 大字 東安樂土	第三區 東町、泉町、高砂町、旭町、常盤町、川岸町、榮町、清水町、今泉町、芳町、諏訪町、安樂土町
第四區 大字 西安樂土	第四區 巴町一丁目、巴町二丁目、元宿町、末廣町一丁目、末廣町二丁目、末廣町三丁目、宮前町一丁目、宮前町二丁目、宮前町三丁目、西堤町、永樂町一丁目、永樂町二丁目、永樂町三丁目、小曾根町一丁目、小曾根町二丁目、小曾根町三丁目、宮本町
第五區 大字 下久方	第五區 東久方町一丁目、東久方町二丁目、東久方町三丁目、西久方町一丁目、西久方町二丁目、天神町一丁目、天神町二丁目、天神町三丁目、平井町
第六區 境野町(昭和八年合併ニ依り第十三區トナス)	第六區 境野町一丁目、廣澤町一丁目、廣澤町二丁目、廣澤町三丁目、廣澤町四丁目、廣澤町五丁目、廣澤町六丁目、廣澤町七丁目(昭和十二年合併ニ依り第十三區トナス)
第七區 廣澤町(昭和八年合併ニ依り第十三區トナス)	第七區 廣澤町一丁目、廣澤町二丁目、廣澤町三丁目、廣澤町四丁目、廣澤町五丁目、廣澤町六丁目、廣澤町七丁目(昭和十二年合併ニ依り第十三區トナス)
第八區 廣澤町(昭和八年合併ニ依り第十三區トナス)	第八區 廣澤町一丁目、廣澤町二丁目、廣澤町三丁目、廣澤町四丁目、廣澤町五丁目、廣澤町六丁目、廣澤町七丁目(昭和十二年合併ニ依り第十三區トナス)
第九區 廣澤町(昭和八年合併ニ依り第十三區トナス)	第九區 廣澤町一丁目、廣澤町二丁目、廣澤町三丁目、廣澤町四丁目、廣澤町五丁目、廣澤町六丁目、廣澤町七丁目(昭和十二年合併ニ依り第十三區トナス)
第十區 廣澤町(昭和八年合併ニ依り第十三區トナス)	第十區 廣澤町一丁目、廣澤町二丁目、廣澤町三丁目、廣澤町四丁目、廣澤町五丁目、廣澤町六丁目、廣澤町七丁目(昭和十二年合併ニ依り第十三區トナス)
第十一區 廣澤町(昭和八年合併ニ依り第十三區トナス)	第十一區 廣澤町一丁目、廣澤町二丁目、廣澤町三丁目、廣澤町四丁目、廣澤町五丁目、廣澤町六丁目、廣澤町七丁目(昭和十二年合併ニ依り第十三區トナス)
第十二區 廣澤町(昭和八年合併ニ依り第十三區トナス)	第十二區 廣澤町一丁目、廣澤町二丁目、廣澤町三丁目、廣澤町四丁目、廣澤町五丁目、廣澤町六丁目、廣澤町七丁目(昭和十二年合併ニ依り第十三區トナス)
第十三區 廣澤町(昭和八年合併ニ依り第十三區トナス)	第十三區 廣澤町一丁目、廣澤町二丁目、廣澤町三丁目、廣澤町四丁目、廣澤町五丁目、廣澤町六丁目、廣澤町七丁目(昭和十二年合併ニ依り第十三區トナス)

以上の如く現在十三區にして各區に區長及其の代理者一人を置き其の任期は二年なり。

區長補助機關として各區に伍長委員伍長あり。現在前者は八四名後者三八一名にして其の狀況左の如し。

### 伍長委員伍長區別比較

昭和十三年末調

區別	戸數	人口	伍長委員數	伍長數	伍長委員一人ニ付戸數	伍長一人ニ付人口	伍長一人ニ付戸數	伍長一人ニ付人口
第一區	七七七	四、二六八	七	一一	一一一	六一九	三五	一九四
第二區	七四六	四、二九四	六	一九	一一四	七九六	三九	二二六
第三區	一、六五八	八、九九六	五	三二	三三二	一、七九九	五二	二八一
第四區	一、六六三	一〇、六四二	五	三〇	三三三	一、二二八	五五	三五五
第五區	一、二七二	六、三四八	五	二七	二五四	一、二七〇	四七	二三五
第六區	二、〇一八	一〇、〇七一	五	三〇	四〇四	二、〇一四	六七	三三六
第七區	一、八二七	一〇、四五二	六	三三	三〇五	一、七四二	五五	三二七
第八區	二、四二二	一〇、九二二	六	三七	四〇四	一、一五四	六五	三四九
第九區	一、四七四	七、九〇一	四	二六	三六九	一、九七五	五七	三〇四
第十區	一、一〇七	七、一七六	九	三六	一一三	七九七	三一	一九九
第十一區	一、三〇六	七、八八五	一	三二	一一九	七二七	四一	二四六
第十二區	六八七	三、五一八	七	二八	九八	五〇三	二五	一二六
第十三區	六七八	五、九九六	八	二九	八五	七四九	二三	二〇七
計	一七、六三四	一〇〇、四六九	八四	三八一	二二〇	一、一九六	四六	二六四

而して伍長委員伍長の町内固有事務に關しては各町内に於て独自の事情に依り規定する處ありと雖も左の如く其の取扱事項を大別し得べし。

### 伍長委員取扱事項



- 一、區長を補佐し伍長を通して法令其の他諸般の通達事項を處理すること
- 二、各伍長間に渉る諸般の事務を掌ること
- 三、其の他必要なる事項

伍長取扱事項

- 一、市行政事務の執行を援助し法令其の他諸般の通達に努むること
- 二、自治教育、其の他公共的觀念の發達及公德心の喚起に努むること
- 三、産業の振興其の他町民の増利増進を圖ること
- 四、町内住民の納税に注意し義務觀念の向上に努むること
- 五、名簿を備へ町内の戸數及現住者を明ならしむること
- 六、前各號の外必要なる事項

### 四、土木及都市計畫

#### (一) 土 木

交通便利の開發と街衢の整正とは都市發展上の要素なり。されば本市に於ても往年より着々道路橋梁の新設、改修及道路の補装工事を施行し來れり。

市制施行の大正十年と昭和十三年とにつき道路橋梁數及延長を比較すれば左の如し

道路橋梁數及延長(市道及府縣道)

年 次	道 路		橋 梁		延 長 計
	路 線 數	延 長	橋 梁 數	延 長	
大 正 十 年	八四二	三九里八町四五間	六四	一町五六間	三九里一〇町四一間
昭 和 十 三 年	一、八三〇	九三里一〇町四八間	一二六	五町二八間	九三里一六町一六間

本市か始めて鋪装工事を施行せるは昭和七年にしてその後着々各所に施行したる結果現在にては市道に於て路線數六六延長一三、五五〇米(三里一六町一二間)府縣道に於て路線數四、延長一〇、九〇〇米(二里二七町五五間)合計路線數七〇延長二四、四五〇米(六里八町七間)に達せり。而して鋪装工事費の支辨方法は必ずしも一定せざるも地元の自費工事として行はるべきもの近時次第に多きを加ふる状態にして市内全般に互る路面の美化する日も遠きにあらざるべし。

本市は廻らすに周圍山を以てすと雖も南には著名なる渡良瀬川の奔流あり、東方栃木縣界には桐生川の清流あり又明治初年渡良瀬川の氾濫に依り生じたる新川あり之に加ふるに山岳部より流出する幾多の小流存する爲橋梁の數亦多し。其の内主な



るものを舉ぐれば市道に属するもの桐生橋以下八橋府縣道に属するもの盛運橋以下四橋にして其の竣工年月構造等を舉ぐれば左の如し

市道の橋梁

桐生橋 旭町、濱松町一丁目地内新川に架設せる橋梁にして元板橋なりしが水害の爲流失したるを以て大正十一年七月現在の鋼鐵橋に改築せり。

眼鏡橋 大正十四年九月織姫町に新に架設せる木橋なり

新川橋 昭和元年十一月巴町一丁目、稻荷町入會地内新川に新に架設せる橋梁にして最初板橋なりしが昭和七年鐵筋混凝土橋に改築せり

常盤橋 昭和六年三月常盤町、濱松町一丁目地内新川に新に架設せる橋梁なり

東橋 昭和六年十二月清水町、榮町入會地内新川に架設せる橋梁なりしが昭和十三年九月大出水により流失し目下復舊架

設工事施行中なり

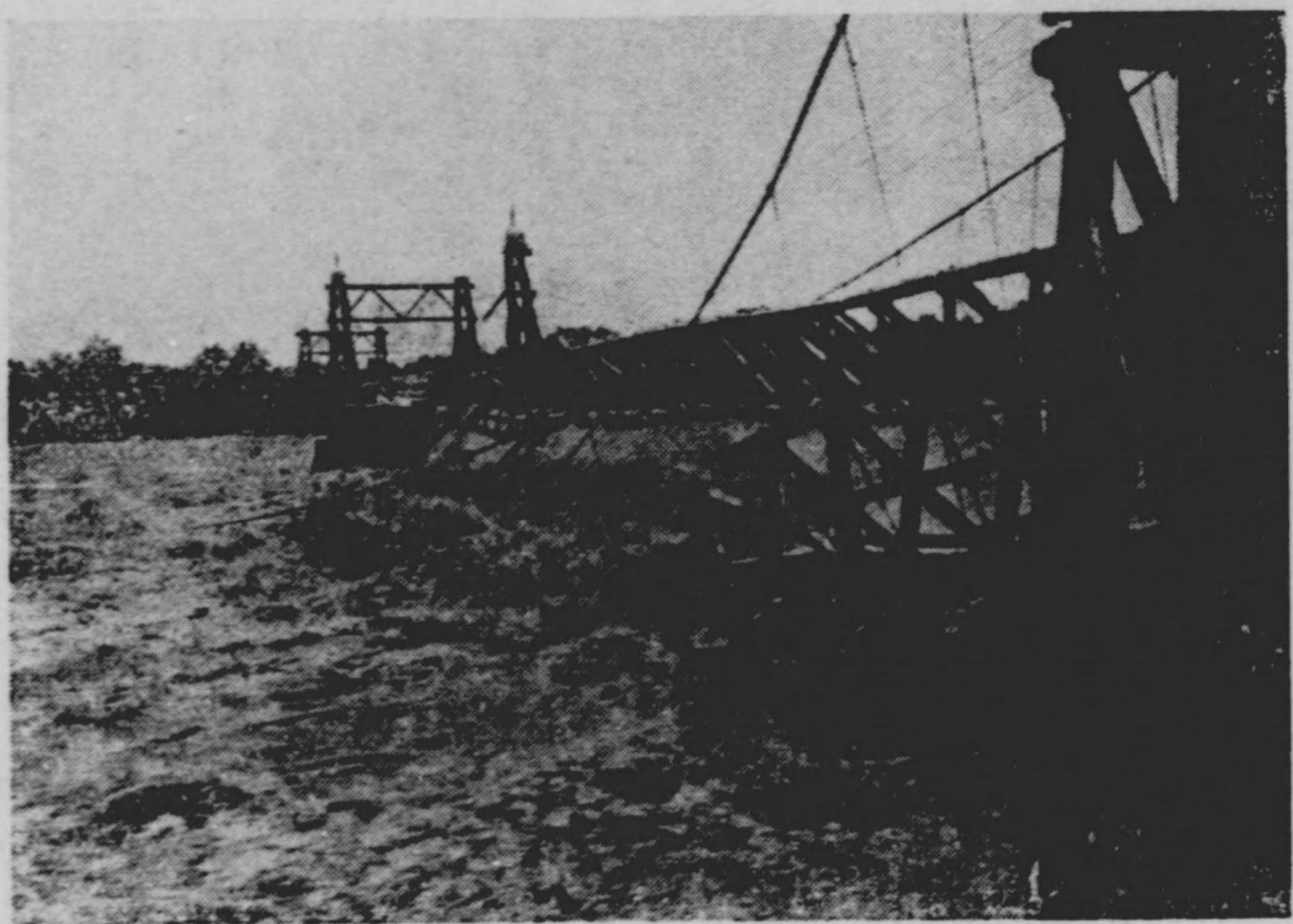
安樂土橋 新宿通三丁目境野町入會地内渡良瀬川支流に架設せる橋梁なり

元宿橋 元宿町、美原町入會地内新川に架設せる木橋なりしが昭和十三年九月大出水により流失し目下復舊工事施行中なり

府縣道の橋梁

盛運橋 府縣道前橋宇都宮線桐生市川岸町錦町入會地内新川に架設せる橋梁にして昭和七年度に起工昭和八年五月竣工せるものなり。

赤岩橋 府縣道前橋宇都宮線桐生市西堤町山田郡相生村大字富士山下地内渡良瀬川筋に明治三十五年架設せるものなる處架



往昔の錦櫻橋

設後三十餘年に及び經年腐朽を來し危險を感じるに依り之が改築方本市並に相生村より縣に對し要望中なりしが偶々昭和十二年九月五日自然欠壞するに至れり現在には仮橋を通す。

錦櫻橋 府縣道伊勢崎桐生線桐生市錦町二丁目櫻木町地内渡良瀬川筋に架設せる橋梁にして大正十二年起工大正十四年四月竣工せるものなり。

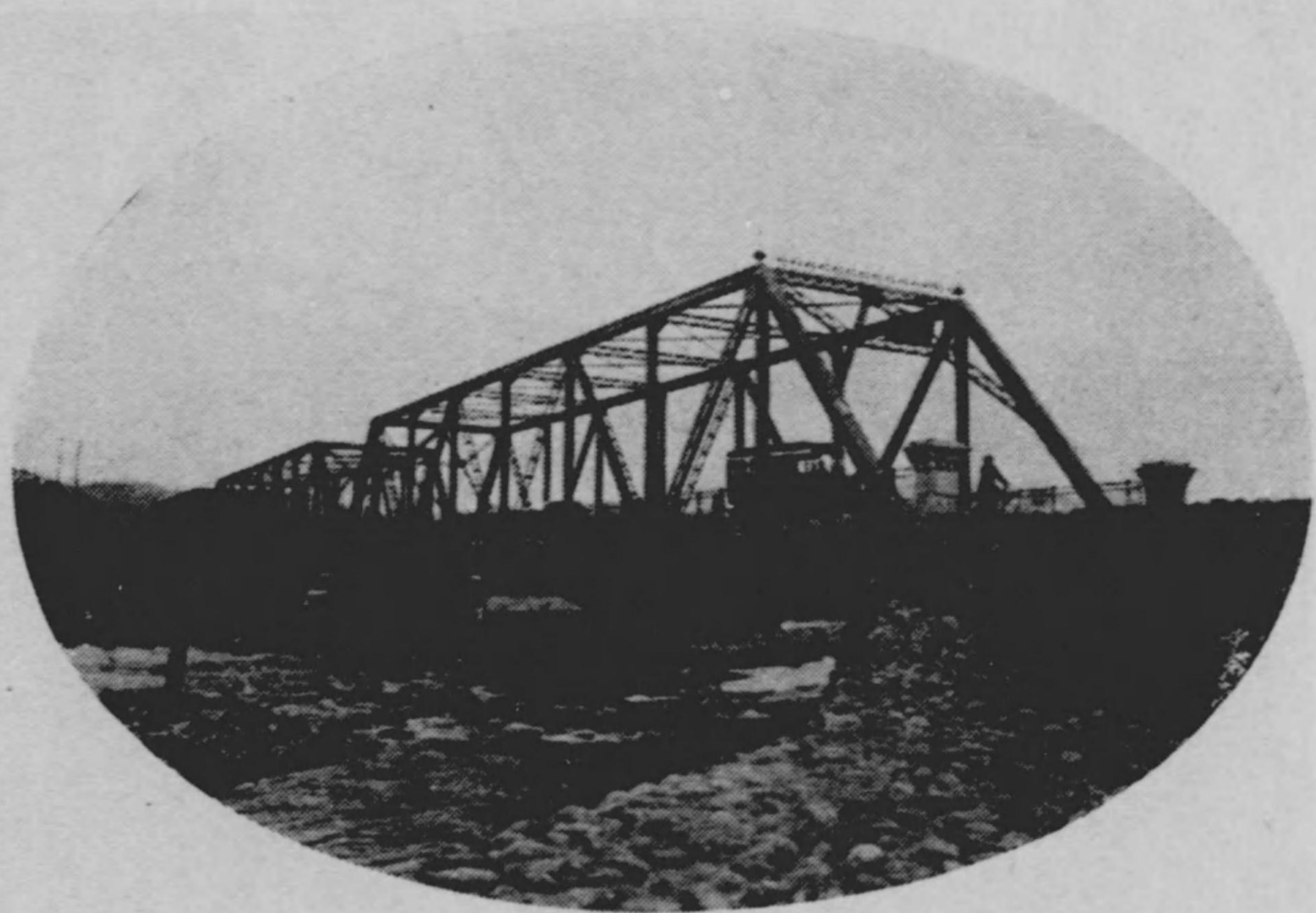
境橋 府縣道前橋宇都宮線桐生市境野町宇濱の京と栃木縣足利郡小俣町との境界たる桐生川に架設せるものにして昭和五年九月起工、同六年三月竣工せるものなり。

渡良瀬川改修工事の施工は夙にその實現を待望するところにして大正十五年二月市會議員、區長、區長代理者、市長、助役等連署を以て左の如き請願書を内務大臣、貴衆兩院議長、群馬縣知事、同縣會議長に提出してより爾來機會ある毎に之を要望し來れり。

請願書

謹テ渡良瀬川河川改修ニ關シ拙文ヲ草シ茲ニ請願仕候





今錦の橋

渡良瀬川ハ當地方屈指ノ大河ニシテ其流域數縣ニ跨リ灌溉其ノ他ノ利便頗ル多シト雖モ流路蜿蜒屈曲シ河幅亦廣狹一ナラス加之近年甚シク河床埋塞セリ爲ニ一朝雨期ニ際會スルヤ河水氾濫シ其禍害擧ケテ數フヘカラス是ヲ以テ政府ハ夙ニ河川改修ノ計畫ヲ立テ巨費ヲ投シテ現ニ其工ヲ進メツ、アリ然ト雖該工事タルヤ下流栃木縣足利郡附近迄ニ止マリ當地方ニ及ハサル趣ニ候處本縣山田郡川内村大字高津戸地内高津戸橋以下沿川一帯ノ地ハ近時其ノ水害殆ト連年相續キ或ハ田圃ヲ埋メ或ハ水利ヲ損シ或ハ交通ヲ杜絶シ人畜家屋ヲ失ヒ或ハ食餌續カス救助ニ依リ辛シテ生命ヲ保ツコトヲ得ル者アル等、時ニ慘狀ヲ呈シ今尙慄然タルモノアルハ誠ニ寒心ニ堪ヘサル所ナリ。如此洪水ニ災害セラル、爲直接間接ニ農商工業上ニ障害ヲ加フルコト亦實ニ鮮少ニ止ラサルヲ以テ常ニ能ク堤防等夫々施設防備セラル、アリト雖洪水一度到ラムカ奔湍直下之ヲ防ク者簑笠以テ輕裝シ寢ネサルコト連夜ニ亘ルモ水勢益々募リ人漸ク疲レ遂ニ堤防崩壞シ遺憾ナカラ未タ防備ノ効果ヲシテ充分ナラシメス毎ニ困難罷在次第ナルヲ以テ大正九年以來年々請願仕リ候處大正十一年衆議院

ニ於テ御採擇ノ幸ニ浴セン儀ニ有之候 而シテ今ヤ國費多端ノ際トハ恐察仕候得共何卒事情御憫察ノ上願クハ更ニ前陳高津戸橋及支流桐生川小松橋迄河川改修ヲ延長シ以テ公害ヲ除去シ沿川住民ヲシテ其堪ニ安ンセシムル様特ニ御垂念賜ハリ度此段奉請願候也

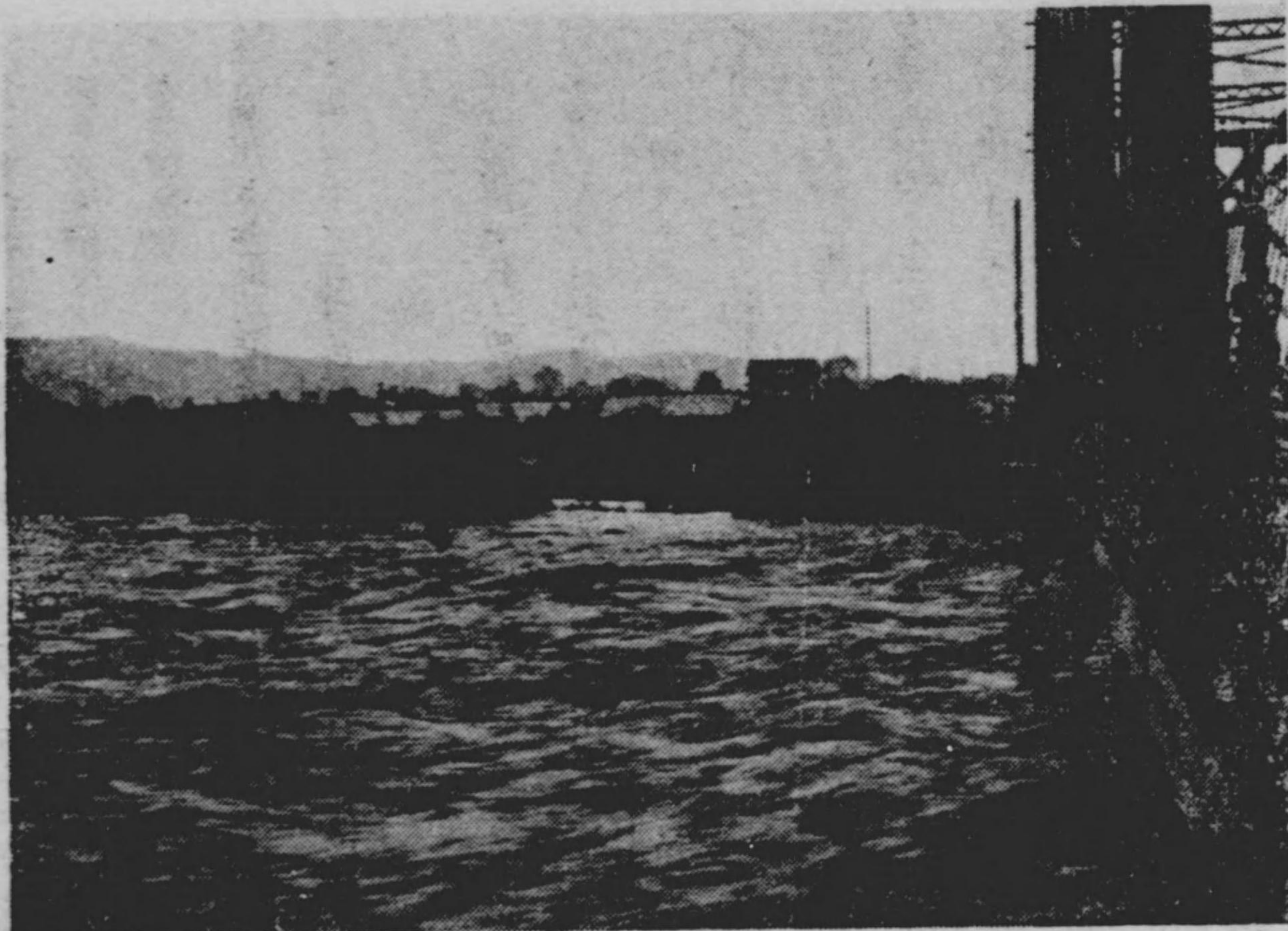
渡良瀬川改修群馬期成同盟會は昭和十三年六月結成せられ之が改修實施に關し數次に亘り關係各方面に陳情を爲し來れり。即ち六月十三日群馬縣知事に又同月二十日内務大藏兩大臣及關係方面へ陳情を爲したるが其の陳情書は左の如し。

陳情書

渡良瀬川ハ其ノ源ヲ栃木縣足尾連山ニ發シ急峻ナル山地ヲ南下シ群馬縣内ニ入り桐生市ヲ貫流シ支川桐生川ヲ合セテ再ビ栃木縣ニ入り足利市ヲ過ギ東流シテ利根川ニ合流スル延長百八軒ニ及ブ大河川ニシテ灌溉ハ勿論地方ノ文化産業ノ發達ニ培ヒタル所大ナルモノアリ然ルニ此ノ水源地タル足尾連山ハ足尾鑛山ノ煙害ニ依リ全山ノ草木枯死シテ雨水貯溜ノ機能ヲ缺キ降雨毎ニ土砂ヲ崩壞シ河床之方爲ニ高マリ河幅徒ラニ擴大シ河身ノ變遷亦常ナキニ至リ平素ノ流量ハ極メテ僅少ナルニ不拘一朝大雨ノ曉ニハ忽チ大洪水トナリ沿岸土地ニ慘害ヲ與ヘラレツ、今日ニ及ベリ往昔ノコトハ暫ク措クトスルモ明治三十五年及同四十三年ノ大洪水ニ際シ當地方ノ被害ハ人畜ノ死傷橋梁家屋田畑ノ流失家屋ノ浸水等夥シキ數ニ上リ其ノ慘狀實ニ言語ニ絶スルモノアリ

支川桐生川ハ其ノ水源ヲ異ニスト雖モ之亦山林濫伐ノ爲水源涵養ノ力乏シク渡良瀬川沿岸同様ノ狀態ニ在リ政府ニ於テハ明治四十三年ヨリ大正十四年ニ至ル間ニ於テ利根川合流點ヨリ上流栃木縣足利郡毛野村岩井山下迄ノ改修ヲ了シタリト雖モ其ノ上流未改修ニ屬スル桐生市、足利市並其ノ附近町村ニ在リテハ依然トシテ慘禍ヲ受クルノ現狀ニ置カレ沿岸住民ハ悚々トシテ常ニ憂慮措ク能ハザルノ狀況ナルヲ以テ屢々陳情請願ヲ爲シ之ガ改修ノ實施ヲ念願セルコト久シキモノ





波良瀨川の浪に根根に溺し近浸才し錦橋根に文交絶す  
 (昭和十三年九月一日)

アリ

内務當局昨春來技術官ヲ派遣シ之ガ改修測量ヲ了シ目下鋭意根  
 本治水對策御企畫中ノ由ニ拜承ス之レ眞ニ暗夜ニ光明ヲ得タル  
 モノニシテ沿岸住民ハ大ニ之ヲ歡喜シ其ノ實施ノ一日モ速ナラ  
 ムコトヲ待望シテ止マザル次第ナリ冀ハ前陳ノ事情篤ト御明察  
 ノ上波良瀨川本流並支川桐生川ノ改修ヲ速ニ實施セラル、様格  
 別ナル御高配相仰茲ニ關係沿岸住民ヲ代表シ謹テ奉悃願候也

昭和十三年六月 日

- 會長 群馬縣桐生市長  
 關 口 義 慶 二  
 副會長 群馬縣山田郡相生村長  
 藍 原 和 十 郎  
 同 群馬縣桐生市助役  
 荻 野 欽 司  
 委員 群馬縣山田郡大間々町長  
 須 永 善 十 郎

又昭和十三年九月の大洪水に際し同月八日栃木期成同盟會と相提携して内務大臣及利根川治水協會長に對し波良瀨川及桐生  
 川の被害の慘狀を述ぶると共に其の改修工事の可及的速なる實施を陳情せり。其の陳情書左の如し

陳情書

波良瀨川及桐生川ノ改修工事施行方ニ付アハ糞ニ陳情請願致シ置キ候處去月三十一日夜來ノ豪雨ニ依リ本月一日未明ヨリ兩  
 川トモ未曾有ノ大洪水ヲ惹起シ沿岸地方ハ遂ニ甚大ナル被害ヲ受クルニ到リタルハ寔ニ遺憾ノ次第ニ有之候而シテ被害ノ詳

- 同 群馬縣山田郡川内村長  
 田 村 宗 吉  
 同 群馬縣山田郡毛里田村長  
 青 木 卓 爾  
 同 栃木縣足利郡菱村長  
 和 田 伊 三 郎  
 同 栃木縣足利郡小俣町長  
 齋 藤 千 代 松  
 同 待矢場兩堰普通水利組合管理者  
 太田町長 武 川 六 太 郎  
 同 赤岩堰普通水利組合管理者  
 桐生市長 關 口 義 慶 二



細ニ付テハ目下尙調査中ニ有之候得共試ニ桐生市附近ニ於ケル被害ノ概要ノミヲ舉クルモ別表ノ通ニシテ罹災者ノ救助、交通施設及河川沿岸等ニ對シテハ可及的應急ノ處置ヲ講シタリト雖モ沿岸土地ノ缺壞ニ因リ河巾徒ニ擴大シ川床著シク高マリ再ヒ今回ノ如キ増水ヲ招來セムカ如何ナル大災害ヲ被ルヤモ計リ難キ状態ト相成リ寔ニ心痛ノ至リニ堪ヘス候就テハ國費御多端ノ折柄トハ存候得共此ノ際急速ニ兩川ノ改修工事ノ實施方特ニ御配慮相仰度關係沿岸住民ヲ代表シ謹テ茲ニ重ネテ奉聞願候也

昭和十三年九月八日

渡良瀬川改修群馬期成同盟會

- |     |                |       |
|-----|----------------|-------|
| 會長  | 群馬縣桐生市長        | 關口義慶  |
| 副會長 | 群馬縣山田郡相生村長     | 藍原和十郎 |
| 同   | 群馬縣桐生市助役       | 荻野欽司  |
| 委員  | 群馬縣山田郡大間々町長    | 須永善十郎 |
| 同   | 群馬縣山田郡川内村長     | 田村宗吉  |
| 同   | 群馬縣山田郡毛里田村長    | 青木卓爾  |
| 同   | 栃木縣足利郡菱村長      | 和田伊三郎 |
| 同   | 栃木縣足利郡小俣町長     | 齋藤千代松 |
| 同   | 待矢場兩堰普通水利組合管理者 | 武川六太郎 |
| 同   | 群馬縣新田郡太田町長     |       |

同 赤岩堰普通水利組合管理者

群馬縣桐生市長

關口義慶

(二) 都市計畫

飛躍的發展途上にある本市は夙に都市計畫法の適用を要望し來れるが法律改正の結果昭和九年一月一日より當然之を適用せらるゝこととなり、爾來着々諸般の手續を進めつゝあるが其の概要を擧ぐれば左の如し

區域の決定

昭和九年十二月二十一日内務省告示第六三七號を以て桐生市山田郡相生村、廣澤村、新田郡笠懸村大字阿左美の區域を以て桐生都市計畫區域と決定せり

市街地建築物法の適用

昭和十年三月十四日内務省告示第一一九號を以て桐生市の區域に市街地建築物法適用する旨定められたり。

都市計畫街路及巾員の決定

昭和十二年六月二日内務省告示第三九七號を以て桐生都市計畫街路及巾員決定せられたり。

其の街路數左の如し

- |      |     |          |     |
|------|-----|----------|-----|
| 二等大路 | 一類線 | 巾員 一八米以上 | 三線  |
| "    | 二類線 | 巾員 一五米以上 | 三線  |
| "    | 三類線 | 巾員 一二米以上 | 二〇線 |
| 一等小路 |     | 巾員 七米以上  | 二二線 |



備考 其の後一等小路一線を追加せり。  
事業の決定其の他

一、昭和十三年一月十三日内務省告示第十五號を以て左の通事業を決定せり

第一、桐生市都市計畫街路中左の路線を都市計畫事業とす

等級	街路類別	番號	街路名稱	起點	終點	主ナル經過地	市員
二	三	二〇	境野笠懸線	琴平町	境野町		「メートル」 一一

備考 本事業は昭和橋架設を主とするものにして總工費金拾八萬圓なり。

第二、本事業の執行年度割左の通定む。

昭和十二年度 約四割八分

昭和十三年度 約五割二分

二、昭和十三年五月五日内務省告示第二五三號を以て左の通事業を決定せり

第一、桐生市都市計畫街路中左の路線を都市計畫事業とす

等級	街路類別	番號	街路名稱	起點	終點	主ナル經過地	市員
一	小	一七 二二	山手町線	小曾根町二丁目 本町六丁目	横山町		「メートル」 一一 七、二五

第二、本事業の執行年度割左の通定む

昭和十三年度 約四割

昭和十四年度 約三割

昭和十五年度 約三割

桐生市都市計畫事業道路新設擴張受益者負担規程の設定

昭和十三年五月五日内務省告示第二〇號を以て左の通桐生市都市計畫事業道路新設擴張受益者負担規程定められたり

### 桐生市都市計畫事業道路新設擴張受益者負擔規程

第一條 桐生市長ハ都市計畫事業トシテ其ノ執行スベキ道路ノ新設又ハ擴張ニ要スル費用ヲ本令ノ定ムル所ニ依リ受益者ヲシテ負擔セシムベシ

第二條 大正九年内務省令第二十八號ノ區劃ハ道路ノ周圍ニ於テ其ノ境界線(街角ヲ剪除シタリ部分ニ在リテハ其ノ剪除セザル部分ノ道路境界線ヲ延長シタル線)ヨリ道路(道路ノ一部ヲ成ス廣場ニ在リテハ之ニ接續スル幅員最モ大ナル道路)ノ幅員ノ五倍ノ地域トス

土地ノ狀況ニ依リ前項ノ負擔區劃ヲ擴張スル必要アリト認ムルトキハ前項ノ道路幅員ノ十倍以内ニ於テ内務大臣之ヲ決定ス幅員十一米ヲ超ユル道路ノ幅員ニ付テハ第三條第七項ノ率ニ依リ遞減ヲ爲シタルモノヲ以テ前二項ノ道路ノ幅員トス

第三條第五項ノ規定ニ依ル控除額ニ付別ニ負擔セシムル必要アリト認ムルトキハ其ノ區劃ハ第一項及第二項ノ規定ニ拘ラズ内務大臣之ヲ決定ス



## 第三條

前條第一項ノ區劃内ノ受益者負擔額ハ道路新設ノ場合ハ其ノ事業費ノ十分ノ五、道路擴築ノ場合ハ其ノ事業費ノ十分ノ四トス前條第二項ノ區劃内ノ受益者負擔額ハ道路新設ノ場合ハ其ノ事業費ノ十分ノ七、道路擴築ノ場合ハ其ノ事業費ノ十分ノ六以内ニ於テ内務大臣之ヲ決定ス道路擴築ノ場合ニ於テ其ノ擴築道路ノ地積ガ其ノ敷地内ニ在ル舊道路ノ地積ノ二倍以上トナルトキハ前二項ノ適用ニ關シテハ之ヲ道路新設ト看做ス

前項ノ地積ハ第四條第一號ノ區分毎ニ之ヲ計算ス  
 隧道、橋梁其ノ他特殊ノ工事又ハ特殊ノ物件ノ移轉ニシテ著シク多額ノ費用ヲ要スルモノアルトキハ其ノ費用ノ全部又ハ一部ヲ控除シタル額ヲ以テ第一項及第二項ノ事業費ト爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ控除スル額ハ市長之ヲ告示スベシ

道路ノ幅員十一米ヲ超ユル場合ニ於テハ其ノ超過部分ノ事業費ニ付左ノ率ニ依リ遞減シタルモノヲ以テ第一項及

第二項ノ事業費トス

- |             |     |
|-------------|-----|
| 一、十一米ヲ超ユル部分 | 一割引 |
| 二、十三米ヲ超ユル部分 | 二割引 |
| 三、十五米ヲ超ユル部分 | 三割引 |
| 四、十七米ヲ超ユル部分 | 四割引 |
| 五、十九米ヲ超ユル部分 | 五割引 |

前條第四項ノ區劃内ノ受益者負擔額ハ第五項ノ控除額ノ範圍内ニ於テ内務大臣之ヲ決定ス

第四條 各受益者ノ負擔金額ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ定ム

一、各路線ヲ土地ノ狀況ニ依リ適當ニ區分シ其ノ區分ニ依リ第二條ノ負擔區劃ヲ一箇又ハ數箇ノ負擔區トシ該當區分内ノ事業費ニ付其ノ區ノ負擔額ヲ定ム

二、前號ノ負擔區ヲ利益ヲ受クル厚薄ニ依リ一箇又ハ數箇ノ地帯トシ各地帯ニ前號ノ負擔額ヲ一定ノ率ニ依リ配分ス

三、道路ニ接スル地帯内ノ土地ニ對シテハ其ノ地帯ニ配分セラレタル負擔額ノ半額ヲ其ノ道路ニ接スル部分又ハ間口ノ利用之ト同等ト認ムル部分ノ長ニ比例シ他ノ半額ヲ其ノ地積ニ比例シ其ノ他ノ地帯内ノ土地ニ對シテハ其ノ地帯ニ配分セラレタル負擔額ヲ其ノ地積ニ比例シテ配分ス

第二條第二項ノ規定ニ依リ負擔區劃ヲ定メタル場合ニ於テハ前項第三號ノ間口負擔ノ割合ヲ三分ノ一迄低下シ其ノ殘額ヲ地積ニ比例シ各當該土地ノ受益者ノ負擔金額ヲ定ムルコトヲ得

第一項第一號ノ負擔區、第二號ノ地帯及率、前項ノ規定ニ依リ定メタル間口負擔ノ割合ハ市長之ヲ告示スベシ

第五條 河川、溝渠、鐵道、軌道、崖地等ニシテ土地ノ利用ヲ區分スベキ地物ガ第二條第一項、第二項ノ地域内ニ在ルトキハ之ヲ以テ負擔區劃ノ限界トス

同等以上ノ效用アリト認ムル並行道路ガ第二條第一項、第二項ノ負擔區劃ノ二倍ノ區域内ニ在ルトキハ其ノ道路トノ間隔ノ中央線ヲ以テ負擔區劃ノ限界トス但シ其ノ間隔内ニ前項ノ地物アルトキハ前項ノ例ニ依ル

前二項ノ場合ニ於ケル各受益者ノ負擔金ノ算定ニ付テハ負擔區劃ノ限界ナキモノト看做ス

第六條 負擔金ハ其ノ負擔區ノ事業着手ノ日ノ現在ニ依ル受益者ヨリ之ヲ納付セシム

前項ノ事業着手ノ日ハ市長之ヲ告示スベシ



各受益者ノ負擔金額ヲ決定シタルトキハ市長之ヲ受益者ニ通知スベシ

第七條 市長ハ各受益者ヲシテ市長ノ相當ト認ムル擔保ヲ提供シ且ツ利子ニ相當スル増負擔金ヲ納付シ前條第三項決定通知ノ日ヨリ三年ヲ超エザル期間ニ於テ負擔金ヲ分割延納ヲ爲サシムルコトヲ得

第八條 負擔金ハ事業費豫算額ニヨリ算出ス

前項ノ負擔金額ガ事業費精算額ニ依リ算出シタル各受益者ノ負擔金額ニ比シ超過スルトキハ之ヲ還付シ不足スルトキハ之ヲ追徴ス 但シ市長ニ於テ大差ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第一項ノ事業費豫算額及前項ノ事業費精算額ハ市長之ヲ告示スベシ

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ負擔金ヲ減免スルコトヲ得 但シ第二號及第三號ノ場合ニ於ケル減免額ハ其ノ寄附額ノ工費額又ハ提供額ヲ超ユルコトヲ得ズ

一、都市計畫法又ハ道路法ノ規定ニ依リ道路ノ新設又ハ擴張若ハ路面ノ改良ニ要スル費用ヲ著シク利益ヲ受クルニ依リ負擔スベキ關係ニ該當シタル土地ガ其ノ事業着手ノ日ヨリ五年以内ニ更ニ本令ニ依ル負擔金ヲ課セラレベキ關係ニ該當シタルトキ

二、道路ノ新設又ハ擴張ニ要スル費用ヲ補足スル爲土地、物件、勞力若ハ金錢ヲ寄附シ又ハ市長ノ適當ト認ムル工法ニ依リテ工事ヲ施行シ之ヲ寄附シタル者アルトキ

三、道路ノ新設又ハ擴張ニ要スル土地ヲ土地區劃整理ノ施行ニ依リ無償ニテ國若ハ公共團體ノ所在地ニ編入シ又ハ無償ニテ提供シタルトキ

四、土地ノ狀況ニ依リ市長ニ於テ必要アリト認ムルトキ

五、左ノ土地ニ付其ノ受益者ノ申請ニ依リ必要アリト認ムルトキ

イ、國、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スル土地

ロ、神社、寺院、祠宇佛堂ノ境内地、教會所、説教所ノ構内地及私立學校用地免租ニ關スル法律第一條ニ掲

グルモノノ用ニ供スル土地

ハ、都市計畫法第十六條第一項ノ土地

ニ、市街地建築物法第二十六條第二項ノ道路ノ境域内ニ在ル土地

前項第二號及第三號ノ寄附額又ハ提供額ハ市長之ヲ評定シ第三條ノ事業費ニ算入ス

第十條 土地區劃整理施行者ニ於テ地區内ノ有租地ノ所有者ニ課セラレベキ負擔金ニ相當スル金額ヲ納付シタル場合ニ於テハ當該受益者ノ負擔金ハ之ヲ免除ス

第十一條 本令ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

桐生驛裏土地區劃整理ノ決定

昭和十三年五月五日内務省告示第二五四號を以て左の通桐生驛裏土地區劃整理決定せり

桐生都市計畫桐生驛裏土地區劃整理

第一、區 域

桐生市榮町、美原町ノ全部



元宿町、清瀬町、織姫町、錦町一丁目、錦町二丁目、巴町一丁目、巴町二丁目、稻荷町、本町六丁目、西堤町、宮前町  
 一丁目、旭町、常盤町、濱松町一丁目、濱松町二丁目、清水町、川岸町ノ各一部（別紙圖面表示ノ通）  
 地積 約壹百七萬四千九百七平方「メートル」

（圖面省略）

第二、設計方針

- 一、街路ハ都市計畫トシテ決定セラレタルモノヲ除クノ外土地ノ狀況ヲ精査シテ其ノ配置ヲ定ムルモノトシ其ノ幅員ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外六「メートル」以上トス
  - 二、公園其ノ他ノ綠地ハ總地積ノ三%以上トシ土地ノ狀況ヲ精査シテ適當ニ之ヲ配置シ、其ノ敷地ハ無償ヲ以テ桐生市有トナスモノトス
  - 第三、本地區内ノ都市計畫街路及幅員十一「メートル」以上ノ區劃整理街路ノ築造費並其ノ敷地内ニ在ル工作物ノ移轉及小公園施設費ハ桐生市ニ於テ其ノ全額ヲ負担スルモノトス
  - 第四、本計畫ノ些少ノ變更ヲ必要トスル場合ハ都市計畫群馬地方委員會ノ議ヲ經テ内務大臣限り之ヲ變更スルコトヲ得
- 都市計畫事業ノ概要は以上ノ如クにして昭和十三年十月十五日昭和橋起工式を舉行せり

五 教 育

(一) 概 説

小學校は始め東、西、南、北の四校なりしが兒童増加に順應する爲昭和四年昭和尋常高等小學校を新設し其後境野村、廣澤村と相次ぎて本市に合併するに及び小學校數は現在七指を以て數ふるに至り更に近く單獨高等小學校新設せらるゝことゝなれり。

其他官立桐生高等工業學校（大正五年設立）縣立桐生中學校（大正六年設立）縣立桐生高等女學校（明治四十一年設立）縣立桐生工業學校（昭和九年設立）其他各種私立學校あり。桐生市圖書館は昭和十年十月設立せられ諸般の教育施設は略々完備するを得たり。

各學校の狀況を一覽すれば左表の如し

學 校 一 覽

昭和十三年四月末日現在

種別	學 校 名	兒童生徒數	職 員 數	所 在 地
小 學	桐生尋常高等小學校	二、五二二	四三	泉町
	桐生西尋常小學校	一、五九二	二七	小曾根町一丁目
	桐生南尋常小學校	一、八二六	三二	新宿通二丁目
	桐生北尋常小學校	一、九一一	三三	本町二丁目
	桐生昭和尋常高等小學校	二、四四八	四三	美原町





(日六十月一十年十和昭) 式幕除神念記幸行

下し賜ひ 又昭和九年十一月十六日 聖上陛下本市行幸に際りては畏くも 聖駕を桐生高等工業學校及び桐生西尋常小學校に枉げさせ給へり。

(二) 小學校及幼稚園

戸口の増加に伴ひ児童數亦著しく増加せる爲之に對應して學級數の増加、校舎の増築等を行ひ來りしが概説に述べたるが如く昭和四年昭和尋常高等小學校を新設し更に近く單獨高等小學校設立せらるゝことゝなれり。現在本市小學校々數七にしてその在籍兒童數は左表の如く昭和十三年四月末日現在にて一二、三九〇人にして前年に比し三五八人の増加にして最近數年間に於ける小學校兒童數の増加は一年平均四五八人學級は毎年平均八學級内外の増加を示せり。

而して明治三十五年六月三日

皇太子殿下(嘉仁親王)東北御巡覽の際桐生西尋常小學校に行啓遊ばされ御手植の松を

計	幼稚園		中等學校										青年學校						校					
	生	幼	桐生高等工業學校	桐生高等女學校	桐生高等家政女學校	桐生高等裁縫女學校	桐生高等看護婦學校	桐生高等工業學校	桐生高等工業學校	桐生高等工業學校	桐生高等工業學校	桐生高等工業學校	桐生高等工業學校	桐生高等工業學校	桐生高等工業學校	桐生高等工業學校	桐生高等工業學校	桐生高等工業學校	桐生高等工業學校	桐生高等工業學校	桐生高等工業學校	廣野尋常高等小學校	境野尋常高等小學校	
一六、七五八	一八〇	八四三	一一一	一九〇	三五七	六一〇	二二七	二七三	四九五	二二九	二六	四五	二五	一八	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
六一二	五	一一四	一八	一二	一八	二五	四五	二六	二九	一九	一三	一三	一二	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
	小曾根町三丁目	天神町一丁目	宮本町	稻荷町	小曾根町二丁目	東會根町二丁目	天神町一丁目	西久方町二丁目	小曾根町三丁目	廣澤町四丁目	境野	美原	本町二丁目	新宿通二丁目	小曾根町一丁目	泉	廣澤町四丁目	境野	廣澤町四丁目	境野	廣澤町四丁目	境野	廣澤町四丁目	境野



在籍兒童數

年次	小學校數		學級數		在籍兒童數	
	尋常	高等	尋常	高等	男	女
昭和四年	三	二	一〇〇	一一二	二、九六六	二、九四二
五年	三	二	一〇〇	一一二	三、一四五	三、〇四六
六年	三	二	一〇〇	一一二	三、二八九	三、二一四
七年	三	二	一〇〇	一一二	三、五五一	三、四四三
八年	三	二	一〇〇	一一二	四、〇七七	三、九四六
九年	三	二	一〇〇	一一二	四、二六一	四、一五七
十年	三	二	一〇〇	一一二	四、四二九	四、四〇四
十一年	三	二	一〇〇	一一二	四、六三七	四、六四六
十二年	三	二	一〇〇	一一二	五、四三二	五、三八〇
十三年	三	二	一〇〇	一一二	五、四三三	五、四五五
計	三	二	一〇〇	一一二	四三、二二	四三、二二

昭和十三年四月末日現在本市學齡兒童數は男六、九七八人、女七、〇〇二人合計一三、九八〇人にしてこの内就學者は一三、九五九人、その就學率は九九、八五%にしてこれを前年に比すれば〇、〇四%の増加となれり。  
 學齡兒童の狀況左表の如し。

學齡兒童

各年四月末日現在

年次	就學		不就學		合計	
	男	女	男	女	男	女
昭和四年	三、九八〇	三、九四四	一	一	三、九八一	三、九四五
五年	四、一〇〇	四、〇九四	一	一	四、一〇六	四、〇九九
六年	四、二二九	四、二六四	一	一	四、二三〇	四、二六六
七年	四、五四五	四、五六一	一	一	四、五四六	四、五六〇
八年	五、二九〇	五、二九一	一	一	五、二九五	五、一九四
九年	五、五三二	五、四三三	一	一	五、五三三	五、四四〇
十年	五、八三七	五、六八一	一	一	五、八三九	五、六九二
十一年	六、〇七一	五、九九九	一	一	六、〇七二	六、〇〇四
十二年	六、七五五	六、六六七	一	一	六、七六八	六、六八〇
十三年	六、九六八	六、九六一	一	一	六、九七〇	六、九〇二
計	四、一〇〇	四、〇九四	一	一	四、一〇六	四、〇九九

小學校兒童入學及卒業

年次	入學		卒業	
	尋常	高等	尋常	高等
昭和四年	五三九	四三四	四二〇	四一一
五年	六二一	五三〇	三九九	三九九
六年	五四七	五七七	三九九	四〇五
七年	七〇四	六八三	四七一	四七一
八年	七二〇	六九一	五八六	五三三
計	一、三四七	一、四九四	一、四七二	一、四七二



全	九	七五八	七七九	三六六	二二一	二、一二四	五九〇	五八五	二二七	一、五五
全	十	八三三	八〇三	四六一	二一三	二、三一〇	七一六	六〇二	二六〇	一、七二九
全	十一	八〇〇	七九六	三六七	二〇六	二、一六九	六三八	五九九	二七九	一、六七五
全	十二	九七九	九八〇	四四三	一七九	二、五八一	七〇六	七二一	三八九	一、七四
全	十三	九四五	九八四	五八五	三五六	二、八七〇	八八四	八五〇	三一九	二、二三四

昭和十三年四月末日現在に於ける教員数は二七人にして十年前の昭和四年に比し八九人の増この内本正数一八四人にして七三人の増なり。而して昭和十二年に於て教員一人に對する児童數平均五七人なり。

小學校費（經常部）亦別表の如く逐年増加し昭和十二年度經常部小學校費決算額一八六、九六八圓は同年度決算經常部總額の五一、五四%に當り昭和十三年度經常部小學校費豫算額一九五、二〇四圓は全年度本市經常部豫算總額の五一、五三%に當り。

### 小學校費

各年四月末日現在

年次	本		正		專		准		代用		合		計	學級百ニ對スル本正數
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
昭和四年	六六	四五	四八	四五	四	四	二	三	一	一	七五	五三	一一八	九九
全五年	七〇	四八	四一	四五	五	四	一	三	二	一	七七	五六	一三三	一〇二
全六年	七七	四一	四一	四五	五	四	一	三	二	一	八五	五〇	一三五	九九
全七年	七九	四三	四〇	四五	六	四	一	三	二	一	八六	五四	一四〇	一〇〇
全八年	九五	四〇	四三	四五	六	四	一	三	二	一	一〇五	五四	一五九	九九
全九年	一〇五	四三	四三	四五	六	四	一	三	二	一	一二〇	五二	一七二	九九
全十年	一一三	四六	四六	四五	六	四	一	三	二	一	一二三	五五	一七八	一〇〇

全	十一年	一一二	四六	七	八	一	九	二	二八	五六	一八四	九六
全	十二年	一二四	五五	七	八	一	九	二	二八	七〇	二一三	九一
全	十三年	一二三	六一	八	九	一	九	二	二八	七四	二二七	九四

### 小學校費（經常部）豫算及決算

年度別	豫算額	決算額	兒童一人當豫算
昭和四年度	一一三、五〇六圓	一一七、八三二圓	一八圓八一錢
全五年度	一二五、一八四	一二九、一二七	一八、三三
全六年度	一二五、八八八	一二九、三五九	一七、六九
全七年度	一二七、五二七	一二一、三一〇	一六、五三
全八年度	一四七、二四八	一三八、三四五	一六、四八
全九年度	一五五、七三九	一四八、九六四	一六、五四
全十年度	一六〇、八七五	一五六、四九六	一六、一四
全十一年度	一六七、六八四	一六〇、六八二	一六、一一
全十二年度	一九〇、四七六	一八六、九六八	一五、八三
全十三年度	一九五、二〇四	一九五、二〇四	一五、七五

次に學校衛生に關しては昭和六年度より各校共主任校醫の外に眼科、齒科、耳鼻咽喉科の各専門醫を設置し看護婦を指揮して兒童の保健衛生に不斷の努力を拂ひつゝあり。

又本市教育會は大正十年八月より水源地公園内渡良瀬河畔の櫟林に夏期林間學校を開設し虚弱兒童の養護を行ひ來れり。同地は西南に渡良瀬川を控へ遠く上毛三山を望む。林中は空氣清く日光の照射亦適當に且民家工場に遠ざかりたる靜寂の地域

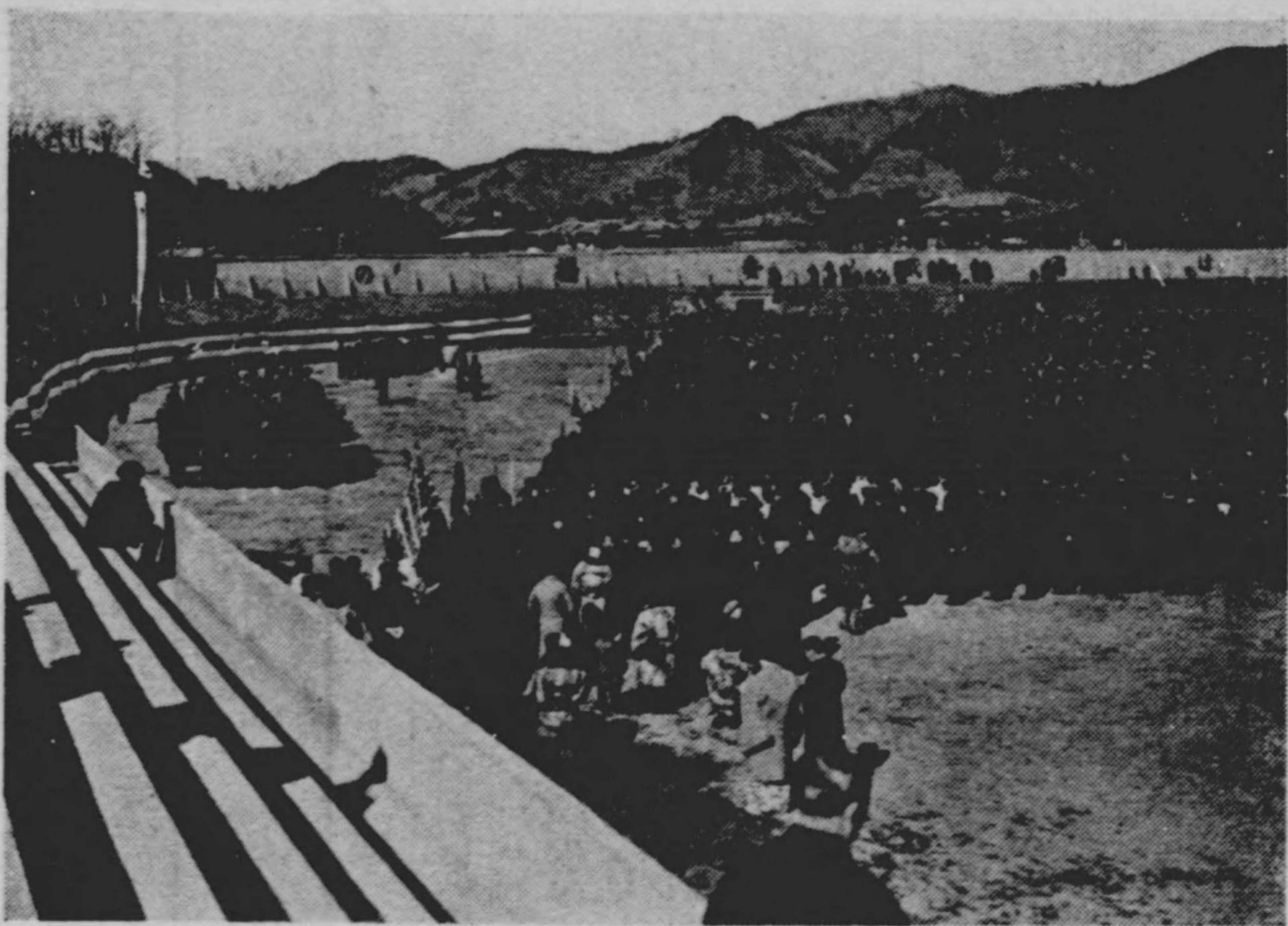


なり。川は遠浅にして深からず虚弱兒童には最適の自然の水泳場なり。盛夏の候尙炎暑を忘るゝ好適地なり。

又昭和四年より毎年十一月三日全國體育日をトして桐生體育協會主催の下に新川運動場に於て體育祭を實施し市内各小學校兒童青年學校生徒、中等學校生徒等之に参加し頗る盛況なり。

本市小學校區域内の兒童保護者並に有志者は各校毎に後援會を組織し兒童の衛生保健、體育獎勵の補助、運動會、學藝會、映畫教育の補助、貸與傘の設備、兒童學用品の給與教育研究及教育視察等の補助其他教育振興上必要と認めたる事項に對して援助を爲しつゝあり。

桐生幼稚園は市内小會根町三丁目に在り園舎は昭和十二年三月改築に係り現在園兒定員一八〇人保母五人なり。



建國祭の状況

三 専門學校及中等學校

官立桐生高等工業學校は大正五年設立せられ始め桐生高等染織學校と稱したるが大正九年四月一日より桐生高等工業學校と改稱せられたり。昭和十三年四月末現在にて生徒數八四三人職員一二四人にして本校は昭和九年十一月十六日長くも聖上陛下の臨幸を仰ぎ奉れり。

縣立中等學校には桐生中學校、桐生高等女學校、桐生工業學校の三校あり。桐生中學校は目下市内美原町に新築工事中なり桐生工業學校は設立後日淺く今春始めて卒業生を見るに至り、又桐生高等工業學校附屬商工夜學部あり。私立學校には桐生高等家政女學校、桐生樹徳裁縫女學校、桐生産婆看護婦學校等あり。

四 社會教育

一、青年學校

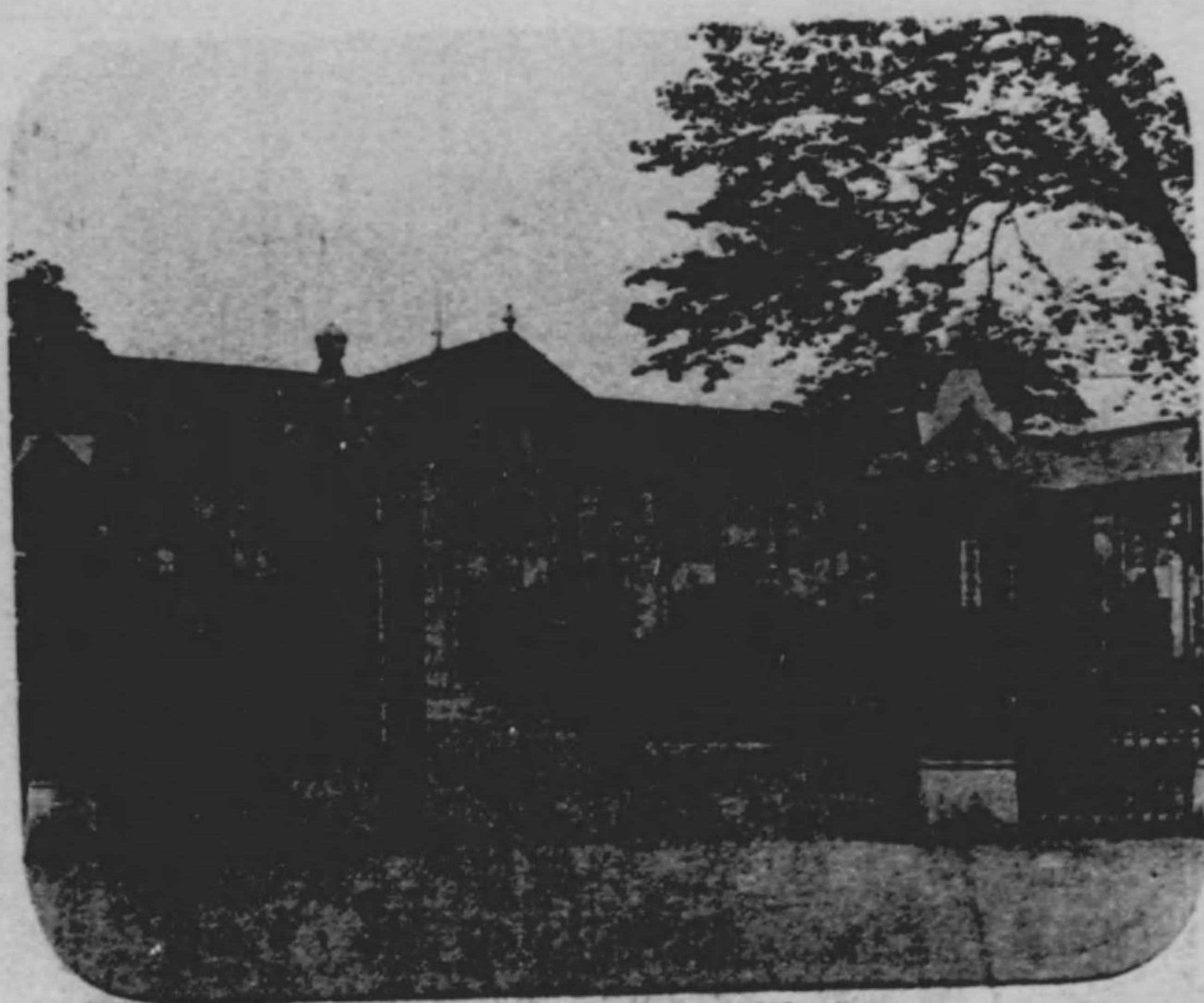
現在本市に青年學校七校あり、昭和十三年十二月末現在在籍生徒數九四〇人出席數七七二人にして出席率八二、一三%なり。而して記念行事として大正十五年七月青年訓練所開設以來毎年七月一日記念日をトし各青年學校聯合の上拂曉發火演習を行ひ或は講師を聘し一夜講習會、講演會等を行ふと共に念式及表彰式を舉行し又毎年十一月二十二日青年に下し賜はりたる御令旨拜戴記念日に際し縣社天滿宮社前に於て本市聯合青年團と合同し拂曉演習等の行事の後 令旨捧讀式を行ふ。

二、青年團



桐生中學校





桐生高等工業學校

桐生市聯合青年團は昭和三年六月従来の桐生市聯合青年會を改稱せるものなり。各小學校區域に別れ昭和十三年末現在團員總數八五〇人にして市長を團長に推戴し講習、講演、體育等の修養はもとより種々の社會奉仕事業にも統制ある活動を行ひつゝあり。

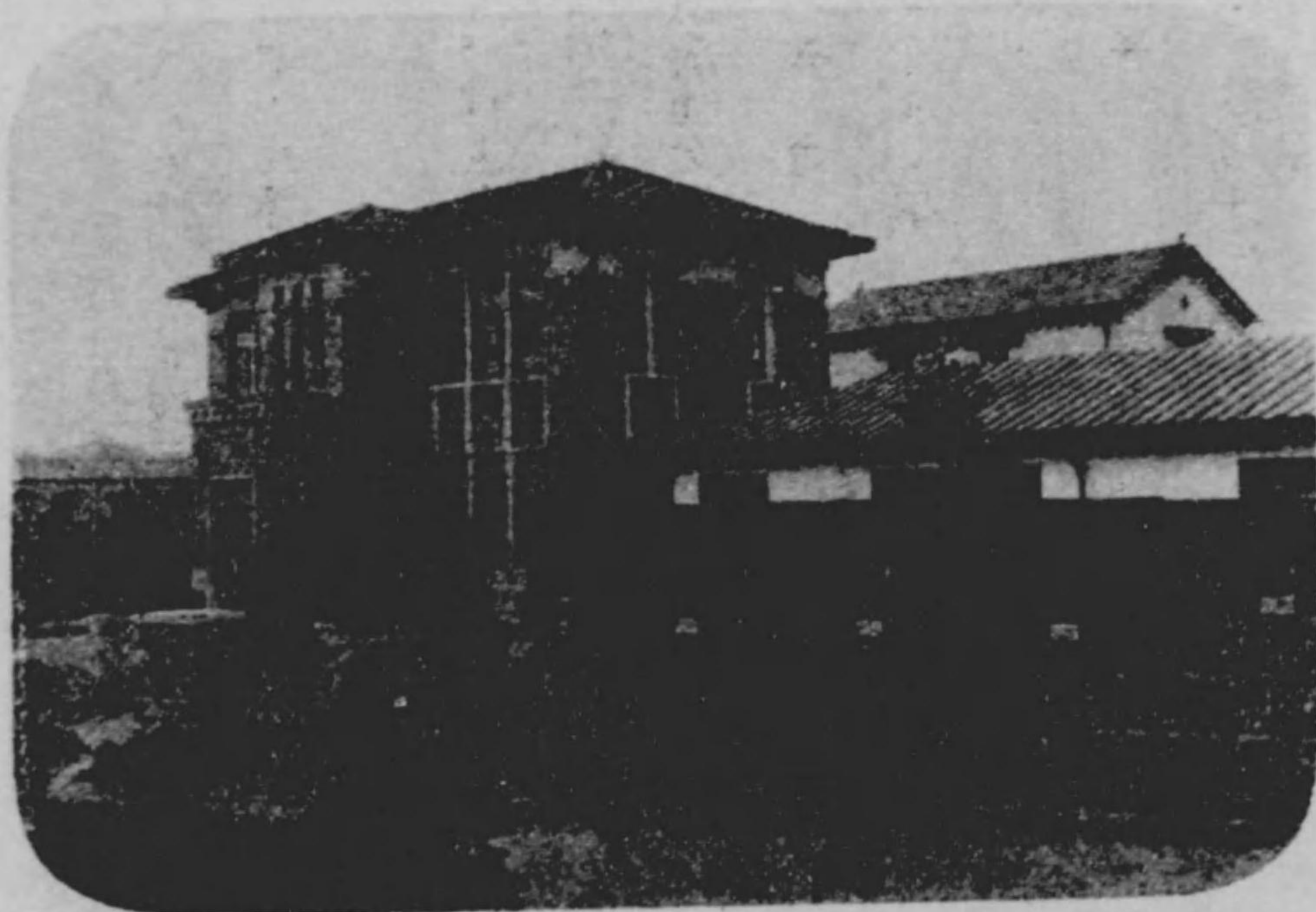
又別に桐生市聯合女子青年團は昭和二年 御大禮記念事業として設立せられ各小學校區域に分れ昭和十三年末團員總數六五〇人なり。

三、圖書館

本市圖書館は昭和十年十月竣工

し同年十一月三日より開館せり。總工費二萬三千餘圓建物總建坪一九四坪本館二階建木造タイル張りの近代的建築物にして昭和十三年三月末日現在藏書數一、三五八冊昭和十二年度中の閱覽延人員一六五、七五六人なり。

本館は又開館以來桐生郷土文化史談會の事務所及會場として毎月一回例會あり。其他桐生讀書會、桐生美術協會、教育報國會懇談會、エスベラント研究會、早稻田校外生同攻會等孰れも本館後援の下に會合を開催せり。



桐生市圖書館

本市圖書館協賛會は圖書館助成の目的を以て昭和十年五月設立せられ昭和十三年十二月末現在會員數は名譽會員八九人特別會員四五人、普通會員一、〇二五人、合計一、一五九人なり。

設立以來の狀況左表の如し。

圖書館藏書類別及冊數

各年三月末現在

年度	種別	門類									合計	
		總記	精神科學	歷史學	社會學	自然科學	工業藝術	美術	語學	文學		兒童圖書
昭和十一年	全	九六六	七四六	八七	一一二	三三九	一九九	三三二	一一〇	一、六三三	六五二	七、三五〇
昭和十二年	全	一、三六一	八〇九	九六	一、四〇五	四三三	五四四	五八八	三三二	一、九六五	七二七	九、四五六
昭和十三年	全	一、八八四	九六六	一、一三四	一、九七七	六二五	七六〇	六四六	六八	二、四七九	九三	一三、三五六

圖書館閱覽圖書冊數

年度	種別	門類									合計	
		總記	精神科學	歷史學	社會學	自然科學	工業藝術	美術	語學	文學		
昭和十一年	全	二、六〇四	六五九	二五	一、五三三	一、三三六	二、〇九五	一、〇三二	一、〇九九	九七三	五、二〇八	一七、〇四七
昭和十二年	全	一、〇〇一	二五九	九七	七〇	三三	七四	一、〇三二	一一三	九六	一、〇六〇	二、六四七
昭和十三年	全	二、五八五	二、九二	六、七五三	七、三二	六、二九八	五、五三	四、三六六	一、三三九	一、八四二	五、九〇六	二、一七、一七二
全	全	六、一九〇	一、三三三	一、一三三	一、一五七	九、七〇四	五、九〇七	一、八八一	四、九二九	二、〇八八	一、九、三六六	三九、三三三



圖書館圖書閱覽者數

年度	閱覽者總數	本館	新聞雜誌室	兒童室	平均	計
昭和十年度(自十一月至三月)	四五、一八八	一〇四	一〇〇	一六九	三三三	
十一年度	一三六、〇九二	一三三	一六七	一六五	四六四	
十二年度	一六五、七五六	二〇八	一七八	一八〇	五六六	

圖書館圖書職業別閱覽者數

年度	職業別		農工業	官公吏人	軍人	宗教家	記者	其他	無職	不明	學生	兒童	計
	男	女											
昭和十年度(自十一月至三月)	二、七〇八	二、三三三	四、〇四一	一、七二二	四二七	二九〇	八四七	五、四七二	一、三三三	一、四、六六七	二五、〇三二		
十一年度	二、〇四五	一、〇四五	三、〇〇〇	一、七二二	八六七	二九〇	二、七二二	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三	六八、四〇〇
十二年度	三、〇〇〇	二、〇〇〇	四、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	九二、八七二

備考 新聞雜誌閱覽者職業別ハ算入セズ

六、衛生

(一) 醫療施設及傳染病豫防施設

都市の發展と共に醫療施設の完備は不可缺のものなり。昭和十三年末現在本市内所在病醫院總數は四四にして醫師五四人齒科醫師二九人藥劑師一八人產婆四八人看護婦二六七人にして醫師一人に對する人口一、八六一人なり。

治療機關

各年十二月末日現在

年次	醫師	齒科醫師	藥劑師	產婆	看護婦	藥種商	醫師一人ニ付人口
昭和四年	三〇	二二	一〇	三二	五七	二二	一、六六一
五年	三二	二二	九	三一	五七	二二	一、六四二
六年	三五	二二	九	三六	六二	二二	一、五八二
七年	三六	二五	九	三四	六二	二二	一、五八五
八年	四四	二九	二	四四	一〇七	二四	一、四七九
九年	五八	二五	一	五一	一四三	二八	一、一六四
十年	五七	三〇	一	五三	一〇二	三三	一、三三五
十一年	五七	二八	一	五一	一一五	三二	一、四一二
十二年	五五	二八	一	四八	一三九	三二	一、六八九
十三年	五四	二九	一	四八	一六七	三六	一、八六一

本中傳染病患者の狀況は左表の如く之を病別に見るに從來腸チブス及バラチブス患者多數を占めたるが昭和三年以降チブス豫防注射を實施せると昭和七年以上水道布設等により爾來著しく其の數を減じたり乍然チブス豫防注射未施行者に發生を見る



は甚だ遺憾とする所なり。

・ 傳染病患者

年次	傳染病種別										計	轉歸 全治一死亡	現在數	人口	人口千人當 患者割合
	腸チフス	パラチフス	赤痢	疫痢	痢	赤痢	疫痢	痢	赤痢	疫痢					
昭和四年	二〇	一四	一五	一六	二	一四	一	二	七	三	五二	二二	四九、八四四	一、四六	
五年	一九	三七	一六	二四	一	九	〇	〇	〇	〇	六九	二七	五三、五七一	一、八七	
六年	二三	四	一六	二	一	四	一	一	四	一	二九	二四	五五、三六一	一、八九	
七年	二七	九	七	五	一	一	一	一	一	一	五三	一	五七、〇八五	一、一九	
八年	一四	二	二	三	一	一	一	一	一	一	四九	一	六五、〇七六	一、〇六	
九年	二	二	二	一	一	一	一	一	一	一	〇九	一	六七、四九二	一、〇六	
十年	七	一	〇	一	一	一	一	一	一	一	八四	一	七七、一一九	一、三六	
十一年	三〇	九	一	一	一	一	一	一	一	一	三三	一	八〇、四六〇	一、八六	
十二年	三三	五	一	一	一	一	一	一	一	一	八六	一	九二、八九九	一、三二	
十三年	五四	二	二	四	一	一	一	一	一	一	二二	一	一〇〇、四六九	二、三五	

本市傳染病豫防委員の定數は現在十六人にして市公民中より選定する者十三人開業醫師中より市長の選任する者三人にしてその任期は四年なり。衛生組合は全市十三組合にして昭和十三年末に於て組合長十三人副組合長六四人委員三八〇人其局に當り傳染病豫防一般保健衛生に努力しつつあり、而して全市一丸とせる衛生組合聯合會を設置し保健衛生の改善を圖るは多年の希望なりしが機漸く熟し昭和十四年二月十一日其の結成を了したり。昭和十三年中に於ける傳染病發生區域別狀況は別表の如し。

傳染病發生區域別調

昭和十三年中

區別	腸チフス	パラチフス	赤痢	疫痢	痢	赤痢	疫痢	痢	赤痢	疫痢	計	内死亡
第一區	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
第二區	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
第三區	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
第四區	五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
第五區	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
第六區	六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
第七區	八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
第八區	九	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
第九區	五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
第十區	六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
第十一區	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
第十二區	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
第十三區	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	五四	二	二	四	一	一	一	一	一	一	一	一

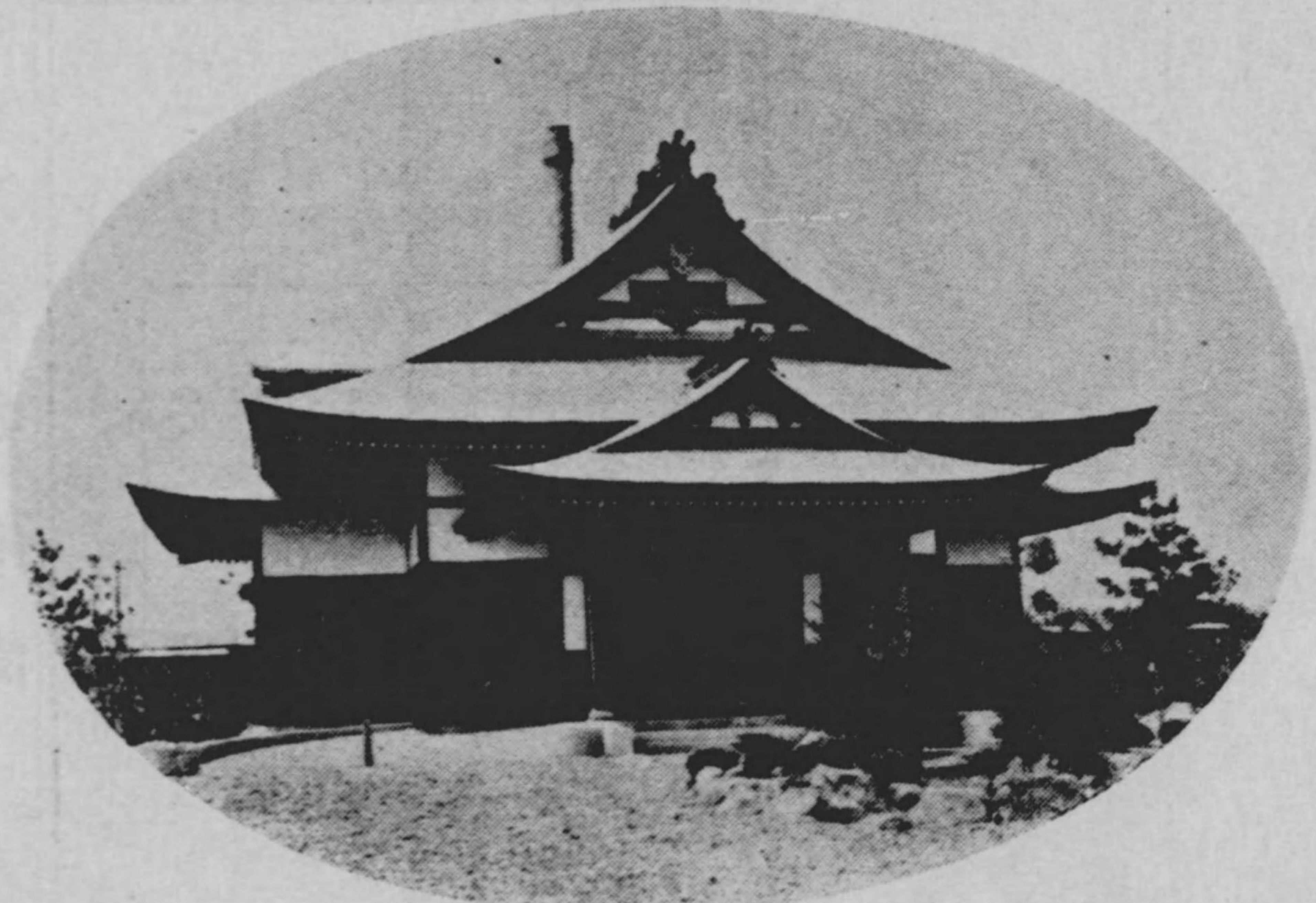
桐生市立病院は市内元宿町に在り、病床四八にして現在職員は醫師二 事務員一 看護婦一 雇傭人二 なり。種痘成績左表の如し。



種痘成績

(右傍ハ第一期 左傍ハ第二期ヲ示ス)

年別	要種痘人員	善感	不善感	検査未了	計	善感	不善感	計
昭和四年	一、九七九	一、四九四	一、五五〇	一、〇一四	一、六四二	三、四	一、九	三、三
全五年	一、六九〇	一、五〇五	一、四四一	一、〇一四	一、五二六	三、六	一、六	三、二
全六年	一、七九四	一、三四二	一、四九八	一、〇一四	一、五二〇	三、一	一、一	三、二
全七年	一、〇六七	一、五三三	一、二四七	一、〇一四	一、七七一	四、〇	一、〇	三、〇
全八年	一、六一七	一、六八四	一、五二四	一、〇一四	一、九三七	一、五	一、一	二、六
全九年	一、二五九	一、七四三	一、三九五	一、〇一四	一、三三七	一、五	一、一	二、六
全十年	一、五七三	一、九四八	一、四七〇	一、〇一四	一、四五二	一、五	一、一	二、六
全十一年	一、六四一	一、〇三〇	一、五一一	一、〇一四	一、五三三	一、一	一、一	二、二
全十二年	一、七三八	一、〇四九	一、五七九	一、〇一四	一、六四一	一、〇	一、一	二、一
全十三年	一、八五一	一、一六七	一、六二四	一、〇一四	一、七二五	一、一	一、一	二、二



場齋市生祠

(二) 齋場及屠場

本市齋場は市内櫻木町に在り昭和九年の設立に係り昭和十三年中火葬取扱一、〇八四件、齋場使用者一、二三三人にして有料待合室使用者は四七三人なり。

又本市屠場は市内濱松町一丁目に在り昭和十三年中に於ける屠畜数は牛一二二頭、犢三頭、馬三二頭、豚二、九一五頭計三、〇七二頭なり。

(三) 汚物掃除

清潔方法は従來春(四月―六月)秋(十月―十二月)二回施行したりしが昭和六年以降四月より七月迄の間に於て一回施行することとなりたり。唯昭和九年は陸軍特別大演習の爲其の筋の指示に依り特に三回施行せり。

昭和十三年十二月末現在

監督	一
巡視	二
掃除夫	二三
公共便所塵芥焼却場	一六
	一



汚物掃除

年次	手車延			計	馬車延			計	見積重量
	手車	馬車	人		馬車	手車	車		
昭和四年	四、八八〇	三〇九	一、〇四五	六、二三四	七九〇	一七、三三〇	一八、七四〇	一、二八八、〇五貫	
全五年	四、八三七	三〇八	一、〇五六	六、二四三	七〇二	一八、四〇五	一九、一〇七	一、四六二、九八五	
全六年	四、七三七	三三〇	一、二六八	六、三三三	七二〇	一八、四三三	一九、一四三	一、三三七、二三	
全七年	四、八六一	三三六	一、四八三	六、六八三	六七七	一九、二九	一九、八九六	一、三四八、一五	
全八年	四、七〇六	三七七	一、五八八	六、六三二	六七六	一九、八九九	一九、五七五	一、四七七、七二〇	
全九年	四、七七八	三七七	一、九三九	六、九四四	六八〇	一九、〇九九	一九、七九	一、四七九、七三〇	
全十年	四、七〇四	三六	二、二四九	七、二八九	六六三	一八、八〇二	一九、三六四	一、四五五、三〇〇	
全十一年	五、五九九	八	二、〇一八	七、六六九	一六三	二三、六八八	二三、八五一	一、七四六、一六〇	
全十二年	五、七三二	一	一、九六九	七、六八二	一	二三、二九二	二三、二九二	一、七四七、四六〇	
全十三年	五、七三二	一	二、〇一六	七、七七八	一	二三、二七九	二三、二七九	一、七四六、三〇〇	

七、社会事業

(一) 概説

人口の集中と産業の發達につれ社会生活の激しさと複雑性を増加しつゝある現代都市に於てはその繁榮の反面に於て愈々社会事業の整備擴充を計ること必要となるは論を俟たざる所なり。

本市に於てもかゝる時代の要求に應ずべく従来より職業紹介所、公益質屋、公設代書等を設け又本市方面事業助成會は昭和十一年救護所を設置せり。

而して市内各託兒所は方面事業助成會又は私人の經營に係り現在其の數七に達せり。

本市職業紹介所は創め桐生積善會に於て大正九年一月之を設立し爾來昭和二年三月まで同會に於て經營し本市は之を補助獎勵し來りしが昭和二年四月一日より本市に於て經營することゝなれり。而して従来事務所は本町五丁目(借家)たりしが、

昭和六年十二月本市役所(水道課の一部)に新築移轉せり。

昭和十三年七月一日改正職業紹介法實施と共に本市職業紹介所は廢止せられ新設の國營職業紹介所は他に適當なる建物を得る迄従來の建物を使用することゝなれり。

本市社会事業の概況左の如し。

(二) 公益質屋

桐生市公益質屋は小額所得階級の保護救済の目的を以て、昭和二年市内旭町に設立桐屋と命名せられたり。現在業務員三人にして其の狀況左表の如し。



公益質屋成績

年度別	貸			付			辨			濟			
	人員	口數	點數	元金	人員	口數	點數	元金	人員	口數	點數	元金	利子
昭和四年度	八、九六九	三、七六六	三四、〇七三	六三、八〇五	七、三三五	九、九四六	二七、四三九	五一、九八〇					二、三三三
五年度	九、八七六	四、三三八	四〇、八〇九	六二、九七二	八、〇六〇	一三、一六一	三七、四六一	五九、六八六					三、三三〇
六年度	九、八一九	三、八九四	三九、三三九	五五、七三三	八、〇五二	一二、九八六	三七、八一九	五四、一七四					三、一八〇
七年度	九、八七四	四、五三三	四六、九三二	五五、五五五	八、六四六	一四、一九五	四三、一〇九	五四、四四四					三、一三三
八年度	一〇、五八三	四、八三三	五〇、五四九	五七、七〇三	八、四六八	一三、八五三	四六、二八一	五四、一七七					二、八五三
九年度	一〇、一四四	四、四六〇	四一、九三二	五〇、〇〇九	八、九八九	一四、七〇四	四五、二二〇	五七、八五七					二、八五五
十年度	一一、三三七	五、四九八	四八、三三二	五九、五五〇	八、七〇二	一三、〇〇四	四三、九〇〇	五五、五四三					二、六九〇
十一年度	一〇、九二二	一五、三九七	四八、五八八	六〇、五三九	九、三八三	一五、一〇六	四七、〇九五	五八、五三〇					二、九四〇
十二年度	一〇、五三三	一四、七四四	四五、七二〇	六〇、二二四	八、八三三	一四、一三七	四五、五二四	五九、二八九					三、一四一

昭和十三年中に於ける状況左表の如し。

年度別	貸			付			辨			濟			
	人員	口數	點數	元金	人員	口數	點數	元金	人員	口數	點數	元金	利子
昭和十二年	一〇、六八五	一五、〇七二	四八、四三二	六三、三九二	六、三三二	一四、四三三	四七、二九二	五九、八二二					三、〇三三
昭和十三年	九、七〇六	三、七七八	四二、七〇六	六二、一七二	六、一七二	一三、一八四	四二、三九七	五九、九二二					三、一六二
比較	△九七九	△二、三五六	△六、七二六	△一、二二〇	△五七〇	△一、二四九	△四、八三三	△一七〇					△二四八

公設代書

桐生市公設代書は昭和二年四月開設せられ願届書類にして市長に提出するもの及び市役所經由のものに限り願届人の請求に

依り無料にて代書し公設代書事務員は定員を設けず豫算の範囲内にて之を任用する規程なるも創設以來事務員二人なり。昭和十三年中に於ける取扱件數總務課一七、五七一件、教務課五八九件、稅務課二、〇九一件、合計二〇、二五一件にして昭和十二年中の取扱合計二五、七七三件に比し五、五二二件の減なるも之は昭和十三年一月より雜種（自轉車其他）の届出は口頭處理となり届出不用となりたるに依るものなり。

救護

本市は大正七年細民救助規程を設定し之を施行し來りしが昭和七年救護法施行に伴ひ之を廢止せり。救護法施行以來の本市状況左の如し。

救護法に依る救護人員及金額

年別	種別	實世帯數		實人員		延人員		金額	
		人員	口數	人員	口數	人員	口數	金額	金額
昭和七年		一八	二五	二五	六、五九一			八五九	
八年		二七	四二	四二	八、三七三			一、一四二	
九年		三五	六二	六二	一五、八一四			二、〇七五	
十年		三四	六五	六五	一八、七五四			二、三九一	
十一年		四三	八八	八八	二二、七二五			二、八七七	
十二年		五四	一一〇	一一〇	三三、二七二			四、〇六〇	
十三年		六八	一五五	一五五	三八、七七七			四、八七五	

本市救護所は昭和七年桐生市方面事業助成會の設立に係り松立寮と稱し昭和十三年末現在に於ける收容人員四人なり。軍事扶助昭和十三年中の状況は延世帯數四、四一八金額八一、九三六圓にして昭和十二年に比すれば延世帯數に於て三、六



三三の増金額に於て六一、五二二圓の増なり。



(私 立 寮 救 護 所)

支那事變勃發後應召者家族慰問其の他諸般の手續上必要の爲市内を二十五に區分し二十五名の担任者を定め夫々受持区域内に於ける應召軍人家族に對し生活醫療、助産、扶助等萬般に涉り市會議員、方面委員其の他の機關と連絡協議の上銃後の完璧を期したり。

昭和十三年九月一日本市未曾有の大水害は遂に流失家屋二〇戸、半潰家屋一五戸床上浸水家屋四九二戸に達し更に死者一人、重傷者一人を出せり。

本市に於ては罹災後直に義捐金を募集したる處應募金七、四四八圓に達したるを以て右金額の内より床上浸水以上の被害者五二七世帯に對し一世帯に付五圓乃至十五圓宛、死傷者の家族に對しては五圓乃至十圓宛を見舞金として贈呈せり。

方面委員

本市に於ては大正十四年九月市内に七五名の方面委員を四小學校區域に囑託せられてより昭和六年七月昭和方面を新設、昭和八年四月山田郡境野村合併に伴ひ境野方面を加へ、更に昭和十二年四月山田郡廣澤村合併に伴ひ廣澤方面を加へ現在方面七となれり。

ひ境野方面を加へ、更に昭和十二年四月山田郡廣澤村合併に伴ひ廣澤方面を加へ現在方面七となれり。昭和十三年末現在に於ける本市方面委員の状況左の如し。

方面委員

方面別	男女別		計
	男	女	
東方面	一一	五	一六
西方面	八	五	一三
南方面	八	五	一三
北方面	〇	五	五
昭和方面	〇	五	五
境野方面	一	五	六
廣澤方面	七	五	一二
計	六二	三〇	九二

方面委員は救護法による救護の爲要救護者の調査、被救護者の調査、書類の進達等の事務を執るは勿論、更に進んで社會調査を行ひ教化向上を計り就職の斡旋、紹介等をなし、寄附金品の配布、育兒獎學指導相談、保健治療等その事務は頗る多岐に亘れるがその取扱状況左表の如し。

方面委員取扱件數

自昭和四年 至昭和七年

年別	區別	調査	救濟	保護	福利	教化	其他	計
昭和四年		八九	七〇八	一〇	三三三	三四	七	一、一八一
" 五年		一六一	四九七	八	二七八	三九	一〇	〇二八
" 六年		一〇三	三三五	六	二四八	九五	四七	九三四
" 七年		一三六	四〇三	四	二一〇	三九	二二	八一四



年別	區別	調査會	扶生助活	救保	護健	保兒	護童	指相	導談	整戶	籍理	他職	業其	紹介	教化	其他	計
昭和八年		一	二六六	二五三	二五三	五	一一一	一一一	一一一	二	二	九	三三	七四	七五三		
昭和九年		一	二八四	七一四	七一四	二	一一一	一一一	一一一	六	六	五	四四	一、三四二			
昭和十年		三〇九	六五三	六三一	六三一	四	一一一	一一一	一一一	二	二	四	二、〇三八				
昭和十一年		四八五	一一五	七九九	七九九	三	二四八	二四八	二四八	八	八	二八	二、〇一五				
昭和十二年		一、五三〇	三二九	六九九	六九九	四	一七五	一七五	一七五	三	三	三六	一八	四一九三、二八五			
昭和十三年		一、七七五	六四四	二七二	二七二	二	七七	七七	七七	一	一	三四	三八八	四、二三一			

(七) 託 兒 所

本市所在昭和十三年末現在託兒所の状況左の如し。

名稱	設立年月	經營者	保 姆	入 園 兒	所 在 地
桐生南幼児園	昭和 五年二月	桐生市方面事業會	四	一五〇	桐生市 三吉町
明照保育園	大正 四年四月	野口成善會	三	一〇〇	稻荷町
昭和幼児園	昭和 二年九月	大野澤(淨運寺住職)	三	一〇〇	芳 町
桐生北幼児園	昭和 九年四月	靜谷(養泉寺住職)	三	一〇〇	東久方町一丁目
境野幼児園	昭和 十年九月	境野(大藏院住職)	三	一〇〇	境野町
高砂幼児園	昭和 十年四月	安藤野(安藤野婦人會)	三	八〇	高砂町
櫻木町幼児園	昭和十三年四月	桐生組合教會(兼教師)	三	六〇	廣澤町一丁目

八、警 備

(一) 消 防

昭和十三年末現在に於ける本市消防組織は第一部乃至第十三部及常備部一にして其の所屬職員は組頭一人、副組頭一人、部頭一三人小頭二六人、消防手二九一人(内常備消防手二二人)にして主なる消防器具はポンプ自動車五臺ガソリンポンプ一〇臺なり。而して消防手一人當り担當世帯數は平均約六一世帯なり。

常備消防部の創めて本市に設置せられたるは昭和二年四月にして創設當時詰所、機械器具置場は市内横山町に設けられたるが、昭和三年四月鐵骨望樓及コンクリート機械置場建設せらるゝに及び此處に移轉し以て現在に及べり。

昭和七年上水道の完成と共に全市四六三ヶ所に消火栓を設け翌八年望樓に非常警報用サイレンを備へ非常設備の萬全を期したり。

常備部員は常時訓練として組頭又は副組頭の指揮にて毎月三回教練を行ひ、又想定に基き消火戰術、避難演習、救助演習等を行ひ以て消防活動に萬遺憾なきを期しつゝあり。

昭和九年十一月十六日畏くも 聖上陛下は市内新川運動場に於て本縣外五縣公設消防組員一萬四十名を 御親臨あらせられたるは誠に恐懼感激の極みなり本市火災の状況左表の如し。



### 火災度數及損害數

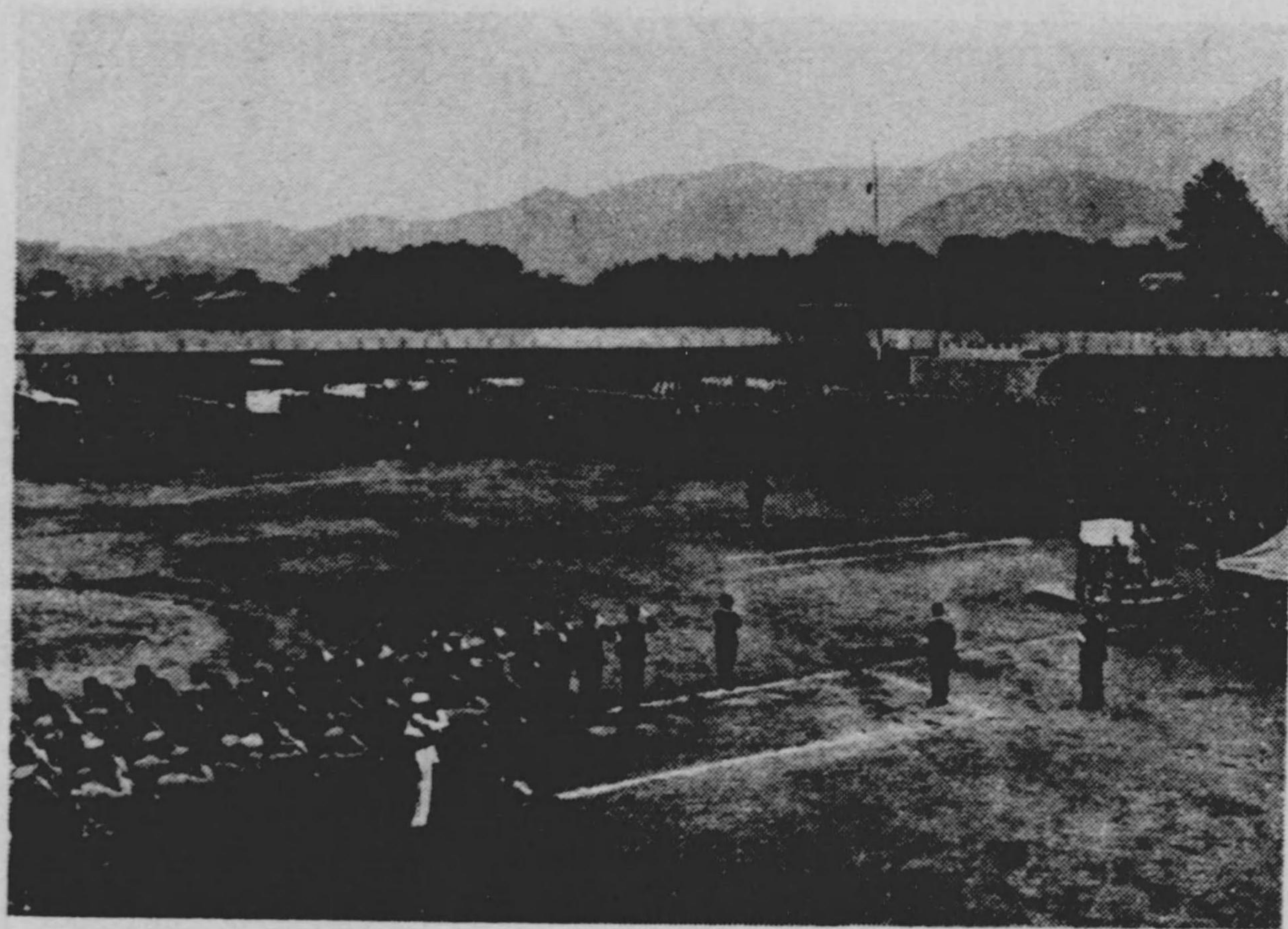
年 別	出火度數	全燒戸數	半燒戸數	計	損害概算額
昭和四年	一五	二八	一七	三五	三〇、〇五〇圓
五年	一一	九	六	一六	二一、五六四
六年	一五	二	九	一四	九七、一九八
七年	一七	三	六	二三	四〇、三九一
八年	一三	三	五	一八	一、七〇八
九年	二二	八	二	一〇	一四、二六四
十年	二二	二	五	一七	七、二五五
十一年	四	二	一	七	七、七〇〇
十二年	二	六	一	七	一六、四六七
十三年	〇	三	一	四	六五、三八二
計					

### (二) 防 空

今次の事變を機とする我國の重大時局に際し防空施設は速かに統制を與へ、完璧を期すべき最重要事業となり茲に昭和十二年十月一日防空法は實施せられ我國各種防空計畫は法令に従ひ内務大臣の統制下に置かるゝに至れり。

殊に本市は工業都市なるを以て防空の任務は愈々重大なるものあり。過去數次に亘り施行せられたる防空演習及訓練に際しては市民防護團一體となり眞剣なる訓練を行ひ來れるなり。

昭和十三年十一月本市に多數の家庭防火群結成し同年十一月二十六日より二十八日に至る防空訓練に於て日覺しき活動を爲



(日三十月九年一十和昭) 況狀式團結團護防市生桐

せるは今尙記憶に新なる處なり。

近く防護團と消防組とを改組統合して警防團設立せらるべく防空は又新なる組織を以て萬全を期せられんとす。



# 九、産 業

ハア機の起りはヨイヨイ

白瀧姫よヨイヨイヨイヨイ

姫は機神

チヤチヤツカ チヤツチヤカ

キリハタ トン トン

蠶飼に絲とり機織教へた

セセツセツセト

キリハタトントン

市が立つ立つ桐生の市が

市で逢ひまじよ桐生の市で

ハ、チヤチヤツカ チヤツチヤカ

キリハタトントン

と桐生首頭にも歌はれてゐるが如く誠に織物業は我が桐生市の重要産業たることは左表が最もよく物語るものにして本市の発展は織物業の隆盛に因由すると言ふも過言に非ず。

## 生産總價額

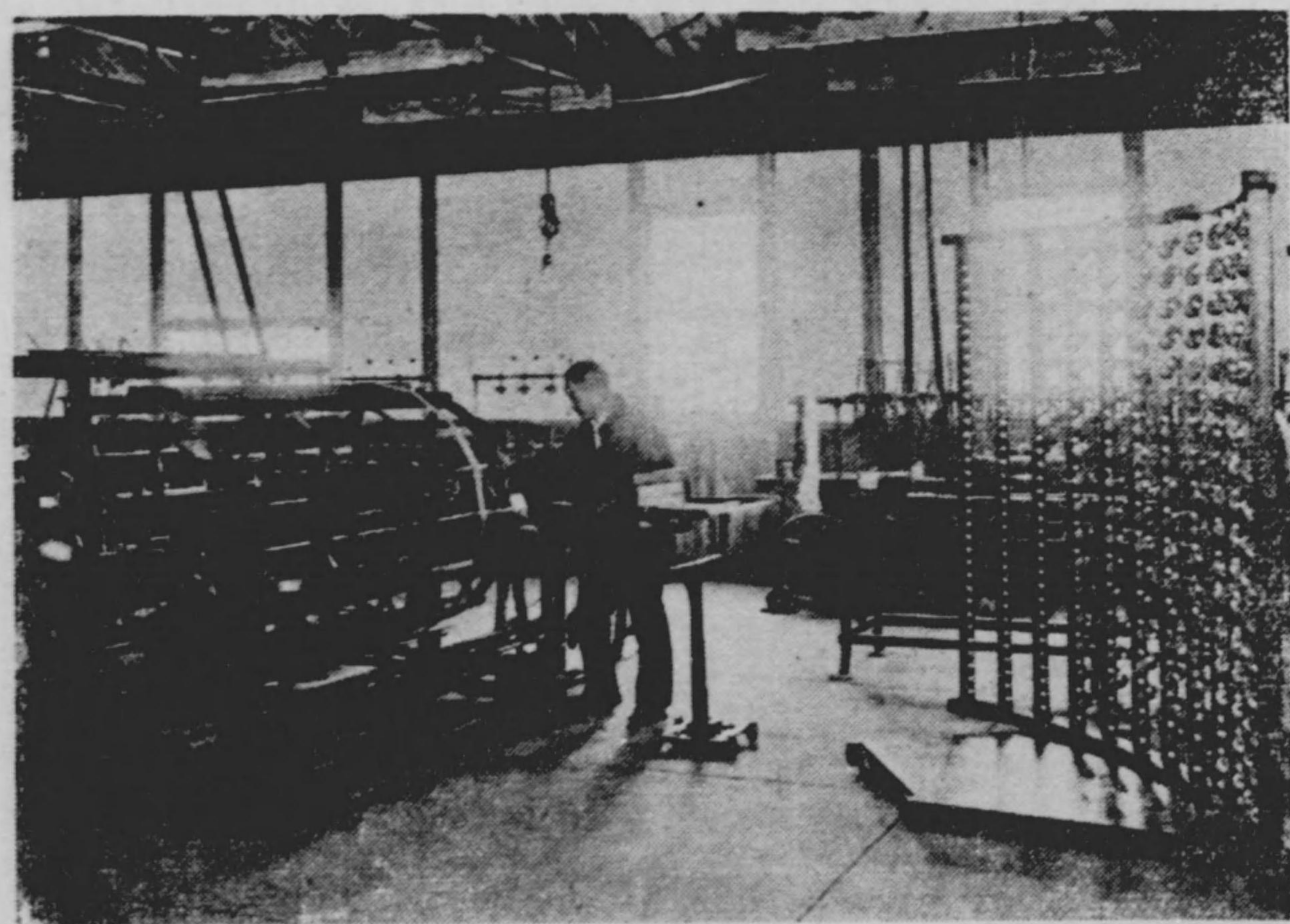
年次	農 業	畜 産	林 産	鑛 産	水 産	工 産	計
昭和四年	五、六四〇	一七三、四二〇	五、六六六	三、三六一	二一〇	三四、〇一九	三四、二六〇、二四四
五年	五、九三三	一五〇、一四九	一、一〇一	三、四八六	一、三三六	三四、〇〇五、〇六九	三四、二四、〇六四
六年	六〇、五七七	一三九、二四九	一、九六六	三、〇〇〇	九〇九	二二、四七三、五五四	二二、七五、一三五
七年	一四九、六五五	一五二、〇六九	五、二二〇	一、七五五	一、〇四五	二五、一八一、七〇五	二五、四九〇、三三九
八年	二六、四三三	一三三、四七七	四、八五二	二、七四四	一、六二七	四一、四三三、二六	四一、七〇〇、一五九
九年	二四、三三四	一五〇、九〇二	七、九三三	一四、六九〇	二、七二七	四一、九九〇、〇九七	四二、二八九、六七三
十年	一三、三八八	一六八、〇七六	二、四四四	九、三九九	三、〇二七	三九、四八三、七七七	三九、八〇八、〇三二
十一年	四七三、七四九	二〇一、六三三	七、五三三	八、三九八	二、九八四	四一、一一一、三〇〇	四一、八五、五〇七
十二年	四三九、九五〇	一八、二八五	九、〇六八	八、六五八	四、三六七	三八、九七六、五五	三九、六九、九三三

往時より西に西陣東に桐生と呼ばれ其名全国に冠絶したる桐生織物は明治の初年に於て早くも内に内地織物を革新し外に輸出織物に先鞭をつけ今や輝かしき前途を約されたる新進織都として飛躍的發展を遂ぐるに至れり。而して織都桐生の殿堂として多年織物の進歩發達に寄與貢獻せるは桐生織物同業組合にして明治三十八年の設立に係り本市及山田郡一圓、新田郡笠懸村簸塚本町、強戸村、足利郡小俣町菱村を區域とせり。然る所近年工業組合法の制定と共に桐生輸出絹織物工業組合、兩毛輸出織物整染工業組合、桐生輸出人絹織物工業組合、桐生糸染工業組合、桐生輸出練絹織物工業組合等相次ぎて桐生織物同業組合より獨立し其他各種商業組合設立せられたり。而して各種商工業者を網羅し鞏固なる商工機關を設置するは焦眉の





桐生織物染色の状況



桐生織物整理の状況

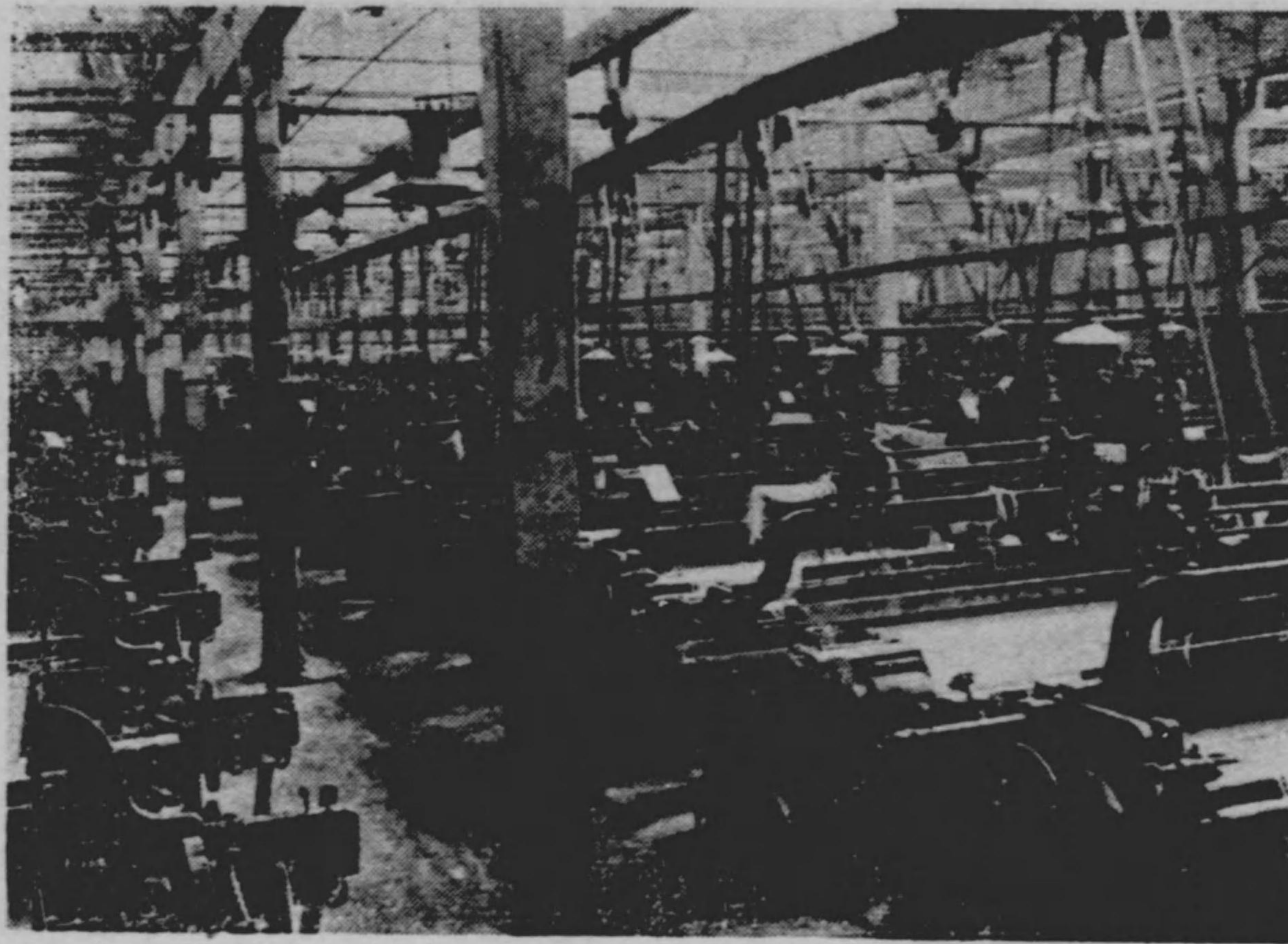


帯展地帯の一場の一部

八四

急なるを以て桐生市を中心として隣接梅田村川内村相生村を包含する區域を以て商工會議所設置することに決し其の手續中なり。  
織物生産量、織物生産價額、機業家機臺及職工數等左表の如し。





部内の場工物織



況狀の引取物織生桐

織物生産量

年次	絹織物		綿織物		毛織物		合計
	廣巾物	小巾物	帶地	帶地	帶地	帶地	
昭和四年	六、八三三、三五	三、三二一、一五	四、七四二	二、八三二、〇七	二、八三二、〇七	二、八三二、〇七	七二、九八一
全五年	二、七〇七、三五	七三三、九六一	三、〇八四、八〇七	一、一〇一、五〇三	一、一〇一、五〇三	一、一〇一、五〇三	一一、〇〇〇
全六年	五、九七三、七四七	一、一〇〇、七三三	二、六三三、六九四	七、八八、七三三	七、八八、七三三	七、八八、七三三	一三〇、〇〇〇
全七年	一四、〇七五、九〇一	七五五、七五〇	六、四六三、八七五	一、一六二、三五五	一、一六二、三五五	一、一六二、三五五	八三、七五五
全八年	一五、四三六、一五三	六九四、三五四	三、一〇一、一六〇	四〇八、三三八	四〇八、三三八	四〇八、三三八	八、九一一
全九年	四四、八七〇、九〇二	七五、二六八	二、八四三、三〇六	一〇二、四四四	一〇二、四四四	一〇二、四四四	二二、〇〇〇
全十年	二五、五〇六、四四四	一、三六、四六六	四、四四四、二八三	二五、七七七	二五、七七七	二五、七七七	二、三六二
全十一年	三二、三七八、八四四	一、五〇四、三三八	六、二五八、七四四	二九、七七七	二九、七七七	二九、七七七	—
全十二年	二四、五六〇、六六六	六〇〇、七〇〇	六、二五一、四一九	七、八、四三五	七、八、四三五	七、八、四三五	—

織物生産價額

年次	絹織物		綿織物		毛織物		合計
	廣巾物	小巾物	帶地	帶地	帶地	帶地	
昭和四年	一四、三二七、八三五	三、三三九、四八五	一九、七三六	三、二七七、七四八	八、九〇三、五五七	二九、六六八、三六一	七二、五四六、三六八
全五年	一五、〇四四、六六三	六、二七〇、四八八	八、一六七、一七	一九五、六三九	二、〇七四、四二五	一、三六六、八四五	八八、八〇〇、三三二
全六年	八、七七七、六五三	五、五四九、九六三	五、二九四、八三四	八七六、八六二	一、二〇四、三五七	二、二七三、六六九	一七六、〇〇〇、二七三
全七年	—	—	—	—	—	—	—
全八年	—	—	—	—	—	—	—
全九年	—	—	—	—	—	—	—
全十年	—	—	—	—	—	—	—
全十一年	—	—	—	—	—	—	—
全十二年	—	—	—	—	—	—	—



年次	機業		職工		計
	十臺未満	十臺以上	男	女	
昭和七年	10,275	4,400	6,631	4,004	10,635
昭和八年	23,499	4,788	6,627	4,112	10,739
昭和九年	14,050	6,461	5,335	3,097	8,432
昭和十年	17,965	6,574	7,898	3,087	10,985
昭和十一年	17,831	3,167	2,169	1,495	3,664
昭和十二年	14,101	3,177	1,869	1,455	3,324

機業家機臺及職工數

(各年末現在)

年次	機業		職工		計
	十臺未満	十臺以上	男	女	
昭和四年	136	352	17	555	747
昭和五年	129	393	18	540	767
昭和六年	343	188	18	549	777
昭和七年	344	202	26	544	770
昭和八年	491	351	33	748	1,011
昭和九年	404	271	27	668	1,048
昭和十年	422	239	26	679	1,060
昭和十一年	446	473	30	766	1,133
昭和十二年	783	172	35	1,135	1,632

而して今次支那事變により織物業は尠からざる影響を受け業者にして他に轉業し従業者にして他に轉職するを餘儀なくせられたるものを見つゝあるは寔に遺憾とする處なれども聖戰の目的に鑑みれば之亦止むを得ざる次第なり。前項の如く商工會議所は目下創立手續中なるが時局重大にして産業界に及ぼす影響尠からざるを以て各商工團體(織物關係外)を以て桐生實業組合聯合會を組織して各種の對策を講じ又商店法の實施に就ては商工會議所の業務を代行せり。次に昭和十三年十月商店法實施に際り本市は左の通告せり。

公 告

十月一日から商店法が施行され物品販賣業(料理店業及飲食店業を除く)及理髮業、美容術業は閉店時刻を午後十時と定められ閉店時刻以後は顧客に對し營業することが出来なくなりました。尤同時刻以前から引續き店舗に在る顧客に對して營業を爲すことは差支ありません。

負傷、疾病、災害其他緊急の事由を提示せる顧客に對しては其の必要に應ずる物品を販賣することが出来ます。左の期間は閉店時刻の繰延又は其の適用を受けないことになつて居ります。

期	間	閉店時刻	區域
毎月(二月を除く)第一日曜及其の前日	午後十一時(八月に限り不適用)	全市	
一月一日より一月三日迄	午後十時	全市	
四月一日より四月三日迄	午後十時	全市	
七月第一土曜より	午後十時	全市	
七月二十一日より七月二十四日迄	午後十時	全市	
八月十日より八月十四日迄	午後十時	全市	
十一月十九日—二十日	午後十時	全市	
三月十六日より三月三十一日迄十六日間	午後十時	全市	



桐生實業組合聯合會は毎月二十二日を公休日と決めました。

昭和十三年九月三十日

桐生市實業組合聯合會長

桐生市長 關 口 義 慶 二

## 十、財 政

### (一) 概 説

市政の進展に伴ひ收支の關係が複雑となるは蓋し當然にして之れ一般會計及び特別會計を設置せる所以なり。

本市に於ては現在一般會計の外、市基本財産、小學校基本財産、公益質屋費、社會事業資金、水道費、救護資金、罹災救助資金、御下賜記念基本財産、小學校舎建築資金等九の特別會計を設く。

納税獎勵施設としては昭和二年三月桐生市納税獎勵規程を設定し (一) 新に設立したる納税組合、(二) 國稅、縣稅及市稅を納期内に完納したる納税組合、(三) 國稅、縣稅及市稅を一年度を通じ納期内に完納したる者に對し納税獎勵金を交付し以て納税成績向上に努め來れり。

而して昭和十三年末現在に於ける本市納税組合數は三五五組合、組合員數一三、七四二人にして七年前の昭和七年に比するに舊市内に於ても組合數二一、組合員數一、四九三人を増加し納税成績も頗る向上せり。

行政區別納税組合數、及納税組合員數左表の如し。



行政區別納稅組合員數

各年末現在

年次	行政區													計	
	一區	二區	三區	四區	五區	六區	七區	八區	九區	十區	十一區	十二區	十三區		
昭和七年	一七	一四	二五	一四	一三	三八	三二	四二	三三	三六					二六四
八年	一五	一四	二六	一四	一四	三七	三六	四四	三二	三二					二九五
九年	一五	一七	二五	一三	一四	四〇	三四	四〇	三六	三二					二九七
十年	一一	一七	二五	一三	一五	四〇	三四	四一	三五	三二					二九八
十一年	一一	一六	二五	一三	一七	四二	三四	四二	三七	三二					三〇〇
十二年	一一	一五	二七	一四	一七	四三	三七	三八	三七	三三					三三七
十三年	一二	一五	二八	一六	一九	四六	三六	四一	四〇	三二					三五五
計															

行政區別納稅組合員數

年次	行政區													計	
	一區	二區	三區	四區	五區	六區	七區	八區	九區	十區	十一區	十二區	十三區		
昭和七年	六四〇	七八〇	一、〇四一	一、〇四七	九三三	一、二〇〇	八七四	一、四〇五	九四一	七九〇					九、六六
八年	五七二	七四〇	一、〇六三	九〇八	九〇二	一、二二七	八七二	一、五二九	八七四	八二五					一〇、四三
九年	五六四	九二一	一、〇五九	九三二	八四五	一、二八五	八三四	一、三三三	九六七	八三二					一〇、五九
十年	五五	九七七	一、〇〇一	九六六	七九八	一、三三一	八八八	一、四六五	八九二	八五五					一〇、八元
十一年	六九二	一、〇〇五	一、〇六三	一、〇七九	九七七	一、四九元	九一九	一、五七八	九四四	九四五					一一、六六
十二年	六七三	一、〇六八	一、一〇元	一、〇六六	九七九	一、五三八	一、〇七二	一、六四七	九四九	九七九					一二、六六
十三年	六六五	一、〇四五	一、一〇一	一、〇六一	九七七	一、五八六	一、〇六六	一、六八三	九六一	九八五					一二、七四
計															

(二) 豫算及決算

昭和十三年度本市豫算は一般會計總額九二二、六七二圓にして經常部三七八、八二〇圓臨時部五四三、八五二圓、又特別會計は合計二五七、八七一圓なり。

一般會計歳入の割合は市稅收入五九、五九四%で首位を占め市債の二一、七八五%之に亞き國庫下渡金補給金の六、〇八九%、使用料及手数料の二、四一五%受益者負担金の二、一四一%交付金の一、九七二%繰越金の一、九四三%、其他四、〇六一%なり。

又一般會計歳出經常部費目別の割合は教育費の五六、九一〇%で首位を占め、役所費の二〇、五二五%、整備費の四、二八九%、汚物掃除費の三、八二二%土木費の三、七二九%其他の一〇、七二五%にして歳出臨時部に於ては教育費の三一、七三二%で首位を占め、都市計畫事業費本年度支出費の一八、三八七%都市計畫事業費の一四、五〇八%公債費一三、六七五%繰入金四、六〇二%其他一七、〇九六%なり。

次に昭和十三年度豫算を昭和十二年度豫算に比較するに、歳出經常部七、九五四圓の増、歳出臨時部一二七、三八一圓の増合計一三五、三三五圓の増なり。

更に昭和十二年度一般會計決算額を昭和十一年度決算額に比較するに歳入一〇五、六九三圓〇四錢の増歳出經常部五五、三四〇圓九三錢、歳出臨時部六四、二三九圓三四錢歳出合計一一九、五八〇圓二七錢増なり市制施行の大正十年を中間として前後約二十年の明治三十一年度及昭和十二年度本市歳入歳出決算の状況を見れば左の通にして明治三十一年度歳出合計に對し大正十年は約九、七九七倍昭和十二年度は二七、七五〇倍にして市勢の發展と共に經費も亦著るしき増加を示すに至れり。



普通會計歳入歳出決算比較

年度別	歳入	歳出			差引剩餘金翌年繰越	備考
		經常部	臨時部	計出		
明治三十一年度	二五、三〇四、三三圓	三三、〇〇四、七四圓	四、二七四、六六圓	二五、二九四、四二圓	四、九三三圓	本年市制施行
大正十年度	三六四、一三三、四五圓	一五〇、四八三、四一圓	九三、三八八、八六圓	二四七、八五二、二七圓	一六、二八一、一八圓	
昭和十二年度	八七、二〇七、九一圓	三六、七六一、四八圓	三三、二八九、七六圓	七〇二、〇七二、二四圓	一五、二五、六七圓	

昭和四年度以降本市普通會計歳入歳出決算左表の如し。

普通會計歳入歳出決算累年比較

年次	歳入	歳出			差引剩餘金翌年繰越
		經常部	臨時部	計出	
昭和四年度	四八六、一〇二、〇〇圓	三三〇、八六七、八七圓	一五八、八六九、一〇圓	三八九、七三六、九七圓	九六、三六五、〇三圓
五年度	四三三、九六三、一一圓	二二〇、七四四、二二圓	一〇七、六三九、九〇圓	三二八、三〇四、一四圓	九四、六二七、〇〇圓
六年度	五五八、二七〇、一一圓	三三三、七六九、五〇圓	二二二、三〇〇、六七圓	四三六、〇七〇、一七圓	一一三、一四六、八五圓
七年度	五二一、一五六、六六圓	三三三、二二四、四四圓	一九一、五九八、四七圓	四三二、八一九、九一圓	九八、三四五、七五圓
八年度	八七一、五四九、七六圓	二六八、八〇二、一一圓	五三三、三三三、三五圓	七八一、九四四、四六圓	八九、六五三、三〇圓
九年度	六七九、九六六、二七圓	二七六、六三二、八九圓	二八九、三九三、三五圓	五八八、〇六四、一四圓	一一、九九八、八六圓
十年度	六〇七、九〇九、四五圓	二九一、六五五、〇七圓	二二一、二八〇、九一圓	五二二、九三三、九九圓	九四、九七三、四六圓
十一年度	七二一、五四八、八七圓	三〇七、四四〇、五五圓	二七五、〇五〇、四一圓	五八一、四九〇、九七圓	三九、〇三三、九〇圓
十二年度	八七二、〇七九、一一圓	三六二、七八一、四八圓	三三九、二八九、七六圓	七〇二、〇七二、二四圓	一一五、一三六、六七圓

市 税

現在市税はその費途を標準とすれば普通市税と都市計畫特別税との二種に大別することを得、普通市税として賦課するものは國税たる地租、營業收益税に對する附加税、縣税たる特別地税、家屋税、營業税、雜種税に對する附加税あり、本市特別税として戸數割設定せられ又都市計畫事業への充當財源として昭和十三年度より地租割、特別地税、營業收益税割、家屋税、營業税、雜種税の六種目が都市計畫特別税として賦課せられたり。而して昭和十三年度に於ける市税總額は五四九、八六三圓にして歳入に對し五九、五九五%に當れり。

本市市制施行の大正十年に於て市税は調定額二二三、六四八圓徴收額二二三、四九八圓にして昭和四年度以降の狀況左の如し。

市税科目別歳入決算額

年度別	地租附加税	特別地税附加税	營業收益附加税	家屋税附加税	營業税附加税	雜種税附加税	特別税	都市計畫特別税	計	調定額	徴收額	対入歩合
昭和四年度	七、二四八圓	一〇〇、九六錢	三六、五九圓	一七、六七圓	三三、七〇六圓	七六、八八圓	二五、四六圓	一七錢	二七七、五五圓	二九〇、六一圓	二九〇、〇七圓	〇、九五
五年度	七、三六一圓	五五、一四圓	三四、一六圓	一九、九二圓	三三、〇二圓	六五、二六圓	二二、六二圓	七圓	二六三、三八圓	二八〇、〇七圓	二八〇、〇七圓	〇、九四
六年度	七、四七七圓	三三、五二圓	三三、七六圓	一九、九八圓	三三、二七〇圓	六五、三三圓	二七、二五圓	二圓	二六三、七五圓	二八一、二〇圓	二八一、一九圓	〇、九三
七年度	九、七九〇圓	一一、九四圓	三〇、七九圓	三三、〇六圓	三三、〇二圓	七一、二六圓	一四七、八八圓	五圓	二九三、八七圓	三三三、五五圓	三三三、五五圓	〇、九三
八年度	二二、二六一圓	六九、五三圓	三五、一八圓	三三、六四圓	二一、六七圓	七〇、五〇圓	一四二、二〇圓	二圓	三九四、五四圓	三六、八八圓	三六、八八圓	〇、九二



年度	調定額	納期内収入額	全上百分比	納期後収入額	翌年度繰越額
九年度	一四、八九九、三三	四八、三〇、三二、七八、一一、三〇、八三、六〇、一五、八六、一一	二六	三四五、九五四、三〇、一八二、九六	〇、九三
十年度	一七、九四四、一〇	五二、二九、二四、八六、一一、四〇、八五、四三、〇、一六四、二九、七〇	五七	三五七、一三、三七〇、四五、三三	〇、九六
十一年度	二二、〇六五、四八	五二、七九、二六、二五、一一、四八、二九、三八七、二七六、八四六、二二	九六	四〇九、八八一、四三〇、三六二、四九	〇、九八
十二年度	二六、九六七、八六	六四、七〇、二八、六九、一一、三二、二七、一一、三、八四、二九七、〇七四、五七	三三	四四四、九三九、四六、八七六、六五	〇、九八

備考 昭和十三年度ニ於テ新ニ都市計畫特別税設定セラレタリ。  
次に市税徴収成績は左表の如く近年納税成績の向上は経済的事情に依るの外又納税思想の普及に依るものにして喜しき現象なり。

市税徴収成績 (總額)

年度	調定額	納期内収入額	全上百分比	納期後収入額	翌年度繰越額
昭和四年度	二九〇、五四六、三二	一九三、五八六、三三	六六・二八	八四、九三九、〇五	一三、〇二一、〇四
五年度	二八〇、〇七四、四六	二二三、四五四、四九	七六・三二	四九、九三九、一七	一六、六九〇、八〇
六年度	二八〇、八九九、三三	二三五、二七七、九一	八〇・〇九	三八、五三〇、八二	一七、一四〇、五〇
七年度	二九一、七五一、五四	二二六、四七七、九三	七四・一五	五五、八三九、三六	一九、四四四、三六
八年度	三二六、八五八、一一	三〇五、六四一、三三	六四・九一	八八、八五三、一三	三三、三六三、六五
九年度	三七〇、一八二、四九	三四六、一八〇、四二	六六・五〇	九九、七七四、五四	三四、三三七、五三
十年度	三七〇、四五二、三二	三四六、一三三、五九	六六・四四	一一、〇〇八、一八	一三、三一九、五四
十一年度	四三〇、三六三、三三	二九一、六八三、三八	六九・三九	二八、一九八、一一	一〇、四八〇、七三
十二年度	四五六、八七六、六五	三二九、五五二、三三	七三・三三	一一五、三八七、二四	一一、四五四、八九

四 縣稅及國稅

市制施行の大正十年に於ける縣稅は一三三、〇九三圓國稅一三九、一一九圓にして之を昭和十二年に比すれば縣稅約二、五  
五倍國稅二、二八倍の著しき増加となれり。  
縣稅及國稅の徴収成績左表の如し。

縣稅徴収成績 (總額)

年度	調定額	納期内収入額	全上百分比	滞納額
昭和四年度	一八九、二七四、〇三	一四四、三六六、〇〇	七六・二	四四、九〇八、〇三
五年度	一八五、九八二、七三	一四二、三一七、八四	七六・五	四三、六六四、八九
六年度	一八〇、四二〇、六三	一五一、四〇七、三六	八三・九	二九、〇一三、二七
七年度	一八五、一四四、一〇	一六二、八三一、〇四	八七・九	二二、三三三、〇六
八年度	二二五、六二九、八〇	一五一、〇八四、八三	六六・〇	七四、五四四、九七
九年度	二八四、九七九、八五	二六七、三八五、四六	六九・五	一七、五九四、三九
十年度	二八七、五六八、九七	二七〇、二九〇、〇〇	九四・〇	一七、二七八、九七
十一年度	三〇三、一三二、四六	二八五、六九〇、六一	九四・二	一七、四四一、八五
十二年度	三三四、七七八、四四	三一九、三〇六、二二	九五・四	一五、四七二、二二



國稅徵收成績 (總額)

年度	調定額	納期內收入額	全上百分比	滯納額
昭和四年度	一三七、九〇七、二六	一三七、〇九五、九六	九九・四	八一、三〇
" 五年度	一二二、四九一、〇一	一二〇、六〇四、〇五	九九・四	一、八八六、九六
" 六年度	一一六、三四五、八三	一一四、八三二、五四	九九・七	一、四一三、二九
" 七年度	一一〇、五七四、一五	一〇九、一一九、七七	九九・六	一、四五四、三八
" 八年度	一五六、一八三、〇二	一五四、四〇八、九五	九九・九	一、七七四、〇七
" 九年度	一六六、一九七、一三	一六三、〇八三、八七	九九・八	三、一一三、二六
" 十年度	二〇六、七四七、五八	二〇二、二二一、二〇	九九・八	四、五二六、三八
" 十一年度	二〇九、二七五、九六	二〇七、三八五、〇二	九九・一	一、八九〇、九四
" 十二年度	三一七、七一二、六二	三一六、一四五、〇六	九九・五	一、五六七、五六

(四) 諸稅負擔

昭和十二年度諸稅總額(國稅、縣稅、市稅)は一、一〇九、三六七圓にして一戸當六二圓九一錢、一人當二一圓〇四錢の負担にて昭和十一年度に比し一戸當二圓〇二錢、一人當五五錢の夫々減となれり。  
その狀況左表の如し。

租稅負擔總額及割合

年次	國稅	縣稅	市稅	計	租稅總額	負擔割合
昭和四年度	一三七、九〇七、二六	一八九、二七四、〇三	二九〇、五四六、三二	六七七、七七七、六〇	六五、〇三	一三、三九
" 五年度	一二三、四九一、〇一	一八五、九八三、七三	二八〇、〇七四、四六	五八八、五四九、二〇	五七、三二	一〇、九九
" 六年度	一二六、三四五、八三	一八〇、四三〇、六三	二八一、三〇三、一九	五七七、八六八、六五	五四、三〇	一〇、四三
" 七年度	一一〇、五七四、一五	一八五、一四四、一〇	二九一、九四三、〇三	五八七、六六一、三八	五三、七〇	一〇、三九
" 八年度	一五六、一八三、〇三	二三五、六二九、八〇	三二六、八五八、一一	六九八、六七〇、九三	五六、三三	一〇、七三
" 九年度	一六六、一九七、一三	二八四、九七九、八五	三七〇、一八三、四九	八三一、三五九、四七	六三、三七	一三、一六
" 十年度	二〇六、七四七、五八	二八七、五六八、九七	三七〇、四五二、三二	八六四、七六七、八六	六四、一六	一三、二二
" 十一年度	二〇九、二七五、九六	三〇三、一三二、四六	四三〇、三六三、二三	九三三、七七〇、六四	六四、九三	一三、五九
" 十二年度	三一七、七一二、六二	三三四、七七八、四四	四五六、八七六、六五	一、一〇九、三六七、七二	六三、九一	一三、〇四

(内) 市基本財産

本市の財産額は逐年増加しつゝ、あり昭和十三年十二月末現在に於ける市基本財産は土地四六、四七〇圓建物六、一一九圓、有價証券五四〇圓、現金(充用金を含む)一六六、〇七六圓合計二一九、二〇五圓にして市制施行當時に比すれば一七〇、八七六圓十年前の昭和四年に比すれば九〇、〇四七圓の増となれり。

(外) 市債

昭和十四年一月一日現在に於ける本市々債の狀況は左表の如く、未償還額計一、三九四、一七五圓八〇錢にして一戸當七九圓〇六錢一人當一三圓八八錢なり。

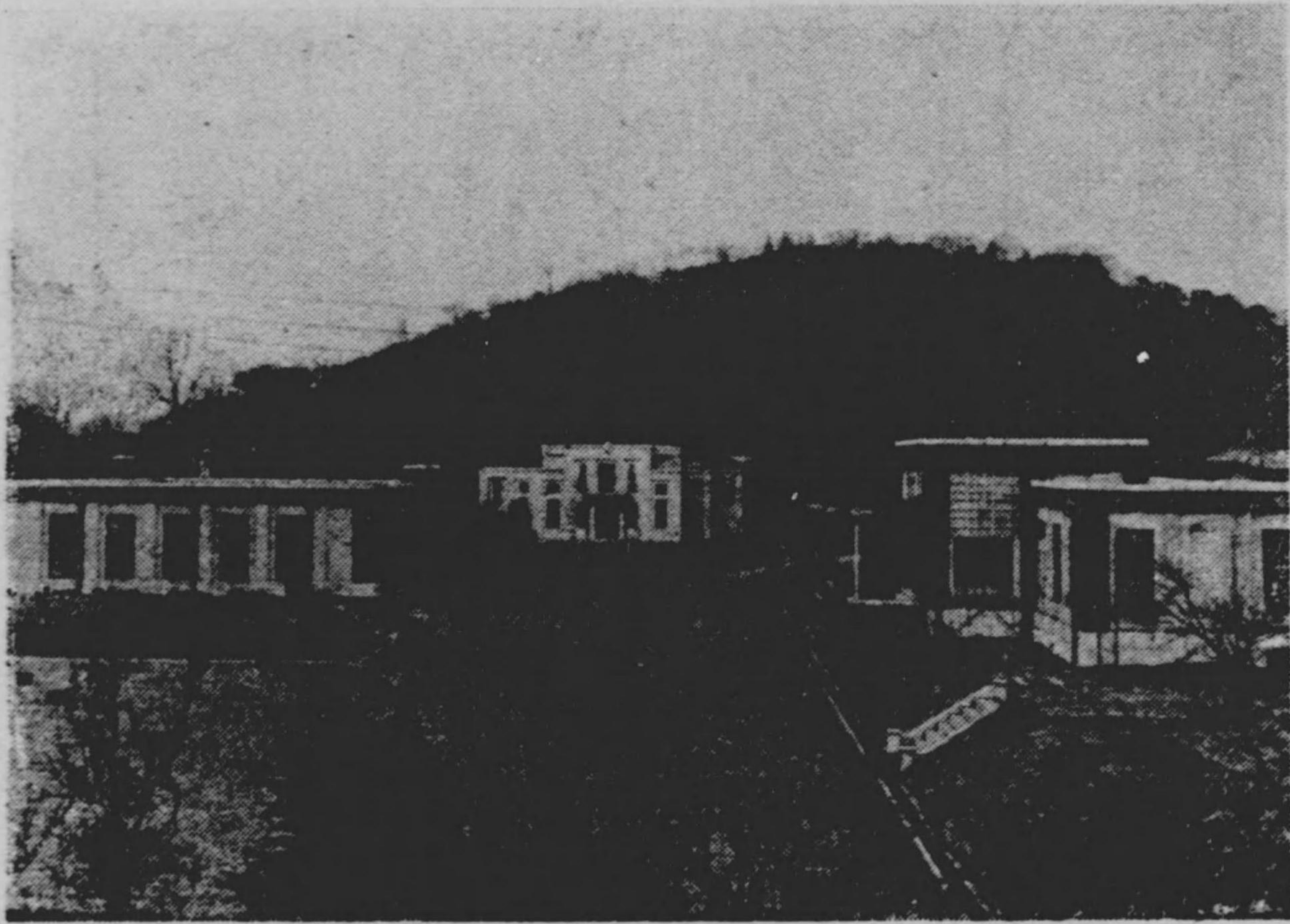


會計別	起債總額	一月一日現在		指定財源	十三年度公債額		
		未償還額	圓錢		元	利子	
一般會計	四八、〇八二	三六、二九〇	八四	市稅其他一般歲入	四八、五元	一四、六九六	六三、三五
特別會計	一、三九、三〇〇	一、〇一六、二四五	一一	水道收入市稅其ノ	六八、八三二	四三、五三三	一一三、七四
一般會計轉貸分	五〇、二九〇	四二、六三九	八五	自作農創設貸付金返済	二、七八三	一、二六七	四、〇五〇
計、増、減	一、八三、六七二	一、三九四、一七五	八〇	其ノ他一般歲入	二〇、一五三	五九、九二六	一八〇、〇六九

備考 昭和十四年一月一日現在戸數及人口

戸數 一七、六三四戸  
人口 一〇〇、四六九人

十一、水道

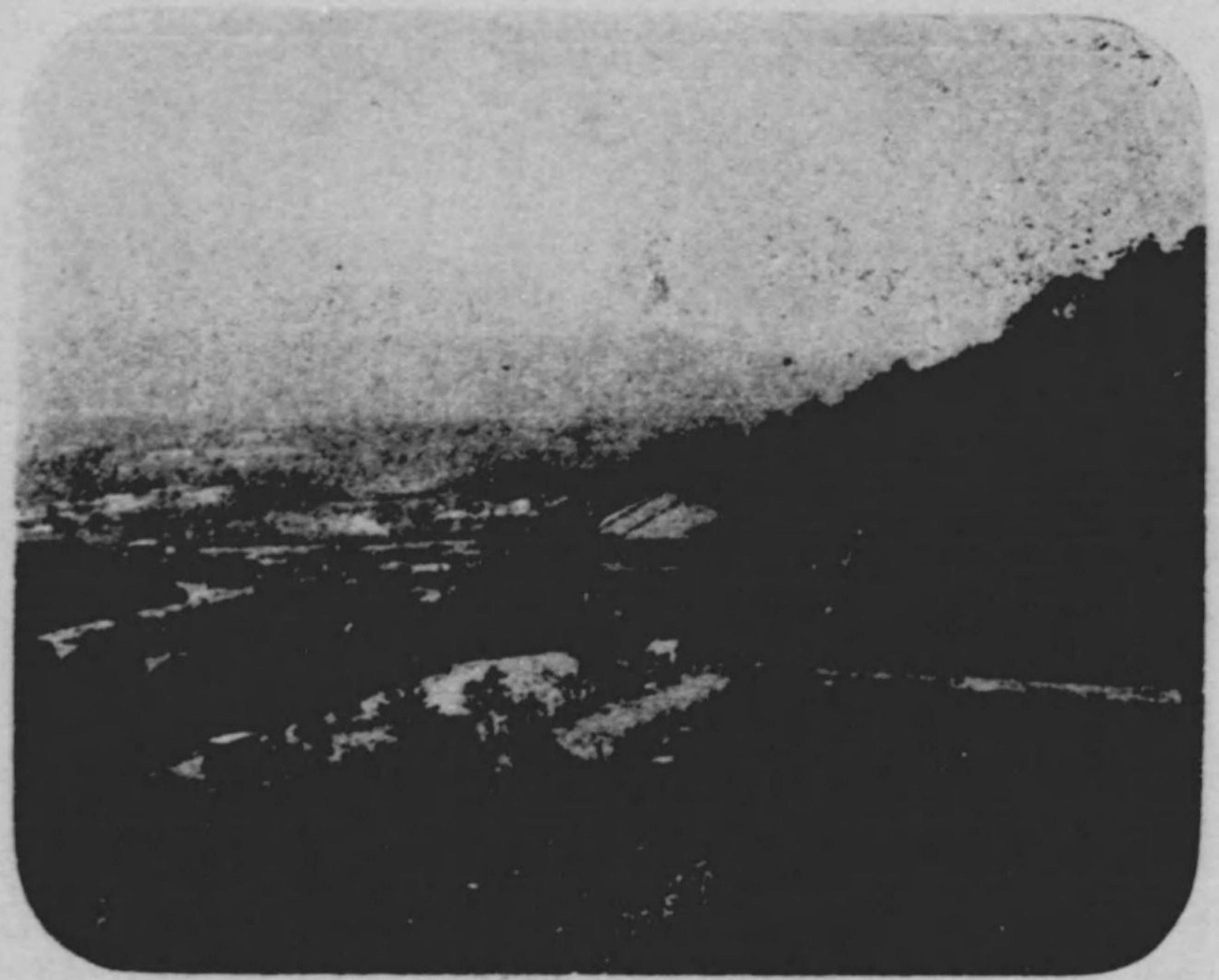


水 道 浄 水 場

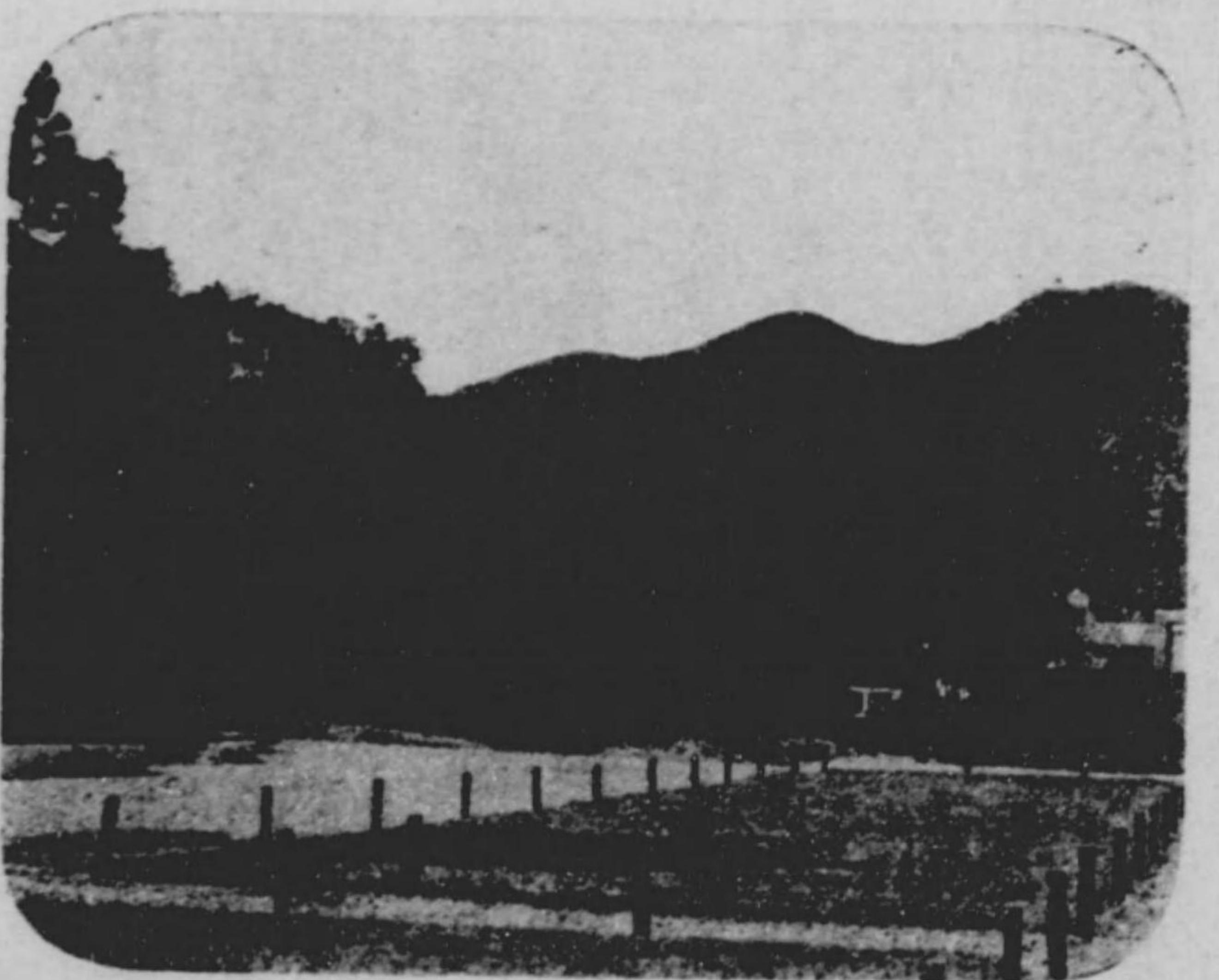
本市水道布設以前の用水は主として井戸水を使用せるが機業の隆盛と人口の激増とにより年毎に水質悪化し井水亦缺乏を告げたるを以て衛生火防上、水道布設の必要を認め大正十一年に之が調査を完成せり。然る所當時諸種の事情に依り實施を見るに至らず更に大正十五年再調査に着手し昭和三年十二月設計を終りたるにより昭和四年一月市會の議決を経て總工費百八十八萬圓で布設の申請をなし昭和五年二月百七十六萬五千五百圓に更正許可せられたり、依て同年九月二十八日起工、昭和七年三月三十一日竣工翌四月一日給水を開始せるが其工事精算額は百三十萬二千餘圓にして四十六萬三千圓の減額となり、又特に許可を得て期間を定め特典付給水申込を勧誘したる結果、初年度二千五百十八戸の給水豫定なりしが通水當日迄に五千四百十九戸の申込を得て全戸數の五割四分強に當る成績を見たり。

水源地は市内元宿町渡良瀬河畔に在りて夏季林間學校開設地に近く又配水場は市の西北部に在りこの一帯は風景に富み散策に好適の地にして殊に後者は市の眺望に絶好なる地なり。





配水場



水源

現在本市水道使用料月額左の如し。

區別	普通		特別		共同栓 (一戸ニ付)
	水量	使用料	水量	使用料	
家事及普通營業用	十軒迄	一圓	三十軒迄	三圓	共同栓 (一戸ニ付)
湯屋及工業用	百五十軒	五圓二五〇	三十軒ヲ超	三六〇〇	家事及普通營業用
基本水量及 超過水量一軒 當使用料	十軒迄	一圓〇〇〇	三十軒ヲ超	三〇〇〇	水量一使用料
			ユルモノ	三〇〇	十軒迄
				ユルモノ	十軒ヲ超
					五〇〇
					〇五〇

備考

共同栓ニ付テハ其ノ使用水量ヲ各戸ニ等分シ使用料ヲ算定ス

水道布設後の配水管、給水設備、給水戸数の状況左表の如し。

### 配水管延長

各年三月末日現在

年別	鐵管配水管延長		鉛管延長		消火栓	制水弁	給水人口一人當 鐵管延長
	米	米	米	米			
昭和八年	六九、一三九	四、六一〇	七三、七四九	四六〇	二九一	一、一五	
〃 九年	七一、九八五	九三、〇五五	一六五、〇四〇	四六〇	二九三	一、二〇	
〃 十年	七二、二〇〇	九三、二〇七	一六五、四〇七	四六三	三〇二	一、〇七	
〃 十一年	七三、三〇二	九三、四二七	一六六、七二九	四六九	三一	〇、九五	
〃 十二年	七三、五二二	九三、五二九	一六七、〇五一	四七一	三一	〇、九一	
〃 十三年	七三、六七五	九三、七四四	一六七、四一九	四七一	三一	〇、七九	

### 給水設備

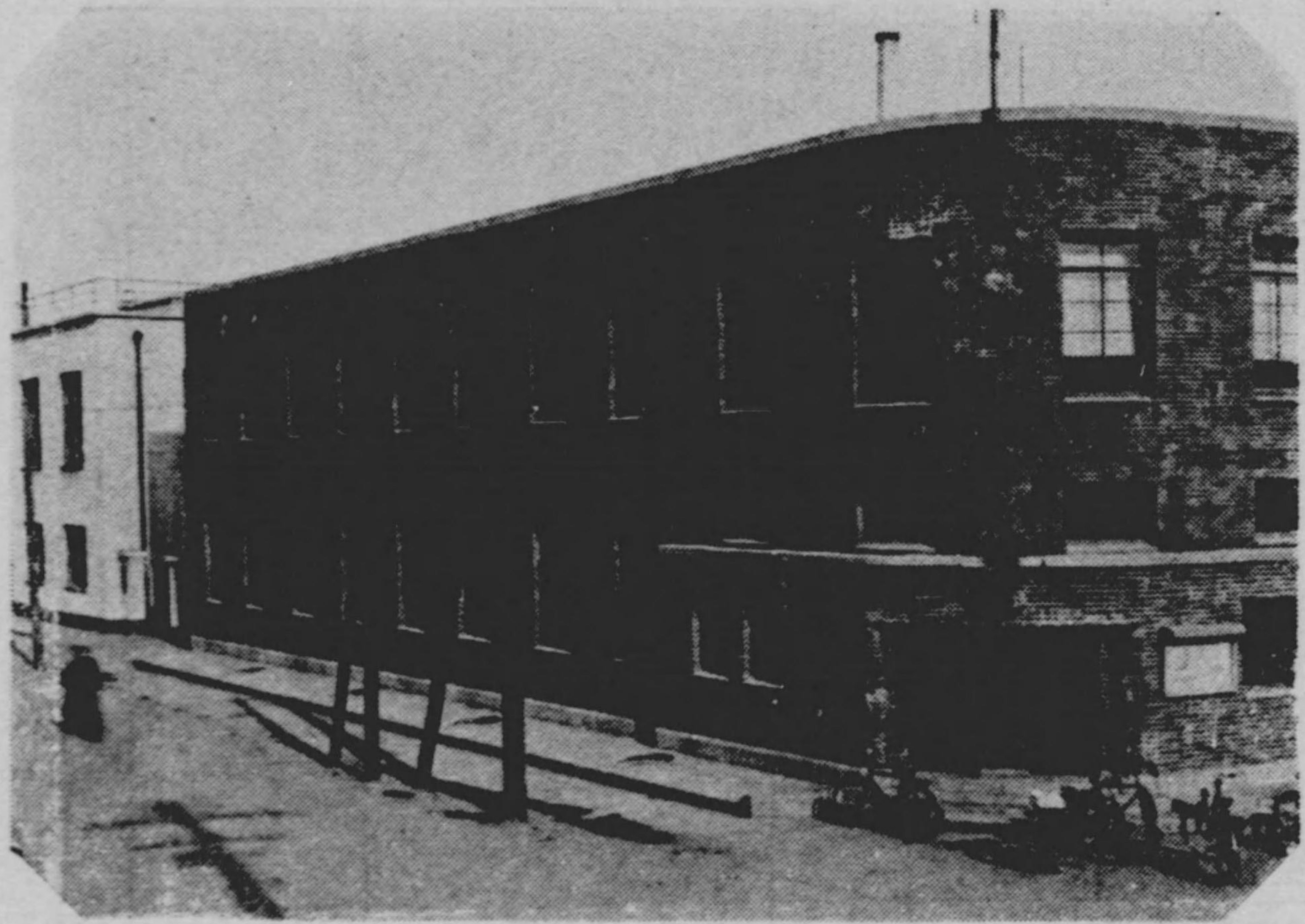
各年三月末現在

年次	放任給水栓		計量給水栓			官公署 學校 病院用	其ノ他	合計
	專用栓	公用栓	公設	私設	公衆用 其ノ他			
昭和八年	三、〇五五	一、三一三	一、八一三	一、五七六	八三	二九	九	五、〇六五
〃 九年	三、一五七	一、三一八	一、八一三	一、八七三	九七	三七	一七	五、五〇〇

備考

昭和九年度ヨリ放任給水廢止





桐生郵便局

## 十二、通信及交通

### (一) 郵便局

本市には二等郵便局に桐生郵便局、三等郵便局に新宿郵便局、本町郵便局、濱松町郵便局、本町二郵便局、境野町郵便局の五局あり。

電話加入者、郵便物、電報發信着信の狀況左表の如し。

電話加入者數 (單獨共同開通ヲ含ム) 各年度末現在

年度別	加入者數
昭和四年度	一、〇四五
五年度	一、〇四五
六年度	一、一七九
七年度	一、二六八
八年度	一、四〇二
九年度	一、四九三
十年度	一、五八〇
十一年度	一、六八三
十二年度	一、七九三
十三年度	一、八六二

年次	家事營業用	湯屋工業用	官公署學校病院用	其ノ他	共用	合 計
昭和十年	五、四五二	六七	四三	二五	三三三	五、九二〇
" 十一年	五、六五〇	六七	四三	二五	三三八	六、一二三
" 十二年	五、八九〇	六九	七七	二五	三四一	六、四〇二
" 十三年	六、一〇六	五八	七九	二五	三三九	六、六〇七

## 給水戸數

各年三月末日現在

年次	専任		計		公共		計		總戸數ニ對スル割合	總戸數
	量	戸	量	戸	量	戸	量	戸		
昭和八年	△三、〇五五	二六二	△一、六九五	五七	△七、三二〇	一〇	△八、四八七	〇、五〇	一〇、九四二	
" 九年	△三、一五八	三六九	△二、〇二四	一四	△五、九一〇	〇	△五、九一〇	〇、五二	一一、四六〇	
" 十年			△五、四八三	七	△六、四九一	〇	△六、四九一	〇、五四	一一、九七六	
" 十一年			△五、七八五	五	△六、六八一	〇	△六、六八一	〇、五三	一二、六〇〇	
" 十二年			△六、〇六一	〇	△六、九〇八	〇	△六、九〇八	〇、五二	一三、二五〇	
" 十三年			△六、二六八	一	△七、一八六	〇	△七、一八六	〇、五一	一三、八九一	

備考 △印ハ中止中ノモノノ内掲トス

總戸數中ニハ配水管ノ布設ナキ境野町、廣澤町ヲ含マズ



郵便物配達數

各年度末現在

年度別	引通		郵便		引小包		郵便
	受	常	配	便	受	包	
昭和四年度	三、六七一	一、三三七	四、五〇七	八、九二二	七、七二九	四	六〇、八三〇
全五年度	二、八二七	三、五五四	三、九一二	三、八八八	四、八二一	四	五、四七二
全六年度	三、三六一	四、四四一	四、三〇九	九、六五五	二、七一一	五	五、二六六
全七年度	二、九七五	〇、四四四	四、二六〇	九、二二七	二、一七五	二	五〇、八六一
全八年度	三、一六六	八、〇八九	三、七四一	三、五〇〇	二、三三三	三	五、三一一
全九年度	三、二五二	八、四三三	四、一四一	九、八七七	二、二二二	四	五、八二二
全十年度	三、六六九	〇、五八八	四、三八九	二、九二二	二、五〇八	二	六、二〇六
全十一年度	三、六四二	二、四四七	四、六二三	八、二一一	二、四三六	三	六、六〇一
全十一年度	三、五五一	四、九五五	四、八五一	四、一四一	三、〇三二	四	六、八七六

電報發信着信數

(桐生郵便局取扱)

各年度末現在

年度別	發信數	着信數
昭和四年度	五、〇二〇	六、一三六
全五年度	五、五二〇	五、九八三
全六年度	五、五二〇	五、八八三
全七年度	五、五二〇	五、八八三
全八年度	五、五二〇	五、八八三
全九年度	五、五二〇	五、八八三
全十年度	五、五二〇	五、八八三
全十一年度	五、五二〇	五、八八三
全十一年度	五、五二〇	五、八八三



省線桐生驛

備考 昭和十二年度發信減入市内三等局各局ニ於テ電報受付事務開始ニ依ル

(一) 鐵道

本市に省線桐生驛、上毛電氣鐵道株式會社西桐生驛、東武鐵道株式會社新桐生驛あり。  
 各驛に於ける旅客、小荷物、貨物の狀況左表の如く昭和十三年中に於ける各驛乗降客合計は一、八二五、九〇一人に達し一日平均乗降客數五、〇〇三人小荷物總數は一六一、九二五個一日平均四四七個、集散貨物總數は一一六、八六七廳一日平均三二〇廳又賃金合計七〇〇、一八六圓にして一日平均一、九一八圓なり。  
 本市最近の乗降客數及小荷物貨物集散高の激増は即ち産業の振興に基く社會生活の活潑なる動きを反映せるものなり。



各驛乘降客

年次	桐生驛		新桐生驛		西桐生驛		乘計
	乘	降	乘	降	乘	降	
昭和四年	五七一、二九八	五七三、三〇九	九六、二三八	八七、三九六	一七五、七二六	一七六、五八一	八四三、一七三
全五年	五一〇、八六八	五一一、八六五	一〇三、九九〇	九八、三七六	一七〇、七四七	一七三、一六三	七八五、六〇五
全六年	四八七、一七九	四九〇、四七三	一〇三、四六二	一〇一、四三五	一七一、七五三	一六八、八九〇	七六二、三九三
全七年	四三九、〇七四	四四〇、四三八	一〇四、三六三	一一二、二一五	一六四、五三六	一六〇、四三八	七〇七、九六三
全八年	四四〇、一九七	四四〇、四七八	一一一、九五七	一〇九、八七五	一六三、七二〇	一六三、八四四	七三五、八六四
全九年	四七五、八九四	四八四、一八五	一一三、七七四	一一三、三九一	一六九、五四八	一六九、三三一	七七八、二一六
全十年	四七五、五二二	四七九、七〇〇	一二九、二八九	一二八、九八八	一九二、六三三	一九〇、九九九	七九七、四三三
全十一年	四九六、五三三	四九九、〇三三	一三三、四二二	一三一、五九四	一九四、〇三五	一五三、〇五一	八三三、九七〇
全十二年	五〇八、一三五	五〇六、二七三	一三九、三二五	一〇三、五四四	一八三、八九三	一八二、八七五	八三一、三三三
全十三年	五三三、九九一	五三三、〇一五	一七五、八一	一七六、〇〇三	二〇五、一二三	二〇三、九五九	九一三、九三四
乘計							八三三、三六六
乘計							七八二、四〇四
乘計							七六〇、七九七
乘計							七三三、〇八一
乘計							七四一、一九七
乘計							七八五、八〇七
乘計							七九九、六六七
乘計							八三三、六六八
乘計							七九三、六六一
乘計							九一一、九七七

各驛發着小荷物

年次	桐生驛		新桐生驛		西桐生驛		發計
	發	着	發	着	發	着	
昭和四年	五五、三三三	九七、九四八	七、四三七	六、一八三	五、六〇〇	三、三六六	六八、三七〇
全五年	四六、八二九	九二、六八二	七、八九三	六、〇〇三	六、一九三	四、三八七	六〇、九一五
全六年	三八、九六六	九一、六八七	七、〇九一	六、四五七	六、一七一	五、〇四八	五三、二三八
全七年	三七、三三四	九三、〇〇七	五、八八四	一四、四八七	一、三二七	一、四六二	四四、五一五
全八年	三七、七六三	九六、九四七	四、九三八	五、六五五	一、五九一	一、二九三	四四、二九三
全九年	四〇、三三六	一〇一、七三八	四、六六一	六、二一八	一、五三九	一、五八一	四六、四三六
全十年	四〇、八五八	一〇四、九七五	五、二八四	六、〇六六	一、六八五	一、六六七	四七、八二七
全十一年	四一、三六三	一〇九、三七四	四、三三一	六、二七七	二、二四七	一、四三七	四七、九三二
全十二年	四二、二五七	一〇八、九八〇	四、四八七	五、六四五	一、一九五	一、三六五	四七、九三九
全十三年	四三、三九六	九八、五〇一	四、六二〇	五、三八四	五、五三八	四、四八六	五三、五五四
發計							一〇七、四九六
發計							一〇三、〇七一
發計							一〇三、一九三
發計							一〇八、九五六
發計							一〇三、八九五
發計							一〇三、八九五
發計							一一〇、五三七
發計							一一二、七〇八
發計							一一七、〇八八
發計							一一五、九九〇
發計							一〇八、三七一



各驛發着貨物

年次	桐生驛		新桐生驛		西桐生驛		發着計	
	發	着	發	着	發	着	發	着
昭和四年	一六、二六七	七二、四五〇	五、二四一	八、九八二	一、二五	一五二	二一、六三三	八〇、五八三
全五年	一〇、二二九	六八、三三八	二、四五三	八、九六五	一〇九	二〇三	一一、六九〇	七七、五〇六
全六年	一〇、一四三	七二、七〇五	二、三五七	九、四三四	七五	一六八	一一、五七四	八一、三〇七
全七年	一一、一三四	六九、九九六	一、八六九	一一、五五四	八四	二二〇	一三、〇八七	八一、七六〇
全八年	一一、五三三	七二、〇四五	一、五〇三	一二、五二二	一〇四	二二〇	一三、一三八	九三、七八七
全九年	一三、八八六	八二、二七一	二、〇〇一	一四、六〇九	一〇七	三三七	一五、九九四	九七、三〇七
全十年	一三、五〇五	八七、〇五四	二、〇五八	一四、六四五	一一一	三二九	一五、六七四	一〇一、九九〇
全十一年	一六、三三三	九八、〇九六	二、四八五	一四、七六五	一三三	三三一	一八、九六〇	一一三、一七三
全十二年	一六、六五九	九三、〇〇三	二、一四六	一八、四四七	一四八	三三九	一八、九五三	一二一、七八九
全十三年	一六、五一四	八三、二六八	三、〇一三	一三、四六三	一七五	四三四	一九、七〇二	九七、一六五

各驛賃金

年次	旅客		小荷物		貨物		發着計	
	桐生驛	新桐生驛	桐生驛	新桐生驛	桐生驛	新桐生驛	桐生驛	新桐生驛
昭和四年	三三、九九一	五三、〇六六	四三、八六〇	三三、八、九一七	七〇、六九七	四、〇一八	八〇〇	九三、九二五
全五年	三〇、一九三	五七、三八〇	三八、九九九	三三、九、七七一	五六、七〇一	三、八九七	八一五	七、八一七
全六年	一九七、三三三	八九、九三六	三七、九九三	三三、四、六六七	三三、七七一	三、〇六四	七六五	三六、五四六
全七年	一八三、五八五	八八、一九〇	三三、九五三	三三、〇、五七一	三三、九〇三	一、六五二	七八二	三六、三三七
全八年	一九〇、七六三	一〇二、一三五	三五、一九五	三三、三、八、一一二	三五、二八二	一、八六三	八八四	一四三、四五四
全九年	三二一、六七〇	一〇三、四一八	三八、四九三	三三、五、四七	三六、九七八	一、六九九	九九四	一四六、一七六
全十年	三三六、七九二	一〇三、〇八三	四三、四九一	三三、七、三、三六五	三九、六九一	一、九二七	一、〇七一	一七三、八〇六
全十一年	三五二、九七七	一一六、九五八	四〇、二七七	三三、四、〇、九、二二	三五、九〇三	一、五五六	一、一七四	二〇九、六一〇
全十二年	三六五、九〇四	一二四、二五四	三八、八一四	三三、四、三、八、九七二	三三、六三八	一、五六二	一、一七四	二二一、五〇三
全十三年	三七四、八八三	一三三、二九三	四二、二三四	三三、四、五、〇、三九八	三一、〇一七	一、四七三	一、二九六	二〇三、三三九



計	桐生合	新桐生驛	西桐生驛	累計
一〇七、三六七	三九七、六一三	六九、〇四九	四五、一三七	五一、七九
一一六、九四二	三六六、三三九	六九、〇五四	四〇、四九三	四七五、八八六
一三九、五五〇	三六二、一四六	九九、九〇五	三八、七一二	五〇〇、七六三
一五一、一二六	三六〇、九四二	九七、一〇〇	三五、一五二	四九三、一九四
一五三、〇五六	三七二、二四〇	一一〇、三九三	三六、五六四	五一九、一九七
一七八、四三七	四〇八、〇七八	一二二、五五三	四〇、〇二四	五七〇、六五五
一八四、八四〇	四四〇、二八八	一一五、四一四	四五、一九二	六〇〇、八九四
二二一、三七〇	四九七、四九〇	一二九、五四四	四二、一二二	六六九、一五六
二三一、一五五	五二一、〇三五	一三四、六二四	四〇、八三二	六九六、四九一
二一六、〇〇三	五〇八、一二九	一四七、六二五	四四、四三二	七〇〇、一八六

(三) 諸車

昭和十三年四月一日現在に於ける本市諸車の状況は自轉車 一三、四七五臺、自動車四一九臺 計一三、八九四臺にして自轉車は戸數一戸に付〇、八二六臺人口一人に付〇、一四五臺の割合なり。最近三ヶ年間の自轉車及自動車の状況左の如し。

自轉車及自動車

各年四月一日現在

年別	自轉車		特種自		貨物乗合		合計
	自轉車	特殊自	小型	貨物	乗合	車計	
昭和十一年	一一一、四七〇	二三四	一一二	一三	一一	二二	一一一、四七〇
昭和十二年	一三三、四七五	二六四	一一三	一四	一二	二六	一三三、四七五
昭和十三年	一三三、四七五	二六四	一一三	一四	一二	二六	一三三、四七五

十三、國民精神總動員運動

去る昭和十二年七月北支盧溝橋に端を發せる今次事變は度重なる國民政府の不誠意に對し斷乎大鐵槌を加へ以て東洋永遠の平和を確立し東亞新秩序を建設せんとする眞に日本帝國有史以來の大事業なり。今日の複雑なる國際情勢の下に於ては事態は一支那國のみを相手とする問題にあらずして實に我が國としては邦家の存亡に係る大試練と言はざるべからず。かるが故に政府に於てはこの重大時局に對處する爲昭和十二年八月國民精神總動員運動を全國に徹底せしむることを決し直に之が實施要綱を決定せり。本市に於ては之に即應して昭和十二年十月國民精神總動員桐生市實行會規程を設定すると共に桐生市實行委員一二五名を委嘱し以て聖業完成に邁進することゝなれり。

國民精神總動員桐生市實行會規程左の如し。

國民精神總動員桐生市實行會規程

- 第一條 國民精神總動員ノ趣旨ノ普及並之カ徹底ヲ期スル爲國民精神總動員桐生市實行會ヲ設ク
- 第二條 本會ハ前條ノ目的ヲ達求スルタメ左ノ事業ヲ行フモノトス
- 一、日本精神ノ發揚ニ關スル事項
  - 二、銃後ノ後援ノ強化持續ニ關スル事項
  - 三、非常時經濟政策ヘノ協力ニ關スル事項
  - 四、資源ノ愛護ニ關スル事項
  - 五、其ノ他時局ニ關シ必要ト認メタル事項





(昭和三十二年十月三十日) 武漢陷落祝賀大提灯行列

第十條 實行班ニ班長ヲ置キ分會長之ヲ委嘱ス  
 班長ハ分會長ノ指揮ヲ受ケ班務ヲ担任ス  
 班長ハ班務執行上必要ナル役員ヲ設クルコトヲ得  
 昭和十二年十月國民精神總動員第一回強調週間を實施してより  
 其の後數回に亘リ本週間を實施し以て本運動の趣旨の普及徹底  
 を圖れり  
 而して本運動の具體化に關してはもとより各方面に亘り種々の

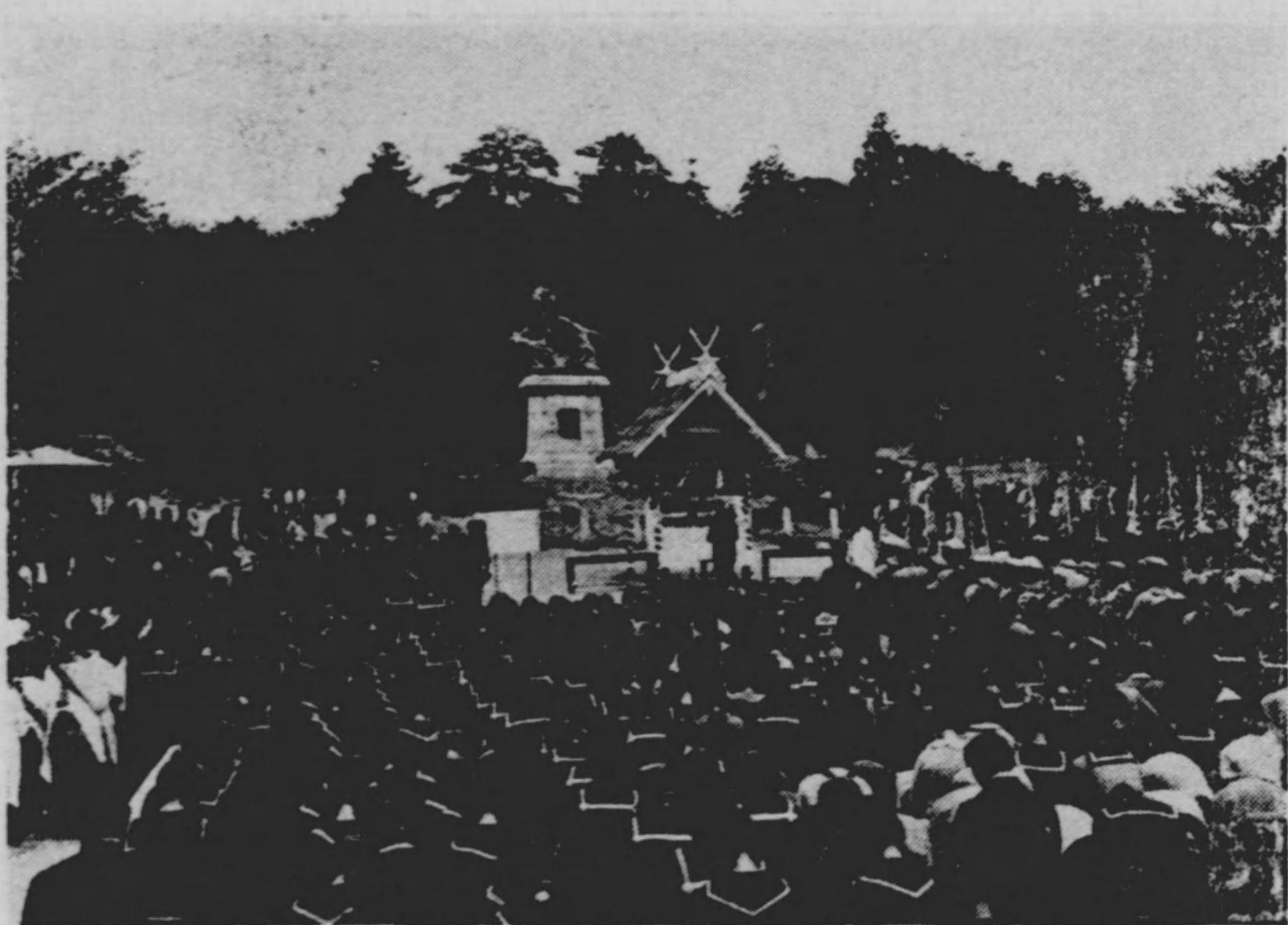


(所役市生欄) リ造荷の袋問慰

第三條 本會ノ會長ハ市長ヲ以テ之ニ充ツ  
 會長ハ會務ヲ總理ス會長事故アルトキハ市長ノ代理者  
 其ノ職務ヲ代理ス  
 第四條 本會ニ實行委員會ヲ置キ會長及委員若干名ヲ以テ組織  
 ス委員ハ名譽職員、各種團體代表者其ノ他學識經驗ア  
 ル者ノ中ヨリ市長之ヲ委嘱ス  
 第五條 委員ハ本運動ノ實行上必要ナル事項ノ調査審議ニ參與  
 シ及其ノ實行上ノ指導ニ任スルモノトス  
 會長必要アリト認ムルトキハ委員ノ中ヨリ特別委員ヲ  
 選定シ調査審議ヲ附託スルコトヲ得  
 第六條 本會ニ理事及書記ヲ置キ市吏員中ヨリ市長之ヲ命ス理  
 事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス  
 書記ハ會長及理事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス  
 第七條 本會ヲ左ノ十三分會ニ分ツ  
 第一分會、第二分會、第三分會、第四分會、第五分會  
 第六分會、第七分會、第八分會、第九分會、第十分會  
 第十一分會、第十二分會、第十三分會



方策が考慮せられ樹立せらるべきなるも我等が先づ最後の勝利を得東亞新體制の確立を期せざるべからざる以上は今後如何なる困難に直面するとも泰然その試練に打勝つべき不拔鐵の如き積極的精神を堅持することこそ本運動の中心なるべし。長期建設、堅忍持久の大佩を掲げてこの根本方針の下に具體的運動目標を選定し以て最大の効果を擧げんことに本市は全努力を傾倒しつゝあり。



(昭和三年四月二十二日) 桐生公園に於ける招魂祭の實況

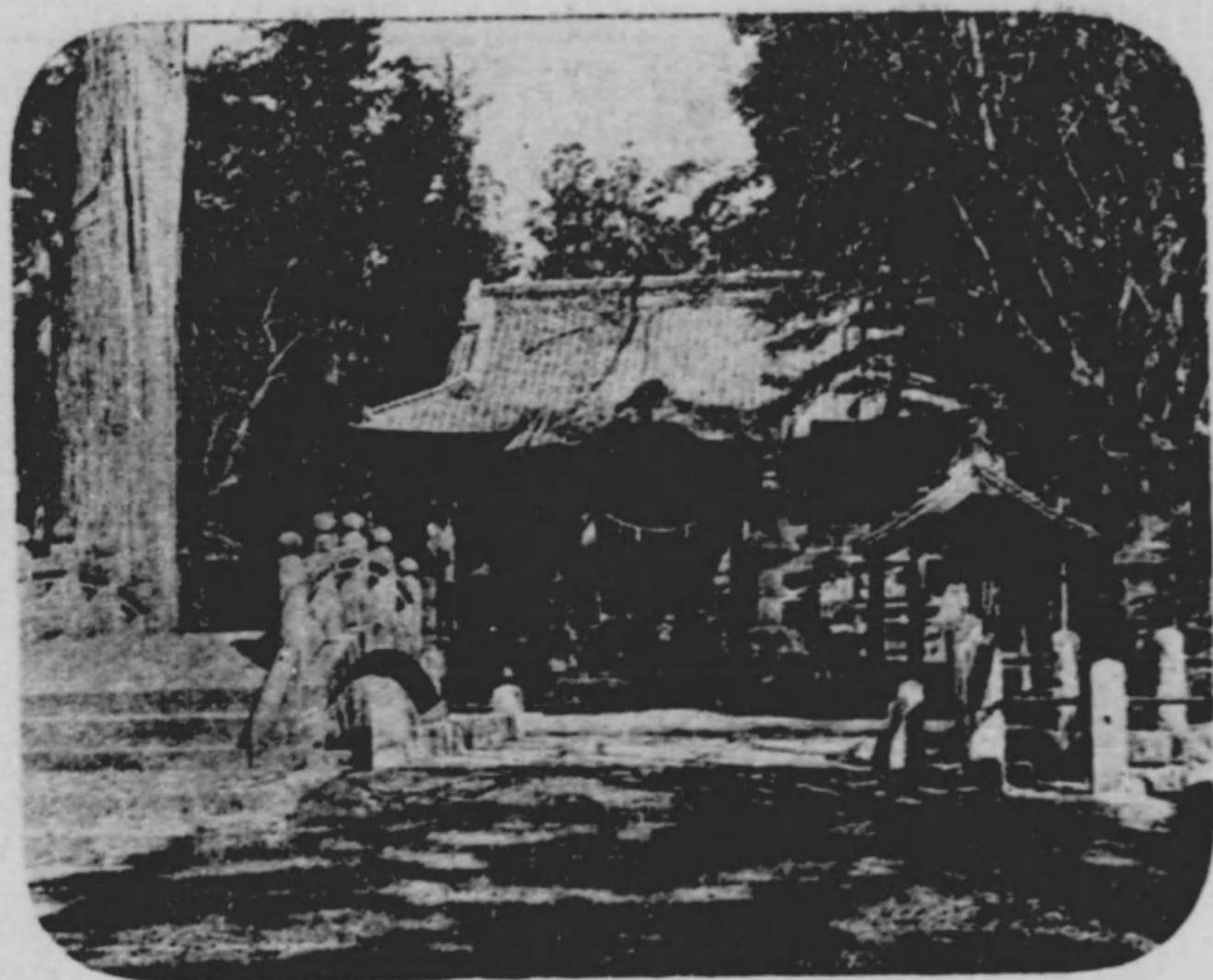
### 十四、各種團體

名稱	設立年月	概要	要
桐生市國防義會	昭和八年七月	事務所を桐生市役所に置き會長市長なり	
帝國在郷軍人會桐生市聯合會	大正十年五月	事務所を桐生市役所に置き各小學校區域に單位分會を組織す現聯合會會長石井濤吉氏なり	
桐生市聯合軍友會	昭和十二年八月	各小學校區域に單位分會を組織し現聯合軍友會長眞尾源一郎氏なり	
大日本傷痍軍人會群馬支部	昭和十三年十月	現會長岡部春吉氏なり	
桐生市分會		事務所を桐生市役所に置く	
日本赤十字社群馬支部	大正十年三月	事務所を桐生市役所に置き各小學校區域に單位分會を組織す現聯合會會長關口ちづよ氏なり	
桐生市委員部		事務所を桐生市役所に置き各小學校區域に單位分會を組織す現聯合會會長關口ちづよ氏なり	
愛國婦人會	明治三十四年	事務所を桐生市役所に置き各小學校區域に單位分會を組織す現聯合會會長關口ちづよ氏なり	
桐生市聯合婦人會	昭和九年一月	事務所を桐生市役所に置き各小學校區域に單位分會を組織す現聯合會會長關口ちづよ氏なり	
大日本國防婦人會	昭和十一年四月	事務所を桐生市役所に置き各小學校區域に單位分會を組織す本會役員其他桐生市聯合婦人會に全し	

### ○市内及近郊の名所舊蹟

○桐生城趾 市の北方一里梅田村上久方に在り桐生市中興の祖藤原國綱の城趾にして裔孫親綱に至るまで二百數十年間連綿たる名族なりしが天正元年新田郡金山の城主田良成繁の爲に亡され今は僅に殘濠破礎を見るのみで山上の老松は徒に蕭々として吹荒び古英雄の末路を偲ばせるものゝ如し。





縣社天滿宮

○天滿宮 天神町一丁目に鎮座し天穗日命菅原道真公を主神として祀る昭和三年四月四日縣社に列す

本殿の棟宇梁柱檼等の組立は悉く規矩に適ひ一般社殿造營家の標本となすべきものあり又人物禽獸草木を彫刻し塗るに丹青を以てし實に巧妙精緻を極む

○美和神社 延喜式内の郷社にして宮本町に鎮座す

境内老松古杉鬱蒼として神氣自ら人に迫る神苑にして一度此境に入る時は詩情禁する能はず境内に西宮神社琴平神社あり社威灼々として詣ずるもの常に絶えず

○賀茂神社 廣澤町六丁目に鎮座し延喜式内上野十二社の一にして祭神は別雷神外十二柱なり崇神天皇の朝豊城入彦命東國鎮護のため山城國より別雷神を勸請せられたるに由緒す。次に桓武天皇の延暦十五年官社となり平安朝時代

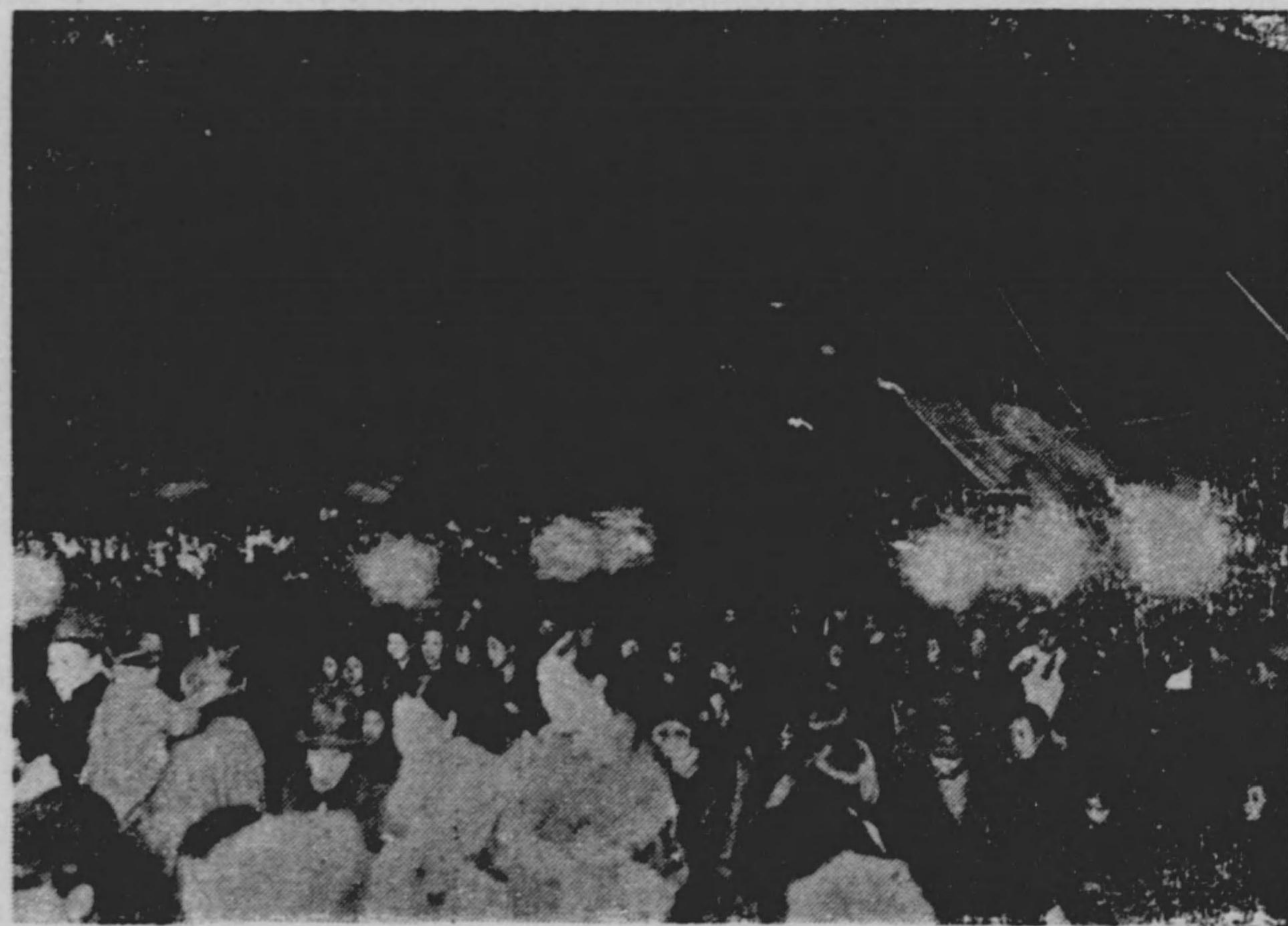
奥羽地方征討將軍の祈願所となり明治五年郷社に列せらる

○淨蓮寺 本町六丁目に在り本山の開基は本縣新田郡の人靈譽玉念上人なり學徳崇高にして夙に其名顯る天正年間安土城に於て日蓮の僧徒と法論を戦はし遂に之を説伏せしむ。織田信長深く之を感賞せり世に之を安土問答と云ふ慶安年間將軍徳川家光上人の碩徳を追賞し寺領若干を寄附せりと。樓閣宏壯にして寶物亦尠からず

○桐生ヶ岡公園 宮本町にある丘陵にして勅撰拾遺和歌集に載れる清原元輔の朝またき桐生の岡に立つ雉は千代のひつぎのはじめなりけり



郷社美和神社



西宮神社大祭の賑ひ



と詠せし皇家吉瑞の勝地と稱せらる櫻躑躅の名所として世に聞え造園の巧を極め配するに假山奇石四阿を以てし四季の花木妍を競ふて行樂の人を慰め各種の禽獸など飼ひて一入の感興を添へり。又園内には記念碑銅像軍事参考館等諸所に散在せり

淨運寺



○丸山 中世桐生氏の出丸なりしに砦山と云ふ市の西端に位し山頂より西方指呼の間に上野三山の秀峯を望み眼を轉すれば一望全市を納め眼下に渡良瀬の奔流を俯瞰す。  
明治三十五年六月三日 大正天皇太子殿下の御時行啓あらせられ風光を賞せられたる由緒あり

○雞足寺 新義真言別格本山にして兩毛線小俣驛北方栃木縣小俣町屋に在り昔金剛王院と稱せしも天慶二年田原藤太秀郷公平將門を調伏せし際雞足寺と

改む寺寶に弘法大師の眞筆金胎兩部大曼荼羅五大明王其の他の逸品あり山内には老松古杉鬱蒼として幽邃を極む同寺創建の因をなす石尊山は靈顯あらたかにして女人禁制の山なり。

天然の奇岩怪石巍然として聳え四顧に富む

○高津戸の奇勝 足尾線大間々驛東方約三丁山田郡大間々町及川内村境界を貫流する渡良瀬の溪谷に架する高津戸橋畔一帯を云ひ奇巖珍石躑躅し清流之に激しては珠玉の白沫を躍らしせかれて藍青の深潭を形成す。兩岸の險崖又天然の奇を極め春の綠秋の紅葉四季とりどりの眺飽くところを知らずあだかも一幅の名畫をなせり

○阿左美沼 兩毛線岩宿驛南方約五丁新田郡笠懸村大字阿左美に在り。中古淺海又は淡海「アザミ」と稱し今は阿左美沼と云ふ鯉鮒鱒遊樂を産し舟遊魚釣の設備あり。南に八幡山の一小丘あり風光絶佳にして一日の行樂に適す

○藪塚鑛泉 東武線藪塚驛の東方約五丁新田郡藪塚本町大字藪塚に在り。一を湯の入鑛泉一を瀧の入鑛泉と云ひ共に鹽類泉に屬し無色透明にして脚氣瘡癬胃病子宮病に特効あり。遠近の浴客絶ゆることなし



阿左美沼



○市内主要官公衙其他

名稱	所在地	電話番號
桐生 稅務署	永樂町二丁目	二、四三六
桐生 警察署	本町三丁目	二、一五五
新田區裁判所桐生出張所	東町	三、五二六
桐生 土木出張所	永樂町一丁目	二、一一四
桐生 郵便局	末廣町一丁目	二、一〇一
桐生 新宿郵便局	錦町一丁目	二、一四〇
桐生 本町郵便局	本町四丁目	二、一八八
桐生 本町二郵便局	本町二丁目	二、一八九
桐生 濱松町郵便局	濱松町二丁目	二、一九〇
桐生 境野郵便局	境野	二、一九一
鐵道省 桐生驛	末廣町三丁目	二、三二二
東武 線新桐生驛	廣澤町二丁目	二、七一五
上毛電鐵 西桐生驛	宮前町二丁目	三、二〇一
商工 桐生輸出織物検査所	永樂町四丁目	三、一七一
群馬縣 穀物検査所桐生支所	永樂町一丁目	二、一一三
群馬縣 木炭検査所	全	全
群馬縣 蠶業取締所	全	全
群馬縣 尾島支所桐生出張所	永樂町二丁目	二、〇一八
群馬縣 地方專賣局桐生煙草所	本町四丁目	二、六七三
高崎地方專賣局	本町四丁目	二、六七三
桐生 俱樂部	高砂町	二、七五五

昭和十四年三月十五日印刷  
昭和十四年三月二十日發行

〔非賣品〕

發行所 桐生市役所

桐生市宮前町二丁目一、七八四番地

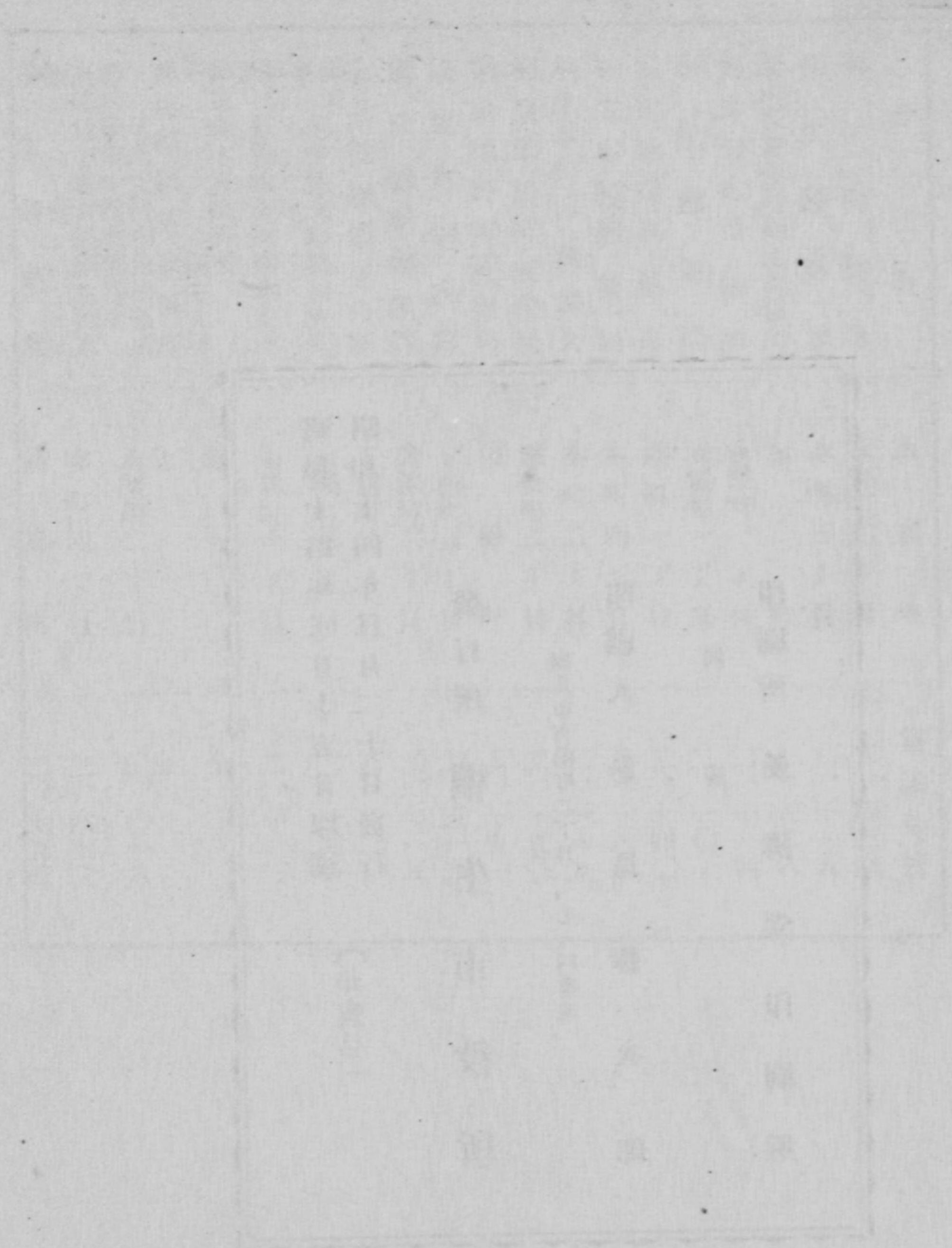
印刷人 卷島勝次郎

同所

印刷所 愛隣堂印刷所



14.4  
1108





147  
1108





Small white label on the left edge of the document.

Vertical white label on the left edge of the document.

